

審査意見等の対応を記載した書類（6月）目次

【化学・生命系理工学専攻(M/D)】

1. (改善意見) (1頁)

博士後期課程のディプロマ・ポリシーについて、学位を授与するに当たって身に付けるべき能力として掲げている項目が、学術的な分野を制限しているように見受けられるため、より柔軟な表現に改めること。

【機械・材料・海洋系工学専攻(M/D)、化学・生命系理工学専攻(M/D)、数物・電子情報系理工学専攻(M/D)】

2. (改善意見) (2頁)

学位に付記する専攻分野の名称及び学位の英訳名称について、説明すること。また、学位プログラムごとに修了要件が異なるが、学位プログラムによって違う学位名称とするのか、同じ学位名称とするのかについて大学としての考え方を明らかにすること。

【機械・材料・海洋系工学専攻(M/D)、化学・生命系理工学専攻(M/D)、数物・電子情報系理工学専攻(M/D)】

3. (改善意見) (4頁)

各専攻・教育プログラムごとにアドミッション・ポリシーが定められているが、入試の前段階からどのようなプロセスで学生が自身の希望や適性に合った教育プログラムを選択するのか、またそれぞれのアドミッション・ポリシーに沿った入試が適切に行われているのか不明確であるため、説明すること。また、入学後、教育プログラムの変更は可能なのか、学生の適性に応じて教育プログラム毎にどのように履修指導を行うのかについても明らかにすること。

【機械・材料・海洋系工学専攻(M/D)、化学・生命系理工学専攻(M/D)、数物・電子情報系理工学専攻(M/D)】

4. (要望意見) (12頁)

モジュールマネージャについて、どのような立場の人がいつの段階から指導を行うのか、指導教員との役割分担も含めて指導内容等を具体的に説明すること。

【機械・材料・海洋系工学専攻(M/D)、化学・生命系理工学専攻(M/D)、数物・電子情報系理工学専攻(M/D)】

5. (要望意見) (14頁)

修了要件として既定の取得単位数に加え「GPA 2.0以上」を求めているが、学生の多様な履修を妨げる可能性もあるため、修了要件に含めている意図及びどのように制度運用するのかを説明すること。

【機械・材料・海洋系工学専攻(M/D)、化学・生命系理工学専攻(M/D)、数物・電子情報系理工学専攻(M/D)】

6. (要望意見) (16頁)

専任教員について、大学等の職務に従事する週当たりの平均日数が5日にもかかわらず、月額基本給が0や少額である教員がいるが、当該教員の専任教員としての役割・責任が担保されていることを説明すること。

要望意見6において別途添付とした新旧対照表

- ・基本計画書（別記様式第2号（その1の1））に関わる事項 (17頁)
- ・教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））に関わる事項 (18頁)
- ・授業科目の概要（別記様式第2号（その3の1））に関わる事項 (39頁)
- ・シラバスに関わる事項 (59頁)
- ・教員の氏名等（別記様式第3号（その2の1））に関わる事項 (88頁)

別添資料 1-1	(101頁)
別添資料 1-2	(102頁)
別添資料 2-1	(103頁)
別添資料 2-2	(104頁)
別添資料 2-3	(110頁)
別添資料 2-4	(113頁)
別添資料 2-5	(116頁)
別添資料 3	(121頁)
別添資料 4	(122頁)
別添資料 5	(124頁)

(改善意見) 大学院理工学府 化学・生命系理工学専攻 (M・D)

1. 博士後期課程のディプロマ・ポリシーについて、学位を授与するに当たって身に付けるべき能力として掲げている項目が、学術的な分野を制限しているように見受けられるため、より柔軟な表現に改めること。

(対応)

当初は身に付けるべき能力として、専門的により具体的な能力を例示する意図から項目を記載したが、「学術的な分野を制限しているように見受けられる」という意見を踏まえて、より幅広い専門分野を記すとともに、身に付ける能力として具体的な学術的な専門分野を記載することなく、柔軟な表現となるように、修正・加筆した。

(新旧対照表)

新	旧
<p>P. 68</p> <p>理工学府が全体として定めるディプロマ・ポリシーに基づいて学位授与の基準を次のように定めた。原子の集合体としての分子や固体材料、分子の集合体としての有機材料は、その電子構造及び原子や分子の種類とその配列によって巨視的に現れる機能が大きく変化する。そのためその構造—機能発現相関を明らかにすることは物質化学の根幹をなす。また物質の持つ化学エネルギーを効率よく利用し、多様な情報に基づいて新素材を効率よく製造するプロセスの確立は、環境負荷を少なく効率的に物質を製造・利用するための最重要課題である。食料問題や生命・医療などのグローバルな課題の解決に生命現象の解明と応用が必要である。</p> <p>本専攻では、<u>物質・材料の基盤となる化学の諸分野、および材料工学、化学工学、生物工学、生化学等の分野において、</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの学位種 (理学・工学) に対応した高度な専門的知識、研究・開発能力 ・未知の問題に対して幅広い視野から柔軟かつ総合的に判断し解決できる能力 ・基礎知識を総合して応用技術を構築できる先進的な能力、および新たな産業の開拓を先導できる能力 ・自然科学の真理の探究を行うとともに、独創性豊かな新しい研究分野を開拓できる能力 <p><u>を身に付けた学生に学位を授与する。</u> <u>これらにより、理工学府が全体として目指す育成人材像を実現する。</u></p>	<p>P. 67-68</p> <p>理工学府が全体として定めるディプロマ・ポリシーに基づいて学位授与の基準を次のように定めた。原子の集合体としての分子や固体材料、分子の集合体としての有機材料は、その電子構造及び原子や分子の種類とその配列によって巨視的に現れる機能が大きく変化する。そのためその構造—機能発現相関を明らかにすることは物質化学の根幹をなす。また物質の持つ化学エネルギーを効率よく利用し、多様な情報に基づいて新素材を効率よく製造するプロセスの確立は、環境負荷を少なく効率的に物質を製造・利用するための最重要課題である。食料問題や生命・医療などのグローバルな課題の解決に生命現象の解明と応用が必要である。本専攻では以下の能力を身に付けた者に対して修了を認定し、学位を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい機能を発現する分子・材料の開発 ・製造や利用プロセスの開発 ・生命現象の解明と応用 ・物質と生命の課題を発見し地球環境に配慮して効率的に解決する力

(改善意見) 大学院理工学府 機械・材料・海洋系工学専攻 (M・D)
 化学・生命系理工学専攻 (M・D)
 数物・電子情報系理工学専攻 (M・D)

2. 学位に付記する専攻分野の名称及び学位の英訳名称について、説明すること。また、学位プログラムごとに修了要件が異なるが、学位プログラムによって違う学位名称とするのか、同じ学位名称とするのかについて大学としての考え方を明らかにすること。

(対応)

○学位に付記する専攻分野の名称及び学位の英訳名称について

理工学府では、各課程の修了者に以下の学位を授与する。

修士 (工学) (Master of Engineering)、修士 (理学) (Master of Science)

博士 (工学) (Doctor of Engineering)、博士 (理学) (Doctor of Science)

各課程・専攻の修了者に授与可能な学位と教育プログラムと取得可能な学位の関係は以下の表に示す通りである。

専攻名	教育プログラム	学位名	学位名称 (英語)
博士課程前期			
機械・材料・海洋系工学専攻	TEDプログラム	修士 (工学)	Master of Engineering
	PEDプログラム	修士 (工学)	Master of Engineering
化学・生命系理工学専攻	TEDプログラム	修士 (工学)	Master of Engineering
	PEDプログラム	修士 (工学)	Master of Engineering
	PSDプログラム	修士 (理学)	Master of Science
数物・電子情報系理工学専攻	TEDプログラム	修士 (工学)	Master of Engineering
	PEDプログラム	修士 (工学)	Master of Engineering
	PSDプログラム	修士 (理学)	Master of Science
	理学プログラム	修士 (理学)	Master of Science
博士課程後期			
機械・材料・海洋系工学専攻	TEDプログラム	博士 (工学)	Doctor of Engineering
	PEDプログラム	博士 (工学)	Doctor of Engineering
化学・生命系理工学専攻	TEDプログラム	博士 (工学)	Doctor of Engineering
	PEDプログラム	博士 (工学)	Doctor of Engineering
	PSDプログラム	博士 (理学)	Doctor of Science
数物・電子情報系理工学専攻	TEDプログラム	博士 (工学)	Doctor of Engineering
	PEDプログラム	博士 (工学)	Doctor of Engineering
	PSDプログラム	博士 (理学)	Doctor of Science
	理学プログラム	博士 (理学)	Doctor of Science

○学位プログラムの学位名称について

上の表に示した通り、各専攻には、多様な学位取得プログラムを準備した。TEDプログラムは、「一つの研究課題を深く掘り下げ、学位論文をまとめて学位を取得するプログラム (伝統的な学位取得プログラム)」、PEDプログラムは、「実践的な課題研究 (スタジオ) と講義科目から構成されるモジュールを複数実施し、ポートフォリオ (研究キャリアレポート) にまとめて学位を取得するプログラム」と要約される。両プログラム共に、理工学府において想定した輩出すべき人材を育成するプログラムであることに変わりはなく、工学の学位を取得するのに十分な学位プログラムであるため、学位名称は修士 (工学)、博士 (工学) とする。また、理学の学位を与える理学プログラムと PSD プログラムにおいても、理学プログラムは、「一つの研究課題を深く掘り下げ、学位論文をまとめて学位を取得するプログラム (伝統的な学位取得プログラム)」、PSD プログラムは、「高度な理学的基礎科学の知識と共に工学的価値観・社会的価値観を併せ持つ人材育成プログラム。理学分野の学生に対して、ワークショップやインターンシップにより企業で必要な様々なスキルをトレーニング。」と要約され、理工学府におい

て想定した輩出すべき人材を育成するプログラムであり、理学の学位を取得するのに十分な学位プログラムであるため、学位名称は修士（理学）、博士（理学）とする。

それぞれの学位名称の英語表記は、国際通用性、国内での通用性を鑑みて、修士（工学）が Master of Engineering、修士（理学）が Master of Science、博士（工学）が Doctor of Engineering、博士（理学）が Doctor of Science とする。

以上をふまえて、「設置の趣旨等を記載した書類」に加筆する。

（新旧対照表）

新	旧																																																																								
<p>P. 10 (2) 教育課程改編後の理工学府が授与する学位種とその特徴 次の2学位種、4教育プログラムの学位プログラムにより、理工学府の育成人材像を実現する。<u>学位名称の英語表記は、国際通用性、国内での通用性に配慮した。</u> ① <u>学位の名称</u> <u>理工学府では、各課程の修了者に以下の学位を授与する。</u> <u>修士（工学）(Master of Engineering)</u> <u>修士（理学）(Master of Science)</u> <u>博士（工学）(Doctor of Engineering)</u> <u>博士（理学）(Doctor of Science)</u> <u>各課程・専攻の修了者に授与可能な学位と教育プログラムと取得可能な学位の関係は表に記載の通りである。</u></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">専攻名</th> <th style="text-align: center;">教育プログラム</th> <th style="text-align: center;">学位名</th> <th style="text-align: center;">学位名称（英語）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">博士課程前期</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">機械・材料・海洋系工学専攻</td> <td>TEDプログラム</td> <td>修士（工学）</td> <td>Master of Engineering</td> </tr> <tr> <td>PEDプログラム</td> <td>修士（工学）</td> <td>Master of Engineering</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">化学・生命系理工学専攻</td> <td>TEDプログラム</td> <td>修士（工学）</td> <td>Master of Engineering</td> </tr> <tr> <td>PEDプログラム</td> <td>修士（工学）</td> <td>Master of Engineering</td> </tr> <tr> <td>PSDプログラム</td> <td>修士（理学）</td> <td>Master of Science</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">数物・電子情報系理工学専攻</td> <td>TEDプログラム</td> <td>修士（工学）</td> <td>Master of Engineering</td> </tr> <tr> <td>PEDプログラム</td> <td>修士（工学）</td> <td>Master of Engineering</td> </tr> <tr> <td>PSDプログラム</td> <td>修士（理学）</td> <td>Master of Science</td> </tr> <tr> <td>理学プログラム</td> <td>修士（理学）</td> <td>Master of Science</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">博士課程後期</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">機械・材料・海洋系工学専攻</td> <td>TEDプログラム</td> <td>博士（工学）</td> <td>Doctor of Engineering</td> </tr> <tr> <td>PEDプログラム</td> <td>博士（工学）</td> <td>Doctor of Engineering</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">化学・生命系理工学専攻</td> <td>TEDプログラム</td> <td>博士（工学）</td> <td>Doctor of Engineering</td> </tr> <tr> <td>PEDプログラム</td> <td>博士（工学）</td> <td>Doctor of Engineering</td> </tr> <tr> <td>PSDプログラム</td> <td>博士（理学）</td> <td>Doctor of Science</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">数物・電子情報系理工学専攻</td> <td>TEDプログラム</td> <td>博士（工学）</td> <td>Doctor of Engineering</td> </tr> <tr> <td>PEDプログラム</td> <td>博士（工学）</td> <td>Doctor of Engineering</td> </tr> <tr> <td>PSDプログラム</td> <td>博士（理学）</td> <td>Doctor of Science</td> </tr> <tr> <td>理学プログラム</td> <td>博士（理学）</td> <td>Doctor of Science</td> </tr> </tbody> </table>	専攻名	教育プログラム	学位名	学位名称（英語）	博士課程前期				機械・材料・海洋系工学専攻	TEDプログラム	修士（工学）	Master of Engineering	PEDプログラム	修士（工学）	Master of Engineering	化学・生命系理工学専攻	TEDプログラム	修士（工学）	Master of Engineering	PEDプログラム	修士（工学）	Master of Engineering	PSDプログラム	修士（理学）	Master of Science	数物・電子情報系理工学専攻	TEDプログラム	修士（工学）	Master of Engineering	PEDプログラム	修士（工学）	Master of Engineering	PSDプログラム	修士（理学）	Master of Science	理学プログラム	修士（理学）	Master of Science	博士課程後期				機械・材料・海洋系工学専攻	TEDプログラム	博士（工学）	Doctor of Engineering	PEDプログラム	博士（工学）	Doctor of Engineering	化学・生命系理工学専攻	TEDプログラム	博士（工学）	Doctor of Engineering	PEDプログラム	博士（工学）	Doctor of Engineering	PSDプログラム	博士（理学）	Doctor of Science	数物・電子情報系理工学専攻	TEDプログラム	博士（工学）	Doctor of Engineering	PEDプログラム	博士（工学）	Doctor of Engineering	PSDプログラム	博士（理学）	Doctor of Science	理学プログラム	博士（理学）	Doctor of Science	<p>P10 (2) 教育課程改編後の理工学府が授与する学位種とその特徴 次の2学位種、4教育プログラムの学位プログラムにより、理工学府の育成人材像を実現する。</p>
専攻名	教育プログラム	学位名	学位名称（英語）																																																																						
博士課程前期																																																																									
機械・材料・海洋系工学専攻	TEDプログラム	修士（工学）	Master of Engineering																																																																						
	PEDプログラム	修士（工学）	Master of Engineering																																																																						
化学・生命系理工学専攻	TEDプログラム	修士（工学）	Master of Engineering																																																																						
	PEDプログラム	修士（工学）	Master of Engineering																																																																						
	PSDプログラム	修士（理学）	Master of Science																																																																						
数物・電子情報系理工学専攻	TEDプログラム	修士（工学）	Master of Engineering																																																																						
	PEDプログラム	修士（工学）	Master of Engineering																																																																						
	PSDプログラム	修士（理学）	Master of Science																																																																						
	理学プログラム	修士（理学）	Master of Science																																																																						
博士課程後期																																																																									
機械・材料・海洋系工学専攻	TEDプログラム	博士（工学）	Doctor of Engineering																																																																						
	PEDプログラム	博士（工学）	Doctor of Engineering																																																																						
化学・生命系理工学専攻	TEDプログラム	博士（工学）	Doctor of Engineering																																																																						
	PEDプログラム	博士（工学）	Doctor of Engineering																																																																						
	PSDプログラム	博士（理学）	Doctor of Science																																																																						
数物・電子情報系理工学専攻	TEDプログラム	博士（工学）	Doctor of Engineering																																																																						
	PEDプログラム	博士（工学）	Doctor of Engineering																																																																						
	PSDプログラム	博士（理学）	Doctor of Science																																																																						
	理学プログラム	博士（理学）	Doctor of Science																																																																						

(改善意見) 大学院理工学府 機械・材料・海洋系工学専攻 (M・D)
化学・生命系理工学専攻 (M・D)
数物・電子情報系理工学専攻 (M・D)

3. 各専攻・教育プログラムごとにアドミッション・ポリシーが定められているが、入試の前段階からどのようなプロセスで学生が自身の希望や適性に合った教育プログラムを選択するのか、またそれぞれのアドミッション・ポリシーに沿った入試が適切に行われているのか不明確であるため、説明すること。また、入学後、教育プログラムの変更は可能なのか、学生の適性に依じて教育プログラム毎にどのように履修指導を行うのかについても明らかにすること。

(対応)

○入試の前段階からどのようなプロセスで学生が自身の希望や適性に合った教育プログラムを選択するのか

理工学府では、入学者選抜に先立ち、学内外に向けて、学府・専攻・教育プログラムの三つのポリシー（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）や各教員の教育・研究内容などについて、概ね5月ころ、学内学生を主な対象とした大学院入試説明会を各専攻・教育プログラムで開催し、学外学生を主な対象とした大学院説明会を学府・各専攻・教育プログラムで開催する。両日ともに、学内外の学生が参加可能となっている。特に、学外者を主な対象とした説明会では、本学の教育・研究に不案内である者もその内容がよくわかるように、学府長が大学・理工学府の教育・研究を詳細に説明した後、各専攻・教育プログラム単位に別れ、それぞれの各専攻・教育プログラムでさらに説明を行う。個別相談の時間も十分にとることで、周知を徹底する。本年度は、設置認可がおりていないので、入試説明会とはせず、新大学院説明会として、現段階で公開しうる情報を上記と同様のスケジュールで行った。新大学院の情報提供は、ホームページ上でも行われており、設置認可がおりていない状況下で、最大限の周知の努力を行っているところである。URLを参考として別添資料1とした。また、夏季休業期間にも同様の説明会を開催する。このように、十分に学内外の学生に周知することによって、上記の高い意欲を持った人材の獲得を目指す。大学院入試説明会に来学出来ない者に対しても、上記項目に関して募集要項への記載、ホームページなどの広報活動を通して十分な周知をする。例えば、参考として、現理工学府のホームページなどの広報活動の一例として、本学特有の教育プログラムであるPEDプログラムは、特に学外者には懇切丁寧な説明が必要であると考えられるため、PEDプログラムを記した、URLを参考として別添資料2とした。また、募集要項には各専攻の入試担当委員の連絡先が明示されており、入試や教務に関する問い合わせが出来るシステムになっている。また、募集要項には、教員の研究教育分野が示されているが、希望する研究室の教員に連絡するよう明記されており、学内外の出願希望のある学生と教員が受験前に十分な協議が行える制度となっている。これらの詳細なプログラムの紹介を通して、学内外の学生は、出願時に募集要項の記載に従って、教育プログラムを選択する。

新しく設置予定のPSDプログラム・理学プログラムのホームページの案内に掲載予定の項目は以下の通りである。

- ・教育プログラムの概要
- ・育成人材像と三つのポリシーについて
- ・修了生の進路情報
- ・大学院入試情報
- ・PSD、理学プログラムにおける履修方法などの教務関係情報
- ・その他

以上のことをふまえ、「設置の趣旨等を記載した書類」のP.75 [9] 入学者選抜の概要
(1) 理工学府の学府全体としてのアドミッション・ポリシー」に加筆する。

○アドミッション・ポリシーに沿った入試が適切に行われているのか

理工学府においては、設置が認められた後、アドミッション・ポリシーに沿った筆記による選抜試験が行われる。また、教育プログラムに求められる素養のうち筆記による選抜試験で測定にかからない学生の適性については、口頭試問において慎重に測定する。

各専攻では、教育プログラムのいかんにかかわらず、合格者の質を確認し、保証できるように、学力選抜試験が行われる。

機械・材料・海洋系工学専攻では、博士課程前期において、以下のアドミッション・ポリシーを掲げている。

工学 (TED) プログラム：機械工学分野では、機械工学又はそれに関連する航空宇宙工学分野に関する基礎的能力を有し、先進的な機械あるいは機械システムを構築するための高度な能力と専門知識を備えた人材を目指す人を求める。材料工学分野では、材料工学・材料科学又はそれに関連する航空宇宙工学分野に関する基礎的能力を有し、材料の力学と加工、材料の強度と組織、材料の機能と構造、材料の物理化学の各分野に関する高度な技術を学びたい人を求める。船舶海洋工学分野では、船舶海洋工学又はそれに関連する航空宇宙工学分野に関する基礎的能力を有し、海洋空間を利用するための技術や基盤技術を統合する技術に積極的に取り組める人を求める。さらに各分野においては、機械工学、材料工学、船舶海洋工学のそれぞれの分野に関する基礎知識に基づいて、大気圏・宇宙を利用するための航空宇宙工学に関する技術を学びたい人を求める。

工学 (PED) プログラム：機械工学分野では、機械工学又はそれに関連する航空宇宙工学分野に関する基礎的能力を有し、機械工学に係わる諸問題に対してグローバルに対応できる、実務能力を備えた人材を目指す人を求める。材料工学分野では、材料工学・材料科学又はそれに関連する航空宇宙工学分野に関する基礎的能力を有し、材料の力学と加工、材料の強度と組織、材料の機能と構造、材料の物理化学の各分野の実践的な技術を学びたい人を求める。船舶海洋工学分野では、船舶海洋工学又はそれに関連する航空宇宙工学分野に関する基礎的能力を有し、海洋空間を利用するための機器の計画、建造、運用に関する実践的な技術課題に積極的に取り組める人を求める。さらに各分野においては、機械工学、材料工学、船舶海洋工学のそれぞれの分野に関する基礎知識に基づいて、大気圏・宇宙を利用するための実践的な航空宇宙工学の技術課題に取り組みたい人を求める。

上記のように、TED、PED 教育プログラム共に、入学にあたって、基礎学力は保証される必要があり、以下の選抜試験を課す予定である。

- ・外国語 (TOEIC、TOEFL のスコア証明書を用いて選抜)
- ・数学 (線形代数学、微分積分学)
- ・質点系の力学、剛体の力学、熱力学、材料力学、機械力学、流体力学、制御工学、統計物理学、金属組織学

化学・生命系理工学専攻については、博士課程前期において、以下のアドミッション・ポリシーを掲げている。

工学 (TED) プログラム：物質・材料の基盤となる無機化学、分析化学、物理化学、有機化学等化学の諸分野、及び材料工学、化学工学、生物工学、生化学等に関する基礎的能力を有し、物質・材料の開発、製造プロセス、あるいはバイオ・ライフサイエンスに関する研究能力・開

発能力、及び自然に及ぼす影響や社会に対して負っている責任などを、総合的に判断できる能力を身に付けたい人を求める。さらに化学の諸分野、及び材料工学、化学工学、生物工学、生化学等に関する基礎知識に基づいて、エネルギー化学に関する技術を学びたい人を求める。

工学（PED）プログラム：物質・材料の基盤となる無機化学、分析化学、物理化学、有機化学等化学の諸分野、及び材料工学、化学工学、生物工学、生化学等に関する基礎的能力を有し、物質・材料並びにその創製プロセス、あるいはバイオ・ライフサイエンスに関する能力、基礎知識を総合して応用技術を構築する能力、及び自然に及ぼす影響や社会に対して負っている責任などを総合的に判断できる能力を身に付けたい人を求める。さらに化学の諸分野、及び材料工学、化学工学、生物工学、生化学等に関する基礎知識に基づいて、実践的なエネルギー化学に関する技術課題に取り組みたい人を求める。

理学（PSD）プログラム：無機化学、分析化学、物理化学、有機化学等化学の諸分野の基礎的な知識を有し、自然の真理追究と次世代基盤材料開発のための能力を身に付けるとともに、自らの専門分野における高度な専門性と、関連分野に対する広い視野を持つことにより、世界で活躍できる技術者・研究者などを目指す人を求める。

上記のように、TED、PED、PSDそれぞれの教育プログラム共に、入学時に保証されるべき基礎学力は同様に重要である。以下の選抜試験を課す予定である。

- ・外国語（TOEIC、TOEFL のスコア証明書を用いて選抜）
- ・数学（線形代数学、微分積分学）
- ・無機化学、分析化学、物理化学、有機化学、生物化学、無機化学、分析化学、有機工業化学、無機工業化学、生物化学、物理学（力学、熱力学の範囲）、生物学、化学工学、生化学、生物工学、医工学

数物・電子情報系理工学専攻においては、博士課程前期で以下のアドミッション・ポリシーを掲げている。

工学（TED）プログラム：電気・電子ネットワーク分野、情報システム分野、応用物理分野の基礎的な学力を有し、さらに高度な専門性を身につけ、未知の問題に対して幅広い視野から柔軟かつ総合的な判断を下して解決できる力を持つ、世界で活躍できる技術者・研究者を目指す人を求める。

工学（PED）プログラム：電気・電子ネットワーク分野、情報システム分野、応用物理分野の基礎的な学力を有し、多様化・高度化した産業社会の現代的課題に対応できる実務家型技術者・研究者となることに情熱を持つ人を求める。

理学（PSD）及び理学プログラム：物理学及び数学分野では、物理学又は数理科学の基礎的な知識を有し、その知見を活用する能力を有するとともに、自らの専門分野における高度な専門性と、関連分野に対する広い視野を持つことにより、世界で活躍できる技術者・研究者などを目指す人を求める。

この専攻の教育プログラムに関して整理する。

設置の趣旨にある通り、この専攻においては、二つの学位を授与する予定である。すなわち、工学と理学である。

このうち、工学の学位を授与するプログラムは、TED と PED である。上記のように、「電気・電子ネットワーク分野、情報システム分野、応用物理分野の基礎的な学力を有し」とある通り両プログラムとも保証されるべき基礎学力は共通である。

理学の学位を授与するプログラムは、PSD プログラム及び理学プログラムであり。PSD は理工学教育プログラムに、理学プログラムは数学分野に対応しており、それぞれのプログラムで保証されるべき基礎学力が異なる。以上を配慮し、以下の選抜試験を課す予定である。

TED、PED 教育プログラム

- ・外国語 (TOEIC、TOEFL のスコア証明書を用いて選抜)
- ・数学 (線形代数学、微分積分学)
- ・電磁気学、回路理論、論理回路、アルゴリズム

PSD 教育プログラム

- ・外国語 (TOEIC、TOEFL のスコア証明書を用いて選抜)
- ・数学 (線形代数学、微分積分学、)
- ・力学、電磁気学、熱・統計力学、量子力学

理学教育プログラム

- ・外国語 (TOEIC、TOEFL のスコア証明書を用いて選抜)
- ・線形代数学、微分積分学、集合、位相、代数、幾何、解析、確率論

学府全体で定めた博士課程前期の TED、PED 教育プログラムに関するアドミッション・ポリシーは、以下の通りである。

① 工学 (TED) プログラムのアドミッション・ポリシー

各専攻の専門分野の基盤となる学部レベルの能力を有し、さらに高度な専門性を身に付け、広い意味でのものづくりをとおしてグローバルに活躍できる高度専門職業人として技術者・研究者などを目指す人を求める。

② 工学 (PED) プログラムのアドミッション・ポリシー

各専攻の専門分野の基盤となる学部レベルの能力を有し、広い意味でのものづくりをとおして、多様化・高度化した産業社会の現代的課題に対応できる実務家型技術者・研究者を目指す人を求める。

PED、TED プログラムを学生が選択するのは、入試の前段階からの十分な周知によるものであり、学生の希望による。TED プログラムは伝統的な工学教育に立脚するものであるが、PED プログラムは、「実務家型技術者・研究者を目指す人を求める」とあるように、本学特有のプログラムである。このプログラムを志望する者に対しては、口頭試問によって、それぞれの専攻・教育プログラムに対応した「産業社会の現代的課題」を問う、あるいは、「実務家の意味」を問うなどして、その適性を測る。具体的な質問としては、「卒業論文の内容に関して簡潔に述べ、その研究内容が産業社会の現代的そして未来の課題とどういう関係にあると思うか？」などがあげられる。

以上のことにつき、「設置の趣旨の P.81 (b) 筆記試験選抜」に加筆する。

○入学後、教育プログラムの変更は可能なのか

入学前に十分に学生にそれぞれの教育プログラムの内容を周知する。また、次の回答に示した通り、学生への履修指導は徹底して行われる。現工学府においては、PED 教育プログラム設置以来 10 年が経過したが、徹底した入学前の周知と入学後の履修指導により、教育プログラムの変更を申し出た学生は皆無である。しかしながら、学生から適性についての疑問が生ずることは可能性としては考えうる。したがって、学生の履修及び修了に不利にならない範囲において、教務担当の教員による委員会と教授会の議を経て、教育プログラムの変更は許されることとする。制度上は、博士課程前期 1 年終了時に学生から教務担当教員への申し出を受け付ける。

上記について、「設置の趣旨等を記載した書類」の P.42」に加筆する。

○学生の適性に応じて教育プログラム毎にどのように履修指導を行うのか

伝統的な工学教育プログラムである TED、本学独自の工学教育プログラムである PED 共に、入学後すぐ指導教員が指定され、研究指導と共に学生の適性と身につけるべき能力を考慮に入れた履修指導が行われる。この指導は各学期・タームで行われる。さらに、各専攻の学期毎に行われるガイダンスによって履修指導が行われ、指導教員と教務担当教員の複数教員による指導体制で学生に対応する。また、学生には各専攻の教務担当教員のメールアドレスや研究室の電話番号が十分に周知されており、学期の途中でも随時、履修に関する相談が可能である。TED プログラムにおいては、修士論文の提出が課せられているが、研究指導を行う教員のみではなく、中間発表を行い各専攻・教育プログラムの全教員が各学生の研究遂行状況や学修状況を観察し、当該学生の現状について情報共有し、必要に応じて複数教員による指導が可能となっている。

理学の学位を授与するプログラムである PSD プログラム・理学プログラムにおいても TED プログラムと同様、入学後すぐ指導教員が指定され、研究指導と共に学生の適性と身につけるべき能力を考慮に入れた履修指導が行われる。PSD プログラム、理学プログラムにおいても、教務担当教員はガイダンスを学期毎に行い、十分な履修指導を行う。上記の TED プログラムと同様に、学生には各専攻の教務担当教員のメールアドレスや研究室の電話番号が十分に周知されており、学期の途中でも随時、履修に関する相談が可能である。また、PSD プログラム、理学プログラムでも中間発表は義務付けられており、それぞれの教育プログラムの教員は、複数で学生の指導を行う体制となっている。

PED 教育プログラムの履修形態は、下の図に示した通りである。学生はスタジオ科目を履修する。スタジオ科目は、高度なプロジェクト型の「実習・演習・研修」による「少人数制教育の場」と定義され、複数の担当教員の指導のもと、学生は、教育分野に関連したテーマについて、「実習・演習・研修」によって学修する。このスタジオの集合体がモジュールである。モジュールにはスタジオ科目に関係した講義科目があり、学生は当該教育分野のリテラシーを向上させるため、この講義科目も履修する。これらスタジオ科目と講義科目で1つのモジュールの履修が完成する。博士課程前期の学生は2年間で合計4つのモジュールを履修する。PED 教育プログラムで学修する者は、スタジオ科目と講義科目のほか、実務者としてのコンピテンシーを磨く学府共通科目も履修する。モジュール、スタジオ科目の一例を下の表に示した。モジュールマネージャは当該モジュールの学生の履修を管理することになる。

社会人が対象となる博士課程後期の PED でも1つのモジュールを履修し9単位を得ることが必須となっている。博士課程後期においては、博士論文の提出を義務付けているため、研究と論文作成の指導は指導教員が行う。

PED 教育プログラムでは、履修形態から、モジュールマネージャをはじめモジュールに所属する複数の教員による履修指導が行われる。スタジオ科目の複数の担当教員が履修する学生が学修計画書を作成する際、アドバイスを。また、複数のスタジオ科目の集合体であるモジュールのモジュールマネージャは、当該するモジュールを履修する学生の学修計画書を管理し、必要ある場合はアドバイスを行う。上述したモジュールマネージャの役割について、別添資料5として示した実施要項が定められ、手厚く履修指導が行われる。参考のため、現工学府で学生などに配布しているパンフレットを別添資料4とした。



以上について、「設置の趣旨等を記載した書類」P.39(1)教育方法及び履修指導方針①工学(TED)、理学(PSD)及び理学プログラムにおける履修指導と研究指導」と「P.42②工学(PED)プログラムにおける履修指導と研究指導」に加筆する。

(新旧対照表)

新	旧
<p>P. 39</p> <p>(1) 教育方法及び履修指導方針</p> <p>① 工学 (TED) , 理学 (PSD) 及び理学プログラムにおける履修指導と研究指導</p> <p>TED, PSD 及び理学プログラムでは、<u>入学後すぐ指導教員が指定され、研究指導と共に学生の適性と身につけるべき能力を考慮に入れた履修指導が行われる。この指導は各学期・タームで行われる。さらに、各専攻の大学院教務担当委員の教員が主催するガイダンスによって履修指導が行われ、指導教員と教務担当教員の複数教員による指導体制で学生の適性とコンピテンシー・リテラシーが担保される。</u></p> <p>工学 (TED) , 理学 (PSD) 及び理学プログラムにおける入学時から修了時までの履修指導と研究指導を、標準修了年限の場合</p>	<p>P. 39</p> <p>(1) 教育方法及び履修指導方針</p> <p>① 工学 (TED) , 理学 (PSD) 及び理学プログラムにおける履修指導と研究指導</p> <p>工学 (TED) , 理学 (PSD) 及び理学プログラムにおける入学時から修了時までの履修指導と研究指導を、標準修了年限の場合を例として、博士課程前期と博士課程後期に対して、それぞれ次の表に示す。</p>

<p>を例として、博士課程前期と博士課程後期に対して、それぞれ次の表に示す。</p> <p>P. 42</p> <p>② 工学 (PED) プログラムにおける履修指導と研究指導</p> <p>工学 (PED) プログラムにおける入学時から修了時までの履修指導と研究指導を、標準修了年限の場合を例として、博士課程前期と博士課程後期に対して、それぞれ以下の表に示す。</p> <p><u>PED プログラムでは、入学後すぐ指導教員が指定され、学生の適性と身につけるべき能力を考慮に入れた履修指導が行われる。この指導は各タームで行われる。また、モジュールマネージャをはじめモジュールに所属する複数の教員による履修指導を受けることができる。さらに、各専攻の大学院教務委員の教員が主催するガイダンスによって履修指導が行われ、指導教員、モジュールマネージャ及び教務担当教員の複数教員による指導体制によって適性とコンピテンシー・リテラシーが担保される。</u></p> <p>P. 42, 43</p> <p>(教育プログラムの変更)</p> <p><u>学生の履修及び修了に不利にならない範囲において教授会の議を経て、教育プログラムの変更は許される。</u></p> <p>P. 75</p> <p>[9] 入学者選抜の概要</p> <p>(1) 理工学府の学府全体としてのアドミッション・ポリシー</p> <p>理工学府では、理工系人材の基盤となる数理科学、情報技術並びに自らの専門分野における高い専門能力と倫理性を身に付けて、イノベーションによる産業力の更なる強化・発展に貢献することを目指し、ものづくりの根幹技術の継承発展及び予見されるこれからのものづくりへの対応を柱として、広く他分野や社会にも目を向けてグローバルに活躍する高い意欲を持った人を求める。<u>理工学府では、入学者選抜に先立</u></p>	<p>P. 42</p> <p>② 工学 (PED) プログラムにおける履修指導と研究指導</p> <p>工学 (PED) プログラムにおける入学時から修了時までの履修指導と研究指導を、標準修了年限の場合を例として、博士課程前期と博士課程後期に対して、それぞれ以下の表に示す。</p> <p>P. 75</p> <p>[9] 入学者選抜の概要</p> <p>(1) 理工学府の学府全体としてのアドミッション・ポリシー</p> <p>理工学府では、理工系人材の基盤となる数理科学、情報技術並びに自らの専門分野における高い専門能力と倫理性を身に付けて、イノベーションによる産業力の更なる強化・発展に貢献することを目指し、ものづくりの根幹技術の継承発展及び予見されるこれからのものづくりへの対応を柱として、広く他分野や社会にも目を向けてグローバルに活躍する高い意欲を持った人を求める。以下、それぞれ育成人材像とその教</p>
--	---

<p>ち、学内外に向けて、<u>学府・専攻・教育プログラムの三つのポリシーや各教員の教育・研究内容などについて、大学院入試説明会を開催し、十分に周知することによって、上記の高い意欲を持った人材の獲得を目指す。大学院入試説明会に来学出来ない者に対して、上記項目に関して募集要項への記載、ホームページなどの広報活動を通して十分な周知をする。例えば、ホームページなどの広報活動の一例として、PEDプログラムを記した、以下のURLを参考としてあげる。これらの詳細なプログラムの紹介を通して、学内外の学生は教育プログラムを選択する。</u></p> <p>http://ped-program.ynu.ac.jp/index.html</p> <p>以下、それぞれ育成人材像とその教育課程構造の特徴をプログラムごとに記す。</p> <p>P. 81</p> <p>(b) 筆記試験選抜</p> <p>入学者の選抜は学力検査（外国語（英語）、学科試験Ⅰ，学科試験Ⅱ），出願書類及び面接によって行う。なお、外国語（英語）の試験は、TOEIC, TOEFL のスコアを用いた選抜を実施する。<u>面接においては、学力検査によって測れない学生の適性について、口頭試問を行う。</u></p>	<p>育課程構造の特徴をプログラムごとに記す。</p> <p>P. 81</p> <p>(b) 筆記試験選抜</p> <p>入学者の選抜は学力検査（外国語（英語）、学科試験Ⅰ，学科試験Ⅱ），出願書類及び面接によって行う。なお、外国語（英語）の試験は、TOEIC, TOEFL のスコアを用いた選抜を実施する。</p>
--	--

(要望意見) 大学院理工学府 機械・材料・海洋系工学専攻 (M・D)
 化学・生命系理工学専攻 (M・D)
 数物・電子情報系理工学専攻 (M・D)

4. モジュールマネージャについて、どのような立場の人がいつの段階から指導を行うのか、指導教員との役割分担も含めて指導内容等を具体的に説明すること。

(対応)

PED 教育プログラムのスタジオとモジュールなどについて、整理する。

- ・スタジオ 高度なプロジェクト型の「実習・演習・研修」による「少人数制教育の場」。各スタジオにはスタジオ科目を担当し、指導する複数の教員がいる

- ・モジュール 上記のスタジオ科目とそれに関連した講義やインターンシップからなる集合体であり、概ね学修する学問分野でまとまっている。上記の指導をするスタジオ科目担当教員から互選されたモジュールマネージャが学生の履修の指導・管理をする。PED で学ぶ学生は、修了までに複数のモジュールを履修する。

- ・ポートフォリオ 各モジュール・スタジオでの学びや研究した内容をレポート形式でまとめ、各学期に提出する。ポートフォリオは修了までに複数提出され、博士課程前期においては修士論文に代えて修了要件となる。

モジュールマネージャは、当該モジュールを構成するスタジオ科目を担当する複数の教員の中から互選された責任者で、当該モジュールの履修登録をしたプログラム履修生がスタジオ担当教員の指導のもとで作成した学修計画書(別添資料3)に関する指導・承認を学期の初期段階で行い、PED プログラムを履修する学生を指導する。また、学修計画の進捗状況を確認するとともにスタジオ担当教員を通じてあるいは直接プログラム履修生に対して適宜助言を行う。成績評価についても、学期あるいはタームの期末期間にスタジオ科目の研究成果などを総括する報告会などを各分野の内規に従って企画・実施し、スタジオ科目を担当する教員との合議をもとに行う。スタジオ科目では、科目を担当する複数の教員が履修する複数の学生に対して、高度なプロジェクト型の「実習・演習・研修」を通して学修指導を行う。入学後すぐに指定される指導教員は、学生の学生生活全般を指導し、ポートフォリオの作成や発表会でのプレゼンテーションの内容についての指導も行う。

以上のモジュールマネージャの役割について、「設置の趣旨等を記載した書類」に加筆し、具体の「PED プログラム実施要項」を別添資料5として添付する。

(新旧対照表)

新	旧
<p>P. 42</p> <p>② 工学 (PED) プログラムにおける履修指導と研究指導</p> <p>工学 (PED) プログラムにおける入学時から修了時までの履修指導と研究指導を、標準修了年限の場合を例として、博士課程前期と博士課程後期に対して、それぞれ以下の表に示す。</p> <p><u>PED プログラムでは、入学後すぐ指導教員が指定され、学生の適性と身につけるべき能</u></p>	<p>P. 42</p> <p>② 工学 (PED) プログラムにおける履修指導と研究指導</p> <p>工学 (PED) プログラムにおける入学時から修了時までの履修指導と研究指導を、標準修了年限の場合を例として、博士課程前期と博士課程後期に対して、それぞれ以下の表に示す。</p>

力を考慮に入れた履修指導が行われる。この指導は各タームで行われる。また、モジュールマネージャをはじめモジュールに所属する複数の教員による履修指導を受けることができる。さらに、各専攻のガイダンスで履修指導が行われ、指導教員、モジュールマネージャ及び教務担当教員の複数教員による指導体制によって適性とコンピテンシー・リテラシーが担保される。

モジュールマネージャの役割については、現工学府「PED プログラム実施要項」に記載の通りであり、理工学府設置後は、理工学府版「PED プログラム実施要項」に改定する。参考資料として、理工学府版「PED プログラム実施要項（案）」を別添資料 12 として掲載した。

(要望意見) 大学院理工学府 機械・材料・海洋系工学専攻 (M・D)
 化学・生命系理工学専攻 (M・D)
 数物・電子情報系理工学専攻 (M・D)

5. 修了要件として既定の取得単位数に加え「GPA 2.0以上」を求めているが、学生の多様な履修を妨げる可能性もあるため、修了要件に含めている意図及びどのように制度運用するのか説明すること。

(対応)

GPAを修了要件に含めている意図及び制度運用方法について、以下の点に留意し、「設置の趣旨等を記載した書類」に加筆する。

○ 修了要件に含めている意図について

本学では「大学教育の質的向上」と「国際的水準に見合った成績評価」を目的に、「平成15年度の学部入学生、平成21年度の大学院入学生からGPA制度を導入しており、理工学府においてもGPAを修了要件に含める。

○ どのように制度運用し、学生に対する配慮をするのかについて

制度運用にあたっては、指導教員 (PED プログラムにおいては、モジュールマネージャを含む)、教務担当教員が、履修学生の各学期の開始当初に当該学期の履修・学修計画を確認したあと履修指導を行い、学期期間中にも学生と面接を行う。履修時においては、学生と指導教員の間で身につけるべきリテラシーとコンピテンシーについて十分な議論が行われ、多様な履修を妨げることはない。

学期当初の履修登録 (春学期の場合4月上旬) から約1ヶ月以上 (春学期の場合5月中旬) の後に「履修の修正」を行うことが出来る。学生はこの期間に実際の講義を受け、履修を行うかどうかの判断をすることになる。その後、さらに「履修キャンセル」の手続きを行う制度となっているため、学生は履修を2度見直すことが出来る。この間、学生は自らの身につけるべきリテラシーとコンピテンシーについて熟慮することになる。また、「履修キャンセル」時、教務担当事務に提出する書類には指導教員の署名と捺印が要求されており、指導教員は学生の履修状況を確認することが義務付けられている。すなわち、指導教員が学生と密に履修について話し合い、指導を行うことが、制度化されている。このような履修制度が実施されているため、指導教員の指導によって学生の身につけるべきリテラシーとコンピテンシーが保証された上で、GPAの分母となる履修科目数は、最適化される。現理工学府においては、GPA2.0以上を修了要件とすることで、修了の妨げとなった例はない。

成績不振学生に対しては指導教員と教務担当教員が個別指導を行うなどの対応を行い、保健管理センターの教員 (医師、臨床心理士) への相談も可能であり、必要に応じてチームで対応する。

以上をふまえて、「設置の趣旨等を記載した書類」に加筆する。

(新旧対照表)

新	旧
P47 * 成績評価の基準 「秀 (成績 90 点以上)」は、履修目標を十分達成しており、さらに履修目標を上回る成績をおさめていること 「優 (成績 89~80 点)」は、履修目標を十分達成しており、「秀」に次ぐ優秀な成績をおさめていること ・GPA とその基準	P47 * 成績評価の基準 「秀 (成績 90 点以上)」は、履修目標を十分達成しており、さらに履修目標を上回る成績をおさめていること 「優 (成績 89~80 点)」は、履修目標を十分達成しており、「秀」に次ぐ優秀な成績をおさめていること GPA は各科目の GP にその単位数を掛け

<p>本学では「<u>大学教育の質的向上</u>」と「<u>国際的水準に見合った成績評価</u>」を目的に、平成 15 年度の学部入学生、平成 21 年度の大学院入学生から GPA 制度を導入しており、理工学府においても GPA を修了要件に含める。</p> <p>GPA は各科目の GP にその単位数を掛けたものの和を、履修登録単位数で割って得られる値とし、GPA2.0 以上を修了要件とする。</p> <p>制度運用にあたっては<u>修学の妨げにならないよう配慮する</u>。具体的には、<u>指導教員等が各学期の開始当初に学生と面接を行い、前学期までの学修状況を確認し課題を学生と共有した上で、当該学期の履修・学修計画を確認するとともに、学期期間中も必要に応じて面談を行う</u>。PED プログラムにおいては、<u>モジュールマネージャも指導教員と共に履修指導を行う</u>。また、<u>各専攻で成績不振学生基準を設定して、該当する学生に対しては指導教員が個別指導を行う</u>。各学生の学修状況は、<u>専攻の教務担当教員が取り纏め、関係教員で共有する</u>。なお、<u>学生は、指導教員、教務担当教員のほか、保健管理センター教員などにも相談することができる</u>。これらの関係教員間で情報を共有し、必要に応じてチームで対応する。</p>	<p>たものの和を、履修登録単位数で割って得られる値とする。</p>
---	------------------------------------

(要望意見) 大学院理工学府 機械・材料・海洋系工学専攻 (M・D)
 化学・生命系理工学専攻 (M・D)
 数物・電子情報系理工学専攻 (M・D)

6. 専任教員について、大学等の職務に従事する週当たりの平均日数が5日にもかかわらず、月額基本給が0や少額である教員がいるが、当該教員の専任教員としての役割・責任が担保されていることを説明すること。

(対応)

当該教員は、連携講座の教員であるため、当該教員の専任教員担当を取りやめることとする。

大学等の職務に従事する週当たりの平均日数については、連携講座教員が、本学での授業、学修・研究指導のほか、当該教員の所属する研究所・研究機構においてもインターネットを通して研究指導を行う、また当該教員の所属する研究所・研究機構に学生が赴いて学修指導・研究指導を受ける、または、実験実習などによる研究指導を受けるなどを想定しており、これらの業務形態を通して当該教員は本学の業務を行うため5日とした。また、月額基本給が少額である教員についても、連携講座の教員に現在付与される非常勤講師の給与であるためであり、月額基本給が0との記載のものは、本務先の規定などにより担保される講義の非常勤講師の給与を辞退されている故に0となっている。今回の補正審査にあたり、本学の専任教員に要求されるFD活動や管理運営業務に関して、携わることにより支障があると判断し、連携講座の教員の専任教員担当を取りやめることとする。

「設置の趣旨等を記載した書類」(p.38)に連携講座の教員の役割を以下のように説明している。

「連携講座の客員教員による講義により、専任教員でカバーできない分野や実践的な分野を補完して教育を行う。」

連携講座の教員と本学教員が連携して行うことを予定していた講義科目は、非常勤講師として担当いただくが、その場合でも上記の説明にあるように「補完して教育を行う」ことは十分に可能であり、理工学府の学生に不利益となることはない。また、連携講座の教員のみで行う予定であった講義科目についても、本学専任の教員が主たる担当教員となり、当該科目を担保することで、理工学府の学生に不利益とならないよう配慮する。

以上をふまえて、(新旧対照表)にある通りの対応をする。

(新旧対照表)

新	旧
別途添付	

2 ページ
教員組織の概要

教員組織の概要	学部等の名称	専任教員等					兼任教員等		
		教授	准教授	講師	助教	計			助手
新	理工学府								
	(博士課程前期)	18	20	3	5	46	2	67	
	機械・材料・海洋系工学専攻	(18)	(20)	(3)	(5)	(46)	(2)	(67)	
		18	18	2	4	42	7	71	
	化学・生命系理工学専攻	(18)	(18)	(2)	(4)	(42)	(7)	(71)	
		21	27	0	9	57	4	56	
	数物・電子情報系理工学専攻	(21)	(27)	(0)	(9)	(57)	(4)	(56)	
	(博士課程後期)	17	20	1	5	43	2	6	
	機械・材料・海洋系工学専攻	(17)	(20)	(1)	(5)	(43)	(2)	(6)	
		15	18	2	4	39	7	5	
	化学・生命系理工学専攻	(15)	(18)	(2)	(4)	(39)	(7)	(5)	
		21	27	0	9	57	4	2	
	数物・電子情報系理工学専攻	(21)	(27)	(0)	(9)	(57)	(4)	(2)	
	環境情報学府								
	(博士課程前期)	16	14	1	0	31	0	41	平成29年3月設置計画書提出済み
	人工環境専攻	(16)	(14)	(1)	(0)	(31)	(0)	(41)	
		8	8	0	0	16	0	56	
	自然環境専攻	(8)	(8)	(0)	(0)	(16)	(0)	(56)	
		12	8	2	0	22	0	50	
	情報環境専攻	(12)	(8)	(2)	(0)	(22)	(0)	(50)	
(博士課程後期)	14	14	1	0	29	0	41		
人工環境専攻	(14)	(14)	(1)	(0)	(29)	(0)	(41)		
	8	8	0	0	16	0	55		
自然環境専攻	(8)	(8)	(0)	(0)	(16)	(0)	(55)		
	12	8	2	0	22	0	49		
情報環境専攻	(12)	(8)	(2)	(0)	(22)	(0)	(49)		
計	93	95	8	18	214	13	-		
	(93)	(95)	(8)	(18)	(214)	(13)	(-)		
(略)									
合 計		285	212	10	37	544	9	-	
		(285)	(212)	(10)	(37)	(544)	(9)	(-)	

2 ページ
教員組織の概要

教員組織の概要	学部等の名称	専任教員等					兼任教員等		
		教授	准教授	講師	助教	計			助手
旧	理工学府								
	(博士課程前期)	21	23	3	5	52	2	61	
	機械・材料・海洋系工学専攻	(21)	(23)	(3)	(5)	(52)	(2)	(61)	
		20	19	2	4	45	7	68	
	化学・生命系理工学専攻	(20)	(19)	(2)	(4)	(45)	(7)	(68)	
		24	27	0	9	60	4	53	
	数物・電子情報系理工学専攻	(24)	(27)	(0)	(9)	(60)	(4)	(53)	
	(博士課程後期)	20	23	1	5	49	2	0	
	機械・材料・海洋系工学専攻	(20)	(23)	(1)	(5)	(49)	(2)	(0)	
		17	19	2	4	42	7	2	
	化学・生命系理工学専攻	(17)	(19)	(2)	(4)	(42)	(7)	(2)	
		24	27	0	9	60	4	0	
	数物・電子情報系理工学専攻	(24)	(27)	(0)	(9)	(60)	(4)	(0)	
	環境情報学府								
	(博士課程前期)	16	14	1	0	31	0	41	平成29年3月設置計画書提出済み
	人工環境専攻	(16)	(14)	(1)	(0)	(31)	(0)	(41)	
		8	8	0	0	16	0	56	
	自然環境専攻	(8)	(8)	(0)	(0)	(16)	(0)	(56)	
		12	8	2	0	22	0	50	
	情報環境専攻	(12)	(8)	(2)	(0)	(22)	(0)	(50)	
(博士課程後期)	15	14	1	0	30	0	41		
人工環境専攻	(15)	(14)	(1)	(0)	(30)	(0)	(41)		
	8	8	0	0	16	0	55		
自然環境専攻	(8)	(8)	(0)	(0)	(16)	(0)	(55)		
	12	8	2	0	22	0	49		
情報環境専攻	(12)	(8)	(2)	(0)	(22)	(0)	(49)		
計	101	99	8	18	226	13	-		
	(101)	(99)	(8)	(18)	(226)	(13)	(-)		
(略)									
合 計		293	216	10	37	556	9	-	
		(293)	(216)	(10)	(37)	(556)	(9)	(-)	

別記様式第2号 (その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

Table with columns: 科目区分, 授業科目の名称, 配当年次, 単位数, 実演, 演習, 自由, 必修, 履修, 備考. Rows include subjects like '理工学概論' and '英語I'.

別記様式第2号 (その2の2)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

Table with columns: 科目区分, 授業科目の名称, 配当年次, 単位数, 実演, 演習, 自由, 必修, 履修, 備考. Rows include subjects like '理工学概論' and '英語II'.

別記様式第2号 (その2の1)

別記様式第2号 (その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態	実 験 演 習	助 教 員	助 手	備 考	
			必修	選択						
理工学専攻 専攻科目 目録	数値解析演習	1-20~⑤	2	0	○		1			
	数値解析演習	1-20~⑥	2	0	○		1			
	数値解析演習	1-20~⑦	2	0	○		1			
	反応気体力学	1-20~⑧	2	0	○		1			
	宇宙推進工学	10~⑤	2	0	○		1			
	航空宇宙利用工学	1-20~②	2	0	○		1			
	小計 (計科目)	—	—	0	22	0	7	4	0	0
	メカトニクスデザイン	1-20~⑥	2	0	○		1			
	高速機械加工	10~②	2	0	○		1			
	破壊強度学	10~③	2	0	○		1			
	希薄気体力学	10~④	2	0	○		1			
	アドバンスドロボティクス	10~⑤	2	0	○		1			
	知能ロボットエージェント	10~⑥	2	0	○		1			
	運送体力学	1-20~⑦	2	0	○		1			
	応用運送体力学	10~⑤	2	0	○		1			
	アクチュエータ設計論	10~⑥	2	0	○		1			
	マイクロマシン工学	1-20~⑦	2	0	○		1			
	複合材料論	10~⑤	2	0	○		1			
	応用熱伝導工学	10~⑥	2	0	○		1			
	サイバーロボティクス	1-20~⑤	2	0	○		1			
センシング工学	10~⑤	2	0	○		1				
機械工学演習A	10~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習B	10~③④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習C	20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習D	20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習E	20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習F	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習G	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習H	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習I	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習J	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習K	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習L	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習M	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習N	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習O	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習P	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習Q	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習R	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習S	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習T	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習U	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習V	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習W	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習X	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習Y	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習Z	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態	実 験 演 習	助 教 員	助 手	備 考	
			必修	選択						
理工学専攻 専攻科目 目録	数値解析演習	1-20~⑤	2	0	○		1			
	数値解析演習	1-20~⑥	2	0	○		1			
	数値解析演習	1-20~⑦	2	0	○		1			
	反応気体力学	1-20~⑧	2	0	○		1			
	宇宙推進工学	10~⑤	2	0	○		1			
	航空宇宙利用工学	1-20~②	2	0	○		1			
	小計 (計科目)	—	—	0	22	0	7	4	0	0
	メカトニクスデザイン	1-20~⑥	2	0	○		1			
	高速機械加工	10~②	2	0	○		1			
	破壊強度学	10~③	2	0	○		1			
	希薄気体力学	10~④	2	0	○		1			
	アドバンスドロボティクス	10~⑤	2	0	○		1			
	知能ロボットエージェント	10~⑥	2	0	○		1			
	運送体力学	1-20~⑦	2	0	○		1			
	応用運送体力学	10~⑤	2	0	○		1			
	アクチュエータ設計論	10~⑥	2	0	○		1			
	マイクロマシン工学	1-20~⑦	2	0	○		1			
	複合材料論	10~⑤	2	0	○		1			
	応用熱伝導工学	10~⑥	2	0	○		1			
	サイバーロボティクス	1-20~⑤	2	0	○		1			
センシング工学	10~⑤	2	0	○		1				
機械工学演習A	10~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習B	10~③④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習C	20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習D	20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習E	20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習F	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習G	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習H	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習I	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習J	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習K	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習L	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習M	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習N	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習O	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習P	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習Q	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習R	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習S	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習T	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習U	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習V	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習W	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習X	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習Y	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		
機械工学演習Z	1-20~②④⑥	2	0	○		10	11	3		

別記様式第2号 (その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態	単任教員等の配置		備考
			必修	選択		准教授	助手	
		1・2D②・③・④ ～⑤	2	4	○	4	6	
●	海洋宇宙システム工学海外特別研修	1・2D②・③・④ ～⑤	4	6	○	6	7	
●	海洋空間基礎演習	1・2D②・③・④ ～⑤	4	6	○	6	7	
●	海洋宇宙システム工学実践演習	1・2D②・③・④ ～⑤	4	6	○	6	7	
●	Special Lecture on Ocean and Space Engineering A	1・2D②・③・④ ～⑤	1	4	○	4	4	集中
●	Special Lecture on Ocean and Space Engineering B	1・2D②・③・④ ～⑤	1	4	○	4	4	集中
●	Special Lecture on Ocean and Space Engineering C	1・2D②・③・④ ～⑤	1	4	○	4	4	集中
●	Special Lecture on Ocean and Space Engineering D	1・2D②・③・④ ～⑤	1	4	○	4	4	集中
●	日伯特別講義 A	1・2D②	3	4	○	3	4	
●	日伯特別講義 B	1・2D②	2	3	○	3	4	
●	日伯特別講義 C	1・2D②	4	3	○	3	4	
●	日伯特別講義 D	1・2D②	2	3	○	3	4	
●	海洋宇宙システム工学インターナショナル	1・2D②・③・④ ～⑤	4	6	○	6	7	
●	海洋宇宙システム工学インターナショナルPM	1・2D②・③・④ ～⑤	4	6	○	6	7	
●	海洋宇宙システム工学インターナショナルPS	1・2D②・③・④ ～⑤	1	6	○	6	7	
●	任意選択科目	1・2D②	2	1	○	1	1	
●	材料強度・破壊力学特論	1・2D②	2	1	○	1	1	
●	宇宙飛行体製造論	1・2D②	2	1	○	1	1	
●	航空機空力設計論	1・2D②	2	1	○	1	1	
●	宇宙機空力設計論	1・2D②	2	1	○	1	1	兼1
●	宇宙機システム学特論	1・2D②	2	1	○	1	1	兼1
●	航空宇宙工学演習C	2D②・③・④ ～⑤	2	5	○	2	5	
●	航空宇宙工学演習D	2D②・③・④ ～⑤	2	5	○	2	5	
●	加工システム設計A	1・2D②・③・④ ～⑤	4	3	○	3	2	
●	加工システム設計B	1・2D②・③・④ ～⑤	4	3	○	3	2	
●	加工システム製作A	1・2D②・③・④ ～⑤	4	3	○	3	2	
●	加工システム製作B	1・2D②・③・④ ～⑤	4	3	○	3	2	
●	熱流体システム設計A	1・2D②・③・④ ～⑤	4	4	○	4	5	
●	熱流体システム設計B	1・2D②・③・④ ～⑤	4	4	○	4	5	
●	熱流体システム製作A	1・2D②・③・④ ～⑤	4	4	○	4	5	
●	熱流体システム製作B	1・2D②・③・④ ～⑤	4	4	○	4	5	
●	統合システム設計A	1・2D②・③・④ ～⑤	4	3	○	3	3	
●	統合システム設計B	1・2D②・③・④ ～⑤	4	3	○	3	3	
●	統合システム製作A	1・2D②・③・④ ～⑤	4	3	○	3	3	
●	統合システム製作B	1・2D②・③・④ ～⑤	4	3	○	3	3	
●	材料設計システム	1・2D②・③・④ ～⑤	4	4	○	4	1	
●	材料製システム	1・2D②・③・④ ～⑤	4	2	○	2	3	
●	組織制御システム	1・2D②・③・④ ～⑤	4	2	○	2	3	
●	材料特性システム	1・2D②・③・④ ～⑤	4	2	○	2	3	
●	材料工学&Dシステム A	1・2D②・③・④ ～⑤	4	5	○	5	5	
●	材料工学&Dシステム B	1・2D②・③・④ ～⑤	4	5	○	5	5	
●	海洋空間流体力学システムA	1・2D②・③・④ ～⑤	4	1	○	1	2	
●	海洋空間流体力学システムB	1・2D②・③・④ ～⑤	4	1	○	1	2	
●	海洋空間構造力学システムA	1・2D②・③・④ ～⑤	4	2	○	2	2	
●	海洋空間構造力学システムB	1・2D②・③・④ ～⑤	4	2	○	2	2	
●	海洋空間利用システムA	1・2D②・③・④ ～⑤	4	2	○	2	2	

別記様式第2号 (その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態	単任教員等の配置		備考
			必修	選択		准教授	助手	
		1・2D②・③・④ ～⑤	2	4	○	4	6	
●	海洋宇宙システム工学海外特別研修	1・2D②・③・④ ～⑤	4	6	○	6	7	
●	海洋空間基礎演習	1・2D②・③・④ ～⑤	4	6	○	6	7	
●	海洋宇宙システム工学実践演習	1・2D②・③・④ ～⑤	4	6	○	6	7	
●	Special Lecture on Ocean and Space Engineering A	1・2D②・③・④ ～⑤	1	4	○	4	4	集中
●	Special Lecture on Ocean and Space Engineering B	1・2D②・③・④ ～⑤	1	4	○	4	4	集中
●	Special Lecture on Ocean and Space Engineering C	1・2D②・③・④ ～⑤	1	4	○	4	4	集中
●	Special Lecture on Ocean and Space Engineering D	1・2D②・③・④ ～⑤	1	4	○	4	4	集中
●	日伯特別講義 A	1・2D②	3	4	○	3	4	
●	日伯特別講義 B	1・2D②	2	3	○	3	4	
●	日伯特別講義 C	1・2D②	4	3	○	3	4	
●	日伯特別講義 D	1・2D②	2	3	○	3	4	
●	海洋宇宙システム工学インターナショナル	1・2D②・③・④ ～⑤	4	6	○	6	7	
●	海洋宇宙システム工学インターナショナルPM	1・2D②・③・④ ～⑤	4	6	○	6	7	
●	海洋宇宙システム工学インターナショナルPS	1・2D②・③・④ ～⑤	1	6	○	6	7	
●	任意選択科目	1・2D②	2	1	○	1	1	
●	材料強度・破壊力学特論	1・2D②	2	1	○	1	1	
●	宇宙飛行体製造論	1・2D②	2	1	○	1	1	
●	航空機空力設計論	1・2D②	2	1	○	1	1	
●	宇宙機空力設計論	1・2D②	2	1	○	1	1	兼1
●	宇宙機システム学特論	1・2D②	2	1	○	1	1	兼1
●	航空宇宙工学演習C	2D②・③・④ ～⑤	2	5	○	2	5	
●	航空宇宙工学演習D	2D②・③・④ ～⑤	2	5	○	2	5	
●	加工システム設計A	1・2D②・③・④ ～⑤	4	3	○	3	2	
●	加工システム設計B	1・2D②・③・④ ～⑤	4	3	○	3	2	
●	加工システム製作A	1・2D②・③・④ ～⑤	4	3	○	3	2	
●	加工システム製作B	1・2D②・③・④ ～⑤	4	3	○	3	2	
●	熱流体システム設計A	1・2D②・③・④ ～⑤	4	4	○	4	5	
●	熱流体システム設計B	1・2D②・③・④ ～⑤	4	4	○	4	5	
●	熱流体システム製作A	1・2D②・③・④ ～⑤	4	4	○	4	5	
●	熱流体システム製作B	1・2D②・③・④ ～⑤	4	4	○	4	5	
●	統合システム設計A	1・2D②・③・④ ～⑤	4	3	○	3	3	
●	統合システム設計B	1・2D②・③・④ ～⑤	4	3	○	3	3	
●	統合システム製作A	1・2D②・③・④ ～⑤	4	3	○	3	3	
●	統合システム製作B	1・2D②・③・④ ～⑤	4	3	○	3	3	
●	材料設計システム	1・2D②・③・④ ～⑤	4	4	○	4	1	
●	材料製システム	1・2D②・③・④ ～⑤	4	2	○	2	3	
●	組織制御システム	1・2D②・③・④ ～⑤	4	2	○	2	3	
●	材料特性システム	1・2D②・③・④ ～⑤	4	2	○	2	3	
●	材料工学&Dシステム A	1・2D②・③・④ ～⑤	4	5	○	5	5	
●	材料工学&Dシステム B	1・2D②・③・④ ～⑤	4	5	○	5	5	
●	海洋空間流体力学システムA	1・2D②・③・④ ～⑤	4	1	○	1	2	
●	海洋空間流体力学システムB	1・2D②・③・④ ～⑤	4	1	○	1	2	
●	海洋空間構造力学システムA	1・2D②・③・④ ～⑤	4	2	○	2	2	
●	海洋空間構造力学システムB	1・2D②・③・④ ～⑤	4	2	○	2	2	
●	海洋空間利用システムA	1・2D②・③・④ ～⑤	4	2	○	2	2	

旧

別記様式第2号 (その2の1)

Table with columns: 科目区分, 授業科目の名称, 配当年次, 単位数, 授業形態, 単位数, 必修, 選択, 自由, 実演, 演習, 実習, 実習, 助教授, 助教授, 備考. Includes a detailed list of subjects like '海洋空間利用システムB' and '航空宇宙システムスタジアムA'.

理工学部博士課程前期 機械・材料・海洋系工学専攻
(用紙 日本工業規格A4縦型)
【普通教養科目】
合計18科目
学位又は科目の分母 工学関係 18 20 3 0 0 0
修了 学位又は科目の分母 工学関係 18 20 3 0 0 0

新

別記様式第2号 (その2の1)

Table with columns: 科目区分, 授業科目の名称, 配当年次, 単位数, 授業形態, 単位数, 必修, 選択, 自由, 実演, 演習, 実習, 実習, 助教授, 助教授, 備考. Includes a detailed list of subjects like '海洋空間利用システムB' and '航空宇宙システムスタジアムA'.

理工学部博士課程前期 機械・材料・海洋系工学専攻
(用紙 日本工業規格A4縦型)
【普通教養科目】
合計18科目
学位又は科目の分母 工学関係 18 20 3 0 0 0
修了 学位又は科目の分母 工学関係 18 20 3 0 0 0

別記様式第2号(その2の1) (用紙 日本工業規格A4縦型)

Table with columns: 科目区分, 授業科目の名称, 配当単次, 単位数, 授業形態, 教授法, 補助手, 備考. Rows include subjects like 理工学概論, 理工学概論II, 理工学概論III, etc.

別記様式第2号(その2の1) (用紙 日本工業規格A4縦型)

Table with columns: 科目区分, 授業科目の名称, 配当単次, 単位数, 授業形態, 教授法, 補助手, 備考. Rows include subjects like 理工学概論, 理工学概論II, 理工学概論III, etc.

別記様式第2号(その2の1)

別記様式第2号(その2の1)

Table with 15 columns: 科目区分, 授業科目の名称, 配当年次, 単位数, 必修, 自由, 講義, 演習, 実習, 実務, 実務, 実務, 実務, 実務, 実務, 実務. Includes course details for 'Chemistry' and 'Biology'.

Table with 15 columns: 科目区分, 授業科目の名称, 配当年次, 単位数, 必修, 自由, 講義, 演習, 実習, 実務, 実務, 実務, 実務, 実務, 実務. Includes course details for 'Chemistry' and 'Biology'.

工学部 博士課程前期 化学・生命系理工学専攻 課程表

工学部 博士課程前期 化学・生命系理工学専攻 課程表

別記様式第2号(その2の1) (用紙 日本工業規格A4縦型)

科目区分	授業科目の名称	配当単次	単位数		授業形態		専任教員等の配置		備考
			必修	選択	講義	演習	教授	助教授	
		(1)~(2)	4		○	2	2		
		(3)~(4)	4		○	2	2		
		(5)~(6)	4		○	2	2		
		(7)~(8)	4		○	2	2		
		(9)~(10)	4		○	2	2		
		(11)~(12)	4		○	2	2		
		(13)~(14)	4		○	2	2		
		(15)~(16)	4		○	2	2		
		(17)~(18)	4		○	2	2		
		(19)~(20)	4		○	2	2		
		(21)~(22)	4		○	2	2		
		(23)~(24)	4		○	2	2		
		(25)~(26)	4		○	2	2		
		(27)~(28)	4		○	2	2		
		(29)~(30)	4		○	2	2		
		(31)~(32)	4		○	2	2		
		(33)~(34)	4		○	2	2		
		(35)~(36)	4		○	2	2		
		(37)~(38)	4		○	2	2		
		(39)~(40)	4		○	2	2		
		(41)~(42)	4		○	2	2		
		(43)~(44)	4		○	2	2		
		(45)~(46)	4		○	2	2		
		(47)~(48)	4		○	2	2		
		(49)~(50)	4		○	2	2		
		(51)~(52)	4		○	2	2		
		(53)~(54)	4		○	2	2		
		(55)~(56)	4		○	2	2		
		(57)~(58)	4		○	2	2		
		(59)~(60)	4		○	2	2		
		(61)~(62)	4		○	2	2		
		(63)~(64)	4		○	2	2		
		(65)~(66)	4		○	2	2		
		(67)~(68)	4		○	2	2		
		(69)~(70)	4		○	2	2		
		(71)~(72)	4		○	2	2		
		(73)~(74)	4		○	2	2		
		(75)~(76)	4		○	2	2		
		(77)~(78)	4		○	2	2		
		(79)~(80)	4		○	2	2		
		(81)~(82)	4		○	2	2		
		(83)~(84)	4		○	2	2		
		(85)~(86)	4		○	2	2		
		(87)~(88)	4		○	2	2		
		(89)~(90)	4		○	2	2		
		(91)~(92)	4		○	2	2		
		(93)~(94)	4		○	2	2		
		(95)~(96)	4		○	2	2		
		(97)~(98)	4		○	2	2		
		(99)~(100)	4		○	2	2		
		(101)~(102)	4		○	2	2		
		(103)~(104)	4		○	2	2		
		(105)~(106)	4		○	2	2		
		(107)~(108)	4		○	2	2		
		(109)~(110)	4		○	2	2		
		(111)~(112)	4		○	2	2		
		(113)~(114)	4		○	2	2		
		(115)~(116)	4		○	2	2		
		(117)~(118)	4		○	2	2		
		(119)~(120)	4		○	2	2		
		(121)~(122)	4		○	2	2		
		(123)~(124)	4		○	2	2		
		(125)~(126)	4		○	2	2		
		(127)~(128)	4		○	2	2		
		(129)~(130)	4		○	2	2		
		(131)~(132)	4		○	2	2		
		(133)~(134)	4		○	2	2		
		(135)~(136)	4		○	2	2		
		(137)~(138)	4		○	2	2		
		(139)~(140)	4		○	2	2		
		(141)~(142)	4		○	2	2		
		(143)~(144)	4		○	2	2		
		(145)~(146)	4		○	2	2		
		(147)~(148)	4		○	2	2		
		(149)~(150)	4		○	2	2		
		(151)~(152)	4		○	2	2		
		(153)~(154)	4		○	2	2		
		(155)~(156)	4		○	2	2		
		(157)~(158)	4		○	2	2		
		(159)~(160)	4		○	2	2		
		(161)~(162)	4		○	2	2		
		(163)~(164)	4		○	2	2		
		(165)~(166)	4		○	2	2		
		(167)~(168)	4		○	2	2		
		(169)~(170)	4		○	2	2		
		(171)~(172)	4		○	2	2		
		(173)~(174)	4		○	2	2		
		(175)~(176)	4		○	2	2		
		(177)~(178)	4		○	2	2		
		(179)~(180)	4		○	2	2		
		(181)~(182)	4		○	2	2		
		(183)~(184)	4		○	2	2		
		(185)~(186)	4		○	2	2		
		(187)~(188)	4		○	2	2		
		(189)~(190)	4		○	2	2		
		(191)~(192)	4		○	2	2		
		(193)~(194)	4		○	2	2		
		(195)~(196)	4		○	2	2		
		(197)~(198)	4		○	2	2		
		(199)~(200)	4		○	2	2		
		(201)~(202)	4		○	2	2		
		(203)~(204)	4		○	2	2		
		(205)~(206)	4		○	2	2		
		(207)~(208)	4		○	2	2		
		(209)~(210)	4		○	2	2		
		(211)~(212)	4		○	2	2		
		(213)~(214)	4		○	2	2		
		(215)~(216)	4		○	2	2		
		(217)~(218)	4		○	2	2		
		(219)~(220)	4		○	2	2		
		(221)~(222)	4		○	2	2		
		(223)~(224)	4		○	2	2		
		(225)~(226)	4		○	2	2		
		(227)~(228)	4		○	2	2		
		(229)~(230)	4		○	2	2		
		(231)~(232)	4		○	2	2		
		(233)~(234)	4		○	2	2		
		(235)~(236)	4		○	2	2		
		(237)~(238)	4		○	2	2		
		(239)~(240)	4		○	2	2		
		(241)~(242)	4		○	2	2		
		(243)~(244)	4		○	2	2		
		(245)~(246)	4		○	2	2		
		(247)~(248)	4		○	2	2		
		(249)~(250)	4		○	2	2		
		(251)~(252)	4		○	2	2		
		(253)~(254)	4		○	2	2		
		(255)~(256)	4		○	2	2		
		(257)~(258)	4		○	2	2		
		(259)~(260)	4		○	2	2		
		(261)~(262)	4		○	2	2		
		(263)~(264)	4		○	2	2		
		(265)~(266)	4		○	2	2		
		(267)~(268)	4		○	2	2		
		(269)~(270)	4		○	2	2		
		(271)~(272)	4		○	2	2		
		(273)~(274)	4		○	2	2		
		(275)~(276)	4		○	2	2		
		(277)~(278)	4		○	2	2		
		(279)~(280)	4		○	2	2		
		(281)~(282)	4		○	2	2		
		(283)~(284)	4		○	2	2		
		(285)~(286)	4		○	2	2		
		(287)~(288)	4		○	2	2		
		(289)~(290)	4		○	2	2		
		(291)~(292)	4		○	2	2		
		(293)~(294)	4		○	2	2		
		(295)~(296)	4		○	2	2		
		(297)~(298)	4		○	2	2		
		(299)~(300)	4		○	2	2		
		(301)~(302)	4		○	2	2		
		(303)~(304)	4		○	2	2		
		(305)~(306)	4		○	2	2		
		(307)~(308)	4		○	2	2		
		(309)~(310)	4		○	2	2		
		(311)~(312)	4		○	2	2		
		(313)~(314)	4		○	2	2		
		(315)~(316)	4		○	2	2		
		(317)~(318)	4		○	2	2		
		(319)~(320)	4		○	2	2		
		(321)~(322)	4		○	2	2		
		(323)~(324)	4		○	2	2		
		(325)~(326)	4		○	2	2</		

別記様式第2号(その2の1) (用紙 日本工業規格A4縦型)

Table with columns: 科目区分, 授業科目の名称, 配当年次, 単位数, 実演形態, 教授者, 助手, 備考. Rows include subjects like '理工学概論', 'Presentation English', '理工学概論', etc.

別記様式第2号(その2の1) (用紙 日本工業規格A4縦型)

Table with columns: 科目区分, 授業科目の名称, 配当年次, 単位数, 実演形態, 教授者, 助手, 備考. Rows include subjects like '理工学概論', 'Presentation English', '理工学概論', etc.

別記様式第2号(その2の1) (用紙 日本工業規格A4縦型)

Table with columns: 科目区分, 授業科目の名称, 配当年次, 単位数, 実演演習, 教授助手, 備考. Rows include subjects like 物理学概論, 物理学演習, 先端数理科学 基礎, etc.

別記様式第2号(その2の1) (用紙 日本工業規格A4縦型)

Table with columns: 科目区分, 授業科目の名称, 配当年次, 単位数, 実演演習, 教授助手, 備考. Rows include subjects like 物理学概論, 物理学演習, 先端数理科学 基礎, etc.

別記様式第2号(その2の1) (用紙 日本工業規格A4縦型)

Table with columns: 科目区分, 授業科目の名称, 配当年次, 単位数, 授業形態, 実演講習, 教員, 助手, 備考. Includes a summary row at the bottom with totals for units and subjects.

別記様式第2号(その2の1) (用紙 日本工業規格A4縦型)

Table with columns: 科目区分, 授業科目の名称, 配当年次, 単位数, 授業形態, 実演講習, 教員, 助手, 備考. Includes a summary row at the bottom with totals for units and subjects.

Table with 11 columns: 科目区分, 授業科目の名称, 配当年次, 単位数, 履修形態, 授業形態, 担任教員等の配置, 備考. Includes detailed curriculum information for the Department of Information Systems Engineering.

- (注) 1. 学修等... 2. 私立の大学... 3. 開設する授業科目... 4. 「授業形態」の欄...

Table with 11 columns: 科目区分, 授業科目の名称, 配当年次, 単位数, 履修形態, 授業形態, 担任教員等の配置, 備考. Includes detailed curriculum information for the Department of Information Systems Engineering.

- (注) 1. 学修等... 2. 私立の大学... 3. 開設する授業科目... 4. 「授業形態」の欄...

別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置			備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験実習	教授	講師	助手	
	機械工学特別演習	1・2・3① ～②・④ ～⑤	3			○		9	11	1		
	アドバンストメカトロニクス	1・2④～ ⑤	2			○		1				隔年
	超高速加工現象特論	1①～②	2			○		1				隔年
	破壊強度学特論	1④～⑤	2			○		1				隔年
	ターボ機械特論	1・2・3 ①～②	2			○		1				隔年
	希薄気体力学特論	1・2①～ ②	2					1				隔年
	ロボティクスマニピュレーション特論	1①～②	2			○		1				隔年
	宇宙推進工学特論	1・2④ ～⑤	2			○		1				隔年
	弾塑性力学特論	1・2①～ ②	2			○		1				隔年
	数値流体力学特論	1・2④～ ⑤	2			○		1				隔年
	非線形構造解析	1・2①～ ②	2			○		1				隔年
	マイクロマニピュレーション特論	2④～⑤	2			○		1				隔年
	機械システム制御工学特論	1④～⑤	2			○		1				隔年
	燃焼の熱流体力学	1・2・3④ ～⑤	2			○		1				隔年
	応用流体力学特論	1・2④～ ⑤	2			○		1				隔年
	乱流計測論	1・2・3 ①～②	2			○		1				隔年
	光造形工学	1・2①～ ②	2			○		1				隔年
	複合伝熱特論	1・2・3 ①～②	2			○		1				隔年
	応用熱流体力学特論	1・2・3④ ～⑤	2			○		1				隔年
	サイバロボティクス特論	1・2④～ ⑤	2			○		1				隔年
	薄板加工特論	1・2④～ ⑤	2			○		1				隔年
	材料工学特別演習	1・2・3① ～②・④ ～⑤	3			○		5	5			
	材料工学教育研修	1・2・3① ～②・④ ～⑤	1					5	5			
	材料工学学外研修	1・2・3① ～②・④ ～⑤	1					5	5			
	材料工学特別研究	1・2・3① ～②・④ ～⑤	2			○		5	5			
	光半導体材料工学	1・2①～ ②	2			○		1				隔年
	材料破壊制御工学特論	1・2①～ ②	2			○		1				隔年
	多機能性複合材料特論	1・2①～ ②	2			○		1				隔年
	成形加工学特論	1・2④～ ⑤	2			○		1				隔年

別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置			備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験実習	教授	講師	助手	
	機械工学特別演習	1・2・3① ～②・④ ～⑤	3			○		9	11	1		
	アドバンストメカトロニクス	1・2④～ ⑤	2			○		1				隔年
	超高速加工現象特論	1①～②	2			○		1				隔年
	破壊強度学特論	1④～⑤	2			○		1				隔年
	ターボ機械特論	1・2・3 ①～②	2			○		1				隔年
	希薄気体力学特論	1・2①～ ②	2					1				隔年
	ロボティクスマニピュレーション特論	1①～②	2			○		1				隔年
	宇宙推進工学特論	1・2④ ～⑤	2			○		1				隔年
	弾塑性力学特論	1・2①～ ②	2			○		1				隔年
	数値流体力学特論	1・2④～ ⑤	2			○		1				隔年
	非線形構造解析	1・2①～ ②	2			○		1				隔年
	マイクロマニピュレーション特論	2④～⑤	2			○		1				隔年
	機械システム制御工学特論	1④～⑤	2			○		1				隔年
	燃焼の熱流体力学	1・2・3④ ～⑤	2			○		1				隔年
	応用流体力学特論	1・2④～ ⑤	2			○		1				隔年
	乱流計測論	1・2・3 ①～②	2			○		1				隔年
	光造形工学	1・2①～ ②	2			○		1				隔年
	複合伝熱特論	1・2・3 ①～②	2			○		1				隔年
	応用熱流体力学特論	1・2・3④ ～⑤	2			○		1				隔年
	サイバロボティクス特論	1・2④～ ⑤	2			○		1				隔年
	薄板加工特論	1・2④～ ⑤	2			○		1				隔年
	材料工学特別演習	1・2・3① ～②・④ ～⑤	3			○		4	3			
	材料工学教育研修	1・2・3① ～②・④ ～⑤	1					4	3			隔3
	材料工学学外研修	1・2・3① ～②・④ ～⑤	1					4	3			隔3
	材料工学特別研究	1・2・3① ～②・④ ～⑤	2			○		4	3			隔3
	光半導体材料工学	1・2①～ ②	2			○		1				隔年
	材料破壊制御工学特論	1・2①～ ②	2			○		1				隔年
	多機能性複合材料特論	1・2①～ ②	2			○		1				隔年
	成形加工学特論	1・2④～ ⑤	2			○		1				隔年

別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置			備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験 実習	教授	准教授	講師		助手
	機能材料学特論	1・2・4 ⑤		2		○			1				隔年
	疲労強度組織学特論	1・2・4		2		○			1				隔年
	局所平衡論	1・2・4 ⑥		2		○			1				隔年
	先進材料工学特論	1・2・4 ⑤		2		○			4				
	高温構造材料設計工学特論	1・2・4 ⑤		2		○			1				
	材料組織計算工学特論	1・2・4 ⑥		2		○			1				
	材料組織設計工学特論	1・2・4 ⑥		2		○			1				
	海洋宇宙システム工学特別演習	1・2・3① ②・④	3			○			6	7			
	数値流体解析特別演習	1・2・3・4 ⑤		2		○			1				
	構造情報システム学	1・2・3・4 ⑤		2		○			1				
	船舶海洋構造設計学特論	1・2・3・4 ⑤		2		○			1				
	宇宙航行体剛体特論	1・2・3① ②		2		○			1				
	海空船性能特論	1・2・3・4 ⑤		2		○			1				
	航空機空力設計特論	1・2・3① ②		2		○			1				
	海洋資源エネルギー工学特論	1・2・3① ②		2		○			1				
	浮体運動工学特論	1・2・3・4 ⑤		2		○			1				
	航空宇宙利用工学特論	1・2・3・4 ⑥		2		○			1				
	乱流工学特論	1・2・3・4 ⑤		2		○			1				
	海上交通安全工学特論	1・2・3・4 ⑤		2		○			1	1			オムニバス
	海洋開発工学特論	1・2・3① ②		2		○			1				
	機械工学教育研修	1・2・3① ②・④ ⑤		1		○			9	11	1		
	機械工学外研修	1・2・3① ②・④ ⑤		1		○			9	11	1		
	機械工学特別研究	1・2・3① ②・④ ⑤		1		○			9	11	1		
	機械工学国際インタナショナルシップ	1・2・3① ②・④ ⑤		1		○			9	11	1		
	サブ・リサーチ機械工学演習A	1・2・3① ②・④ ⑤		2		○			9	11	1		
	サブ・リサーチ機械工学演習B	1・2・3① ②・④ ⑤		2		○			9	11	1		

別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置			備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験 実習	教授	准教授	講師		助手
	機能材料学特論	1・2・4 ⑤		2		○			1				隔年
	疲労強度組織学特論	1・2・4		2		○			1				隔年
	局所平衡論	1・2・4 ⑥		2		○			1				隔年
	先進材料工学特論	1・2・4 ⑤		2		○			4				
	高温構造材料設計工学特論	1・2・4 ⑤		2		○			1				
	材料組織計算工学特論	1・2・4 ⑥		2		○			1				隔1
	材料組織設計工学特論	1・2・4 ⑥		2		○			1				隔1
	海洋宇宙システム工学特別演習	1・2・3① ②・④	3			○			4	4			
	数値流体解析特別演習	1・2・3・4 ⑤		2		○			1				
	構造情報システム学	1・2・3・4 ⑤		2		○			1				
	船舶海洋構造設計学特論	1・2・3・4 ⑤		2		○			1				
	宇宙航行体剛体特論	1・2・3① ②		2		○			1				
	海空船性能特論	1・2・3・4 ⑤		2		○			1				
	航空機空力設計特論	1・2・3① ②		2		○			1				
	海洋資源エネルギー工学特論	1・2・3① ②		2		○			1				
	浮体運動工学特論	1・2・3・4 ⑤		2		○			1				
	航空宇宙利用工学特論	1・2・3・4 ⑥		2		○			1				
	乱流工学特論	1・2・3・4 ⑤		2		○			1				
	海上交通安全工学特論	1・2・3・4 ⑤		2		○			1				オムニバス
	海洋開発工学特論	1・2・3① ②		2		○			1				隔1
	機械工学教育研修	1・2・3① ②・④ ⑤		1		○			9	11	1		
	機械工学外研修	1・2・3① ②・④ ⑤		1		○			9	11	1		
	機械工学特別研究	1・2・3① ②・④ ⑤		1		○			9	11	1		
	機械工学国際インタナショナルシップ	1・2・3① ②・④ ⑤		1		○			9	11	1		
	サブ・リサーチ機械工学演習A	1・2・3① ②・④ ⑤		2		○			9	11	1		
	サブ・リサーチ機械工学演習B	1・2・3① ②・④ ⑤		2		○			9	11	1		

別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教育課程等の概要														
(理工学府)博士課程後期 機械・材料・海洋系工学専攻														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置			備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験実習	准教授	講師	助手			
	材料工学国際インタナショナルシップ	1・2・3① ～②・④ ～⑤	1			○		5						
	サブ・リサーチ材料工学演習	1・2・3① ～②・④ ～⑤	4			○		5						
	海洋宇宙システム工学特別研究	1・2・3① ～②・④ ～⑤	2			○		6						
	海洋宇宙システム工学教育研修	1・2・3① ～②・④ ～⑤	1			○		6						
	海洋宇宙システム工学学外研修	1・2・3① ～②・④ ～⑤	1			○		6						
	海洋宇宙システム工学国際インタナショナルシップ	1・2・3① ～②・④ ～⑤	1			○		6						
	サブ・リサーチ海洋宇宙システム工学演習	1・2・3① ～②・④ ～⑤	4			○		6						
合計(02科目)			9	112	0	—	—	20	23	1	0	0		
学位又は称号			博士(工学)			工学関係			授業期間等					
修了要件及び履修方法			学位又は学位の分野			1学期区			6ターム制 「配当年次」欄における学期区分 第1ターム:4月～8月-① 第2ターム:4月～7月-② 第3ターム:6月～9月-③ 第4ターム:8月～9月-④ 第5ターム:10月～11月-⑤ 第6ターム:2月～3月-⑥			博士課程後期の修了要件は、博士課程後期に3年以上在学し、教育プログラムごと指定された所定の単位数以上を修得し、修了に關する授業科目のGPAが別に定めた基準値以上であり、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格すること。ただし在学期間に關しては、履かれた研究成果を上げた者で教授会が認めた者については、博士課程後期に1年以上在学すれば足りるものとする。		
【共通の履修方法】			GP2.0以上を取得するものとする。			【FDプログラムの履修方法】			特別演習3単位数以上を含む9単位数以上を取得			【FDプログラムの履修方法】		
【共通の履修方法】			6単位数以上(スタジオリスク4単位)とスタジオリスクが指定される科目から構成されるモジュールとして取得する			【FDプログラムの履修方法】			6単位数以上(スタジオリスク4単位)とスタジオリスクが指定されるモジュールとして取得する			【FDプログラムの履修方法】		
【FDプログラムの履修方法】			(1) 先進加工システム設計 (2) 先進熱流体システム設計 (3) 先進統合システム設計 (4) 先端材料設計 (5) 大規模システム設計			【FDプログラムの履修方法】			(1) 先進加工システム設計 (2) 先進熱流体システム設計 (3) 先進統合システム設計 (4) 先端材料設計 (5) 大規模システム設計			【FDプログラムの履修方法】		
【注】			1. 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行うこととする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学位の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学位(学位の種類及び分野の変更等)に關する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。			2. 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学位の変更の認可を受けようとする場合は、届出を行うこととする場合、大学の設置の変更の認可を受けようとする場合は、大学の設置の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要がある。			3. 開設する授業科目に於いて、適宜科目区分の枠を設けること。			4. 「授業形態」欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。		

別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教育課程等の概要														
(理工学府)博士課程後期 機械・材料・海洋系工学専攻														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置			備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験実習	准教授	講師	助手			
	材料工学国際インタナショナルシップ	1・2・3① ～②・④ ～⑤	1			○		4	3			3		
	サブ・リサーチ材料工学演習	1・2・3① ～②・④ ～⑤	4			○		4	3					
	海洋宇宙システム工学特別研究	1・2・3① ～②・④ ～⑤	2			○		6	7					
	海洋宇宙システム工学教育研修	1・2・3① ～②・④ ～⑤	1			○		6	7					
	海洋宇宙システム工学学外研修	1・2・3① ～②・④ ～⑤	1			○		6	7					
	海洋宇宙システム工学国際インタナショナルシップ	1・2・3① ～②・④ ～⑤	1			○		6	7					
	サブ・リサーチ海洋宇宙システム工学演習	1・2・3① ～②・④ ～⑤	4			○		4	6					
合計(02科目)			9	112	0	—	—	17	20	1	0	0		
学位又は称号			博士(工学)			工学関係			授業期間等					
修了要件及び履修方法			学位又は学位の分野			1学期区			6ターム制 「配当年次」欄における学期区分 第1ターム:4月～8月-① 第2ターム:4月～7月-② 第3ターム:6月～9月-③ 第4ターム:8月～9月-④ 第5ターム:10月～11月-⑤ 第6ターム:2月～3月-⑥			博士課程後期の修了要件は、博士課程後期に3年以上在学し、教育プログラムごと指定された所定の単位数以上を修得し、修了に關する授業科目のGPAが別に定めた基準値以上であり、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格すること。ただし在学期間に關しては、履かれた研究成果を上げた者で教授会が認めた者については、博士課程後期に1年以上在学すれば足りるものとする。		
【共通の履修方法】			GP2.0以上を取得するものとする。			【FDプログラムの履修方法】			特別演習3単位数以上を含む9単位数以上を取得			【FDプログラムの履修方法】		
【共通の履修方法】			6単位数以上(スタジオリスク4単位)とスタジオリスクが指定される科目から構成されるモジュールとして取得する			【FDプログラムの履修方法】			6単位数以上(スタジオリスク4単位)とスタジオリスクが指定されるモジュールとして取得する			【FDプログラムの履修方法】		
【FDプログラムの履修方法】			(1) 先進加工システム設計 (2) 先進熱流体システム設計 (3) 先進統合システム設計 (4) 先端材料設計 (5) 大規模システム設計			【FDプログラムの履修方法】			(1) 先進加工システム設計 (2) 先進熱流体システム設計 (3) 先進統合システム設計 (4) 先端材料設計 (5) 大規模システム設計			【FDプログラムの履修方法】		
【注】			1. 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行うこととする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学位の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学位(学位の種類及び分野の変更等)に關する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。			2. 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学位の変更の認可を受けようとする場合は、届出を行うこととする場合、大学の設置の変更の認可を受けようとする場合は、大学の設置の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要がある。			3. 開設する授業科目に於いて、適宜科目区分の枠を設けること。			4. 「授業形態」欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。		

別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

理工学府博士課程後期 化学・生命系理工学専攻												
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置			備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	准教授	講師	助手	
	有機金属化学	1・2・30～ ②	2		○			1				隔年
	触媒工学	1・2・30～ ②	2		○			1				隔年
	触媒設計学	1・2・34～ ⑤	2		○			1				隔年
	光機能材料	1・2・30～ ②	2		○			1				隔年
	電気化学デバイス特論	1・2・34～ ⑤	2		○			1				隔年
	機能高分子化学	1・2・30～ ②	2		○			1				隔年
	機能性溶液論	1・2・34～ ②	2		○			1				隔年
	有機電子移動化学特論	1・2・34～ ⑤	2		○			1				隔年
	セラミックス材料設計	1・2・35	1		○			1				隔年
	粉体材料プロセス工学特論	1・2・35	1		○			1				
	化学TED特別演習	1・2・30～ ②・④～ ⑤	3		○			7	11	1		
	化学TED教育研修	1・2・30～ ②・④～ ⑤	1					○	7	11	1	
	化学TED学外研修	1・2・30～ ②・④～ ⑤	1					○	7	11	1	
	化学TED特別研究	1・2・30～ ②・④～ ⑤	2					○	7	11	1	
	化学TED国際インターナショナル	1・2・30・ ②・③・④・ ⑤・⑥	1					○	7	11	1	
	光反応と分光学	1・2・30～ ⑤	2		○			1				隔年
	大きな系のための量子論	1・2・30～ ②	2		○			1				隔年
	アストロバイオロジー特論	1・2・34～ ⑤	2		○			1				隔年
	生命機能構造解析学	1・2・34～ ⑤	2		○			1				隔年
	錯体化学特論	1・2・30～ ②	2		○			1				隔年
	光物理化学特論	1・2・30～ ②	2		○			1				隔年
	構造生命科学特論	1・2・30～ ⑤	2		○			1				隔年
	機能有機分子設計	1・2・30～ ②	2		○			1				隔年
	化学PSD特別演習	1・2・30～ ②・④～ ⑤	3		○			7	11	1		
	化学PSD教育研修	1・2・30～ ②・④～ ⑤	1					○	7	11	1	
	化学PSD学外研修	1・2・30～ ②・④～ ⑤	1					○	7	11	1	
	化学PSD特別研究	1・2・30～ ②・④～ ⑤	2					○	7	11	1	
	化学PSD国際インターナショナル	1・2・30・ ②・③・④・ ⑤・⑥	1					○	7	11	1	

別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

理工学府博士課程後期 化学・生命系理工学専攻												
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置			備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	准教授	講師	助手	
	有機金属化学	1・2・30～ ②	2		○			1				隔年
	触媒工学	1・2・30～ ②	2		○			1				隔年
	触媒設計学	1・2・34～ ⑤	2		○			1				隔年
	光機能材料	1・2・30～ ②	2		○			1				隔年
	電気化学デバイス特論	1・2・34～ ⑤	2		○			1				隔年
	機能高分子化学	1・2・30～ ②	2		○			1				隔年
	機能性溶液論	1・2・34～ ②	2		○			1				隔年
	有機電子移動化学特論	1・2・34～ ⑤	2		○			1				隔年
	セラミックス材料設計	1・2・35	1		○			1				隔年
	粉体材料プロセス工学特論	1・2・35	1		○			1				
	化学TED特別演習	1・2・30～ ②・④～ ⑤	3		○			7	11	1		
	化学TED教育研修	1・2・30～ ②・④～ ⑤	1					○	7	11	1	
	化学TED学外研修	1・2・30～ ②・④～ ⑤	1					○	7	11	1	
	化学TED特別研究	1・2・30～ ②・④～ ⑤	2					○	7	11	1	
	化学TED国際インターナショナル	1・2・30・ ②・③・④・ ⑤・⑥	1					○	7	11	1	
	光反応と分光学	1・2・30～ ⑤	2		○			1				隔年
	大きな系のための量子論	1・2・30～ ②	2		○			1				隔年
	アストロバイオロジー特論	1・2・34～ ⑤	2		○			1				隔年
	生命機能構造解析学	1・2・34～ ⑤	2		○			1				隔年
	錯体化学特論	1・2・30～ ②	2		○			1				隔年
	光物理化学特論	1・2・30～ ②	2		○			1				隔年
	構造生命科学特論	1・2・30～ ⑤	2		○			1				隔年
	機能有機分子設計	1・2・30～ ②	2		○			1				隔年
	化学PSD特別演習	1・2・30～ ②・④～ ⑤	3		○			7	11	1		
	化学PSD教育研修	1・2・30～ ②・④～ ⑤	1					○	7	11	1	
	化学PSD学外研修	1・2・30～ ②・④～ ⑤	1					○	7	11	1	
	化学PSD特別研究	1・2・30～ ②・④～ ⑤	2					○	7	11	1	
	化学PSD国際インターナショナル	1・2・30・ ②・③・④・ ⑤・⑥	1					○	7	11	1	

別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置			備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	准教授	講師	助手	
	工業物質工学	1・2・3④～⑤	2		○			1				
	材料電気化学	1・2・3①～②	2		○			1				隔年
	エネルギー化学特論	1・2・3④～⑤	2		○			1				隔年、オ ムニバス
	エネルギー機器材料学	1・2・3④～⑤	2		○			1				隔年
	エネルギーチェーンシステム特論	1・2・3①～②	2		○			1				隔年
	エネルギー変換プロセス	1・2・3①～②	2		○			1				隔年
	エネルギー素材料学	1・2・3④～⑤	2		○			1				隔年
	物質環境エネルギー工学	1・2・3①～②	2		○			1				隔年、オ ムニバス
	反応装置工学	1・2・3①～②	2		○			1				隔年
	化学エネルギー工学	1・2・3①～②	2		○			1				隔年
	分離工学特論	1・2・3④～⑤	2		○			1				隔年
	生体高分子工学	1・2・3①～②	2		○			1				隔年
	医工学特論	1・2・3④～⑤	2		○			1				隔年
	環境化学反応論	1・2・3①～②	2		○			1				隔年
	高次生命機能科学	1・2・3④～⑤	2		○			1				隔年
	発生工学特論	1・2・3①～②	2		○			1				隔年
	機能性材料学特論	1・2・3④～⑤	2		○			1				隔年
	細胞組織工学特論	1・2・3①～②	2		○			1				隔年
	化学応用・バイオ特別演習	1・2・3①～②・④～⑥	3		○			10	8	1		
	化学応用・バイオ教育研修	1・2・3①～②・④～⑥	1		○			10	8	1		
	化学応用・バイオ学外研修	1・2・3①～②・④～⑥	1		○			10	8	1		
	化学応用・バイオ特別研究	1・2・3①～②・④～⑥	2		○			10	8	1		
	化学応用・バイオ国際インターンシップ	1・2・3①～②・④・⑤・⑥	1		○			10	8	1		
	バイオ創生・計測工学実習S	1・2・3①～②	4		○			3	3			
	バイオ創生・計測工学実習F	1・2・3④～⑤	4		○			3	3			
	イノベーション化学プロセス実習S	1・2・3①～②	4		○			2	2	1		
	イノベーション化学プロセス実習F	1・2・3④～⑤	4		○			2	2	1		
	エネルギー先端創生実習S	1・2・3①～②	4		○			4	2			
	エネルギー先端創生実習F	1・2・3④～⑤	4		○			4	2			
	エレクトロニクス実装実習S	1・2・3①～②	4		○			5				兼2
	エレクトロニクス実装実習F	1・2・3④～⑤	4		○			5				兼2
	非線形構造解析	1・2①～②	2		○							兼1 隔年

別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置			備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	准教授	講師	助手	
	工業物質工学	1・2・3④～⑤	2		○			1				
	材料電気化学	1・2・3①～②	2		○			1				隔年
	エネルギー化学特論	1・2・3④～⑤	2		○			1				隔年、オ ムニバス
	エネルギー機器材料学	1・2・3④～⑤	2		○			1				隔年
	エネルギーチェーンシステム特論	1・2・3①～②	2		○			1				隔年
	エネルギー変換プロセス	1・2・3①～②	2		○			1				隔年
	エネルギー素材料学	1・2・3④～⑤	2		○			1				隔年
	物質環境エネルギー工学	1・2・3①～②	2		○			1				隔年、オ ムニバス
	反応装置工学	1・2・3①～②	2		○			1				隔年
	化学エネルギー工学	1・2・3①～②	2		○			1				隔年
	分離工学特論	1・2・3④～⑤	2		○			1				隔年
	生体高分子工学	1・2・3①～②	2		○			1				隔年
	医工学特論	1・2・3④～⑤	2		○			1				隔年
	環境化学反応論	1・2・3①～②	2		○			1				隔年
	高次生命機能科学	1・2・3④～⑤	2		○			1				隔年
	発生工学特論	1・2・3①～②	2		○			1				隔年
	機能性材料学特論	1・2・3④～⑤	2		○			1				隔年
	細胞組織工学特論	1・2・3①～②	2		○			1				隔年
	化学応用・バイオ特別演習	1・2・3①～②・④～⑥	3		○			8	7	1		
	化学応用・バイオ教育研修	1・2・3①～②・④～⑥	1		○			8	7	1		兼3
	化学応用・バイオ学外研修	1・2・3①～②・④～⑥	1		○			8	7	1		兼3
	化学応用・バイオ特別研究	1・2・3①～②・④～⑥	2		○			8	7	1		兼3
	化学応用・バイオ国際インターンシップ	1・2・3①～②・④・⑤・⑥	1		○			8	7	1		兼3
	バイオ創生・計測工学実習S	1・2・3①～②	4		○			3	3			
	バイオ創生・計測工学実習F	1・2・3④～⑤	4		○			3	3			
	イノベーション化学プロセス実習S	1・2・3①～②	4		○			2	2	1		
	イノベーション化学プロセス実習F	1・2・3④～⑤	4		○			2	2	1		
	エネルギー先端創生実習S	1・2・3①～②	4		○			4	2			
	エネルギー先端創生実習F	1・2・3④～⑤	4		○			4	2			
	エレクトロニクス実装実習S	1・2・3①～②	4		○			5				兼2
	エレクトロニクス実装実習F	1・2・3④～⑤	4		○			5				兼2
	非線形構造解析	1・2①～②	2		○							兼1 隔年

教育課程等の概要											
(理工学府博士課程後期 化学・生命系理工学専攻)											
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態		専任教員等の配置			備考	
			必修	選択	講義	実験・実習	准教授	講師	助手		
	半導体デバイス特論	1・2・3④～⑤	2		○					隔年	
	化学・生命系国際インターナショナル	1・2・3①・②・③・④・⑤・⑥	1			○		10	8	1	
合計(62科目)			27	104	0	—	17	19	12	0	0
学位又は称号			博士(工学,理学)			工学関係,理学関係			理学関係等		
修了要件及び履修方法			学位又は学科の分野			学位又は学科の分野			理学関係等		

博士課程後期の修了要件は、博士課程後期に3年以上在学し、教育プログラムごとに指定された所定の単位以上を取得し、修了に關する授業科目のGPAが別に定めた基準値以上であり、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格すること。ただし在学期間に関しては、優れた研究成果を上げた者で教授が認めた者については、博士課程後期に1年以上在学すれば足りるものとする。

【共通の履修方法】
GPA2.0以上を取得するものとする。

【TED, PSDプログラムの履修方法】
特別演習3単位以上を含む9単位以上を修得。

【PEDプログラムの履修方法】
6単位以上。(スタジオ科目(4単位)とスタジオ科目が指定する科目から構成されるモジュールとして取得する)

- 【PED科目のモジュール】
- (1)ハイオ創生・計測工学
 - (2)イノベーション化学プロセス
 - (3)エネルギー先端創生
 - (4)エレクトロニクス実装工学

- (注)
- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学位の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学位(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文科省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
 - 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学期の変更の認可を受けようとする場合は、届出を行おうとする場合、大学等の設置の変更の認可を受けようとする場合は、学位又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合は、届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要がある。
 - 3 開設する授業科目に応じて、通宜科目区分の枠を設けること。
 - 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要											
(理工学府博士課程後期 化学・生命系理工学専攻)											
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態		専任教員等の配置			備考	
			必修	選択	講義	実験・実習	准教授	講師	助手		
	半導体デバイス特論	1・2・3④～⑤	2		○					隔年	
	化学・生命系国際インターナショナル	1・2・3①・②・③・④・⑤・⑥	1			○		7	1	1	
合計(62科目)			27	104	0	—	15	18	2	0	0
学位又は称号			博士(工学,理学)			工学関係,理学関係			理学関係等		
修了要件及び履修方法			学位又は学科の分野			学位又は学科の分野			理学関係等		

博士課程後期の修了要件は、博士課程後期に3年以上在学し、教育プログラムごとに指定された所定の単位以上を取得し、修了に關する授業科目のGPAが別に定めた基準値以上であり、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格すること。ただし在学期間に関しては、優れた研究成果を上げた者で教授が認めた者については、博士課程後期に1年以上在学すれば足りるものとする。

【共通の履修方法】
GPA2.0以上を取得するものとする。

【TED, PSDプログラムの履修方法】
特別演習3単位以上を含む9単位以上を修得。

【PEDプログラムの履修方法】
6単位以上。(スタジオ科目(4単位)とスタジオ科目が指定する科目から構成されるモジュールとして取得する)

- 【PED科目のモジュール】
- (1)ハイオ創生・計測工学
 - (2)イノベーション化学プロセス
 - (3)エネルギー先端創生
 - (4)エレクトロニクス実装工学

- (注)
- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学位の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学位(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文科省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
 - 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学期の変更の認可を受けようとする場合は、届出を行おうとする場合、大学等の設置の変更の認可を受けようとする場合は、学位又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合は、届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要がある。
 - 3 開設する授業科目に応じて、通宜科目区分の枠を設けること。
 - 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

旧

新

別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置			備考
			必修	選択	自由	講義	実験 演習	実 験 演 習	教授	准 教 授	助 手	
	工学融合研究	1・2・3①～ ②	2		○				2			シラサ分 け
	システム設計実習	1・2・3④～ ⑤	4			○			4	5		
	システムデバイス実習	1・2・3④～ ⑤	4			○			4	4		
	エネルギー・制御実習	1・2・3④～ ⑤	4			○			2	2		
	医療情報システム実習	1・2・3④～ ⑤	4			○			4			
	医療デバイス実習	1・2・3④～ ⑤	4			○			4			
	医療マカトロニクス実習	1・2・3④～ ⑤	4			○			4			
	医療生体システム実習	1・2・3④～ ⑤	4			○			4			
	医工連携分野実習	1・2・3④～ ⑤	4			○			4			
	アンテナ伝播特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	オープンソース創造特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	システム制御情報特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	デジタル回路特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	データストレージ特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	マイクロ波工学特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	マルチメディア移動通信特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	メカトロニクス特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	光量子エレクトロニクス特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	集積ナノデバイス工学特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	情報理論特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	知能システム特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	超伝導エレクトロニクス論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	電力システム工学特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	電力系統保護システム特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	半導体デバイス特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	符号理論特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	量子効果デバイス特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	量子集積デバイス特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	生体医工システム特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	ナノフォトニクス特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	電気電子ネットワーク演習	1・2・3④～ ⑤	1			○			1	1		
	電気電子ネットワーク教育研修	1・2・3④～ ⑤	1			○			1	1		
	電気電子ネットワーク学外研修	1・2・3④～ ⑤	1			○			1	1		
	電気電子ネットワーク特別研究	1・2・3④～ ⑤	2			○			1	1		

別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置			備考
			必修	選択	自由	講義	実験 演習	実 験 演 習	教授	准 教 授	助 手	
	工学融合研究	1・2・3①～ ②	2		○				2			シラサ分 け
	システム設計実習	1・2・3④～ ⑤	4			○			3	5		
	システムデバイス実習	1・2・3④～ ⑤	4			○			4	4		
	エネルギー・制御実習	1・2・3④～ ⑤	4			○			2	2		
	医療情報システム実習	1・2・3④～ ⑤	4			○			4			
	医療デバイス実習	1・2・3④～ ⑤	4			○			4			
	医療マカトロニクス実習	1・2・3④～ ⑤	4			○			4			
	医療生体システム実習	1・2・3④～ ⑤	4			○			4			
	医工連携分野実習	1・2・3④～ ⑤	4			○			4			
	アンテナ伝播特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	オープンソース創造特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	システム制御情報特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	デジタル回路特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	データストレージ特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	マイクロ波工学特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	マルチメディア移動通信特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	メカトロニクス特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	光量子エレクトロニクス特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	集積ナノデバイス工学特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	情報理論特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	知能システム特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	超伝導エレクトロニクス論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	電力システム工学特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	電力系統保護システム特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	半導体デバイス特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	符号理論特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	量子効果デバイス特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	量子集積デバイス特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	生体医工システム特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	ナノフォトニクス特論	1・2・3④～ ⑤	2		○				1			隔年
	電気電子ネットワーク演習	1・2・3④～ ⑤	1			○			1	1		基2
	電気電子ネットワーク教育研修	1・2・3④～ ⑤	1			○			1	1		基2
	電気電子ネットワーク学外研修	1・2・3④～ ⑤	1			○			1	1		基2
	電気電子ネットワーク特別研究	1・2・3④～ ⑤	2			○			1	1		基2

旧

新

別記様式第2号(その2の1)

別記様式第2号(その2の1)

概要

概要

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置			備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験	教授	講師	助手	
	電気電子ネットワーク特別演習	1・2・30～ ②・④～⑤	3				○		1	1	1	
	電気電子ネットワークコネクティビティ	10～②	1				○		1	1	1	
	電気電子ネットワークコネクティビティ	20～②	1				○		1	1	1	
	電気電子ネットワークコネクティビティ	30～②	1				○		1	1	1	
	電気電子ネットワークコネクティビティ	14～⑤	1				○		1	1	1	
	電気電子ネットワークコネクティビティ	20～⑤	1				○		1	1	1	
	電気電子ネットワークコネクティビティ	34～⑤	1				○		1	1	1	
	電気電子ネットワーク国際インターンシップ	1・2・30～ ②・④～⑤	1				○		1	1	1	
	情報システム演習	1・2・30～ ⑤	1				○		1	1	1	
	情報システム教育研修	1・2・30～ ⑤	1				○		1	1	1	
	情報システム学外研修	1・2・30～ ⑤	1				○		1	1	1	
	情報システム特別研究	1・2・30～ ⑤	2				○		1	1	1	
	情報システム特別演習	1・2・30～ ②・④～⑤	3				○		1	1	1	
	情報システムコネクティビティ	10～②	1				○		1	1	1	
	情報システムコネクティビティ	20～②	1				○		1	1	1	
	情報システムコネクティビティ	30～②	1				○		1	1	1	
	情報システムコネクティビティ	14～⑤	1				○		1	1	1	
	情報システムコネクティビティ	20～⑤	1				○		1	1	1	
	情報システムコネクティビティ	34～⑤	1				○		1	1	1	
	情報システム国際インターンシップ	1・2・30～ ②・④～⑤	1				○		1	1	1	
	応用物理演習	1・2・30～ ⑤	1				○		1	1	1	
	応用物理教育研修	1・2・30～ ⑤	1				○		1	1	1	
	応用物理学外研修	1・2・30～ ⑤	1				○		1	1	1	
	応用物理特別研究	1・2・30～ ⑤	2				○		1	1	1	
	応用物理特別演習	1・2・30～ ②・④～⑤	3				○		1	1	1	
	応用物理コネクティビティ	10～②	1				○		1	1	1	
	応用物理コネクティビティ	20～②	1				○		1	1	1	
	応用物理コネクティビティ	30～②	1				○		1	1	1	
	応用物理コネクティビティ	14～⑤	1				○		1	1	1	
	応用物理コネクティビティ	20～⑤	1				○		1	1	1	
	応用物理コネクティビティ	34～⑤	1				○		1	1	1	
	応用物理国際インターンシップ	1・2・30～ ②・④～⑤	1				○		1	1	1	
	ナノスケールメテリアルデザイン	1・20～⑤	2				○		1	1	1	
	量子系の数値シミュレーション	1・20～⑤	2				○		1	1	1	
	ナノ・マイクロ線維系物性論	1・20～②	2				○		1	1	1	
	低温物性物理学特論	1・20～②	2				○		1	1	1	
	磁気科学特論	1・20～⑤	2				○		1	1	1	
	先端磁性物理学	1・20～⑤	2				○		1	1	1	
	多重極限物性物理学	1・20～②	2				○		1	1	1	
	新物質の物理学	1・20～⑤	2				○		1	1	1	
	量子情報物理学特論	1・20～②	2				○		1	1	1	
	超高速分光科学特論	1・20～②	2				○		1	1	1	
	精密レーザー分光特論	1・20～⑤	2				○		1	1	1	
	テラヘルツ科学特論	1・20～②	2				○		1	1	1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置			備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験	教授	講師	助手	
	電気電子ネットワーク特別演習	1・2・30～ ②・④～⑤	3				○		1	1	1	
	電気電子ネットワークコネクティビティ	10～②	1				○		1	1	1	
	電気電子ネットワークコネクティビティ	20～②	1				○		1	1	1	
	電気電子ネットワークコネクティビティ	30～②	1				○		1	1	1	
	電気電子ネットワークコネクティビティ	14～⑤	1				○		1	1	1	
	電気電子ネットワークコネクティビティ	20～⑤	1				○		1	1	1	
	電気電子ネットワークコネクティビティ	34～⑤	1				○		1	1	1	
	電気電子ネットワーク国際インターンシップ	1・2・30～ ②・④～⑤	1				○		1	1	1	
	情報システム演習	1・2・30～ ⑤	1				○		1	1	1	
	情報システム教育研修	1・2・30～ ⑤	1				○		1	1	1	
	情報システム学外研修	1・2・30～ ⑤	1				○		1	1	1	
	情報システム特別研究	1・2・30～ ⑤	2				○		1	1	1	
	情報システム特別演習	1・2・30～ ②・④～⑤	3				○		1	1	1	
	情報システムコネクティビティ	10～②	1				○		1	1	1	
	情報システムコネクティビティ	20～②	1				○		1	1	1	
	情報システムコネクティビティ	30～②	1				○		1	1	1	
	情報システムコネクティビティ	14～⑤	1				○		1	1	1	
	情報システムコネクティビティ	20～⑤	1				○		1	1	1	
	情報システムコネクティビティ	34～⑤	1				○		1	1	1	
	情報システム国際インターンシップ	1・2・30～ ②・④～⑤	1				○		1	1	1	
	応用物理演習	1・2・30～ ⑤	1				○		1	1	1	
	応用物理教育研修	1・2・30～ ⑤	1				○		1	1	1	
	応用物理学外研修	1・2・30～ ⑤	1				○		1	1	1	
	応用物理特別研究	1・2・30～ ⑤	2				○		1	1	1	
	応用物理特別演習	1・2・30～ ②・④～⑤	3				○		1	1	1	
	応用物理コネクティビティ	10～②	1				○		1	1	1	
	応用物理コネクティビティ	20～②	1				○		1	1	1	
	応用物理コネクティビティ	30～②	1				○		1	1	1	
	応用物理コネクティビティ	14～⑤	1				○		1	1	1	
	応用物理コネクティビティ	20～⑤	1				○		1	1	1	
	応用物理コネクティビティ	34～⑤	1				○		1	1	1	
	応用物理国際インターンシップ	1・2・30～ ②・④～⑤	1				○		1	1	1	
	ナノスケールメテリアルデザイン	1・20～⑤	2				○		1	1	1	
	量子系の数値シミュレーション	1・20～⑤	2				○		1	1	1	
	ナノ・マイクロ線維系物性論	1・20～②	2				○		1	1	1	
	低温物性物理学特論	1・20～②	2				○		1	1	1	
	磁気科学特論	1・20～⑤	2				○		1	1	1	
	先端磁性物理学	1・20～⑤	2				○		1	1	1	
	多重極限物性物理学	1・20～②	2				○		1	1	1	
	新物質の物理学	1・20～⑤	2				○		1	1	1	
	量子情報物理学特論	1・20～②	2				○		1	1	1	
	超高速分光科学特論	1・20～②	2				○		1	1	1	
	精密レーザー分光特論	1・20～⑤	2				○		1	1	1	
	テラヘルツ科学特論	1・20～②	2				○		1	1	1	

別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

Table with columns: 科目区分, 授業科目の名称, 配当年次, 単位数, 履修形態, 専任教員等の配置, 備考. Rows include subjects like 先端半導体物理学, ナノスケール物性科学特論, etc.

Table with columns: 学位又は称号, 学位又は学科の分野, 工学関係, 理学関係. Includes 博士(理学,工学) and 工学関係, 理学関係.

博士課程後期の修了要件は、博士課程後期3年以上在学中、教育プログラムごと... 【英語の履修方法】 GP2.0以上を取得するものとする。

1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校... 学位の種別及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校... 学位の種別及び分野の変更等に関する

別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

Table with columns: 科目区分, 授業科目の名称, 配当年次, 単位数, 履修形態, 専任教員等の配置, 備考. Rows include subjects like 先端半導体物理学, ナノスケール物性科学特論, etc.

Table with columns: 学位又は称号, 学位又は学科の分野, 工学関係, 理学関係. Includes 博士(理学,工学) and 工学関係, 理学関係.

博士課程後期の修了要件は、博士課程後期3年以上在学中、教育プログラムごと... 【英語の履修方法】 GP2.0以上を取得するものとする。

1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校... 学位の種別及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校... 学位の種別及び分野の変更等に関する

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本工業規格 A 4 縦型）

教育課程等の概要																				
（理工学府博士課程後期 数物・電子情報系理工学専攻）																				
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置											
			必修	選択	自由	講義	演習	実験	教授	准教授	助手									

- 1 基礎（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に所属する学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本工業規格 A 4 縦型）

教育課程等の概要																				
（理工学府博士課程後期 数物・電子情報系理工学専攻）																				
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置											
			必修	選択	自由	講義	演習	実験	教授	准教授	助手									

- 1 基礎（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に所属する学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

(新旧対照表) 授業科目の概要 (別記様式第2号 (その3の1))

理工学府 博士課程前期 機械・材料・海洋系工学専攻

新	旧
<p>21 ページ 材料工学演習 A</p> <p><u>削除</u></p>	<p>21 ページ 材料工学演習 A</p> <p><u>(MA20 下野昌人) 材料工学において用いられる計算科学手法に関する研究指導を行う。</u> <u>(MA43 出村雅彦) 変形・再結晶材料組織, 金属間化合物の塑性変形に関する研究指導を行う。</u> <u>(MA44 戸田佳明) 高温構造材料設計工学に関する研究指導を行う。</u></p>
<p>21~22 ページ 材料工学演習 B</p> <p><u>削除</u></p>	<p>22 ページ 材料工学演習 B</p> <p><u>(MA20 下野昌人) 材料工学において用いられる計算科学手法に関する研究指導を行う。</u> <u>(MA43 出村雅彦) 変形・再結晶材料組織, 金属間化合物の塑性変形に関する研究指導を行う。</u> <u>(MA44 戸田佳明) 高温構造材料設計工学に関する研究指導を行う。</u></p>
<p>22 ページ 材料工学演習 C</p> <p><u>削除</u></p>	<p>22~23 ページ 材料工学演習 C</p> <p><u>(MA20 下野昌人) 修士論文テーマと関連する計算科学的手法に関する研究指導を行う。</u> <u>(MA43 出村雅彦) 変形・再結晶材料組織, 金属間化合物の塑性変形に関する修士論文テーマを主題として研究指導を行う。</u> <u>(MA44 戸田佳明) 高温構造材料設計工学に関する研究指導を行う。</u></p>
<p>22~23 ページ 材料工学演習 D</p> <p><u>削除</u></p>	<p>23 ページ 材料工学演習 D</p> <p><u>(MA20 下野昌人) 材料工学において用いられる計算科学手法に関する研究指導を行う。</u> <u>(MA43 出村雅彦) 変形・再結晶材料組織, 金属</u></p>

新	旧
<p>23 ページ 材料工学インターンシップ L <u>(MA④ 下野昌人)</u> <u>(MA⑤ 出村雅彦)</u> <u>(MA⑥ 戸田佳明)</u></p>	<p><u>間化合物の塑性変形に関する研究指導を行う。</u> <u>(MA44 戸田佳明) 高温構造材料設計工学に関する研究指導を行う。</u></p> <p>23 ページ 材料工学インターンシップ L <u>(MA20 下野昌人)</u> <u>(MA43 出村雅彦)</u> <u>(MA44 戸田佳明)</u></p>
<p>23～24 ページ 材料工学インターンシップ M <u>(MA④ 下野昌人)</u> <u>(MA⑤ 出村雅彦)</u> <u>(MA⑥ 戸田佳明)</u></p>	<p>24 ページ 材料工学インターンシップ M <u>(MA20 下野昌人)</u> <u>(MA43 出村雅彦)</u> <u>(MA44 戸田佳明)</u></p>
<p>24 ページ 材料工学インターンシップ S <u>(MA④ 下野昌人)</u> <u>(MA⑤ 出村雅彦)</u> <u>(MA⑥ 戸田佳明)</u></p>	<p>24 ページ 材料工学インターンシップ S <u>(MA20 下野昌人)</u> <u>(MA43 出村雅彦)</u> <u>(MA44 戸田佳明)</u></p>
<p>25～26 ページ 海洋宇宙システム工学演習 A</p>	<p>26 ページ 海洋宇宙システム工学演習 A</p>
<p>削除</p>	<p><u>(MA19 加藤俊司) 浮体・係留・ライザー一体システムの挙動に関する最新技術等に関する課題を設定し、文献調査・解析・実験等を通して研究指導を行う。</u> <u>(MA21 福土淳司) 海上交通を表現する船舶の運動モデル、シミュレーションおよび操船シミュレータの技術に関する課題を設定し、文献調査・解析・実験等を通して研究指導を行う。</u> <u>(MA42 伊藤(安藤)博子) 船舶の衝突リスク推定に必要な海上交通の特徴や遭遇頻度等に関する課題を設定し、文献調査・解析・実験等を通して研究指導を行う。</u></p>

新	旧
<p>26 ページ 海洋宇宙システム工学演習B</p> <p><u>削除</u></p>	<p>27 ページ 海洋宇宙システム工学演習B</p> <p><u>(MA19 加藤俊司) 浮体・係留・ライザー一体システムの挙動に関する最新技術等に関する課題を設定し、文献調査・解析・実験等を通して研究指導を行う。</u></p> <p><u>(MA21 福士淳司) 海上交通を表現する船舶の運動モデル、シミュレーションおよび操船シミュレータの技術に関する課題を設定し、文献調査・解析・実験等を通して研究指導を行う。</u></p> <p><u>(MA42 伊藤 (安藤) 博子) 船舶の衝突リスク推定に必要な海上交通の特徴や遭遇頻度等に関する課題を設定し、文献調査・解析・実験等を通して研究指導を行う。</u></p>
<p>27 ページ 海洋空間システムデザイン演習C</p> <p><u>削除</u></p>	<p>28 ページ 海洋空間システムデザイン演習C</p> <p><u>(MA19 加藤俊司) 浮体・係留・ライザー一体システムの挙動に関する最新技術等に関する課題を設定し、文献調査・解析・実験等を通して研究指導を行う。また、海洋構造物のリスク評価についての課題も対象とする。</u></p> <p><u>(MA21 福士淳司) 海上交通を表現する船舶の運動モデル、シミュレーションおよび操船シミュレータの技術に関する課題を設定し、文献調査・解析・実験等を通して研究指導を行う。</u></p> <p><u>(MA42 伊藤 (安藤) 博子) 海上交通安全の観点から、船舶の衝突リスク推定に必要な海上交通の特徴や遭遇頻度等に関する課題を設定し、文献調査・解析・実験等を通して研究指導を行う。</u></p>
<p>27 ページ 海洋空間システムデザイン演習D</p> <p><u>削除</u></p>	<p>28 ページ 海洋空間システムデザイン演習D</p> <p><u>(MA19 加藤俊司) 浮体・係留・ライザー一体システムの挙動に関する最新技術等に関する課題を設定し、文献調査・解析・実験等を通して研究指導を行う。また、海洋構造物のリスク評価</u></p>

新	旧
<p>28～29 ページ <u>海洋空間実践演習</u> <u>(MA⑦ 加藤俊司)</u> <u>(MA⑧ 福戸淳司)</u> <u>(MA⑨ 伊藤 (安藤) 博子)</u></p> <p>29 ページ <u>海洋宇宙システム工学実践演習</u> <u>(MA⑦ 加藤俊司)</u> <u>(MA⑧ 福戸淳司)</u> <u>(MA⑨ 伊藤 (安藤) 博子)</u></p> <p>41 ページ 材料設計スタジオ <u>削除</u></p> <p>41 ページ 材料創製スタジオ <u>削除</u></p> <p>41 ページ 組織制御スタジオ <u>削除</u></p>	<p><u>についての課題も対象とする。</u> <u>(MA21 福土淳司) 海上交通を表現する船舶の運動モデル, シミュレーションおよび操船シミュレータの技術に関する課題を設定し, 文献調査・解析・実験等を通して研究指導を行う。</u> <u>(MA42 伊藤 (安藤) 博子) 海上交通安全の観点から, 船舶の衝突リスク推定に必要な海上交通の特徴や遭遇頻度等に関する課題を設定し, 文献調査・解析・実験等を通して研究指導を行う。</u></p> <p>29 ページ <u>海洋空間実践演習</u> <u>(MA19 加藤俊司)</u> <u>(MA21 福戸淳司)</u> <u>(MA42 伊藤 (安藤) 博子)</u></p> <p>30 ページ <u>海洋宇宙システム工学実践演習</u> <u>(MA19 加藤俊司)</u> <u>(MA21 福戸淳司)</u> <u>(MA42 伊藤 (安藤) 博子)</u></p> <p>42 ページ 材料設計スタジオ <u>(MA20 下野昌人) 計算科学的手法を用いた材料設計に関する研究指導を行う。</u></p> <p>42 ページ 材料創製スタジオ <u>(MA44 戸田佳明) 高温構造材料設計工学に関する研究指導を行う。</u></p> <p>42 ページ 組織制御スタジオ <u>(MA43 出村雅彦) 加工・熱処理による材料組織制御に関するテーマを主題として研究指導を行</u></p>

新	旧
<p>41～42 ページ 材料特性スタジオ</p>	<p><u>う。</u> <u>(MA44 戸田佳明) 高温構造材料設計工学に関する研究指導を行う。</u></p> <p>42～43 ページ 材料特性スタジオ</p>
<p><u>削除</u></p>	<p><u>(MA20 下野昌人) 計算機科学的手法を用いた材料の特性予測に関する研究指導を行う。</u> <u>(MA43 出村雅彦) 金属間化合物等の先端材料について加工・熱処理による形態制御など材料創製に関するテーマを主題として研究指導を行う。</u></p>
<p>42 ページ 材料工学 R&D スタジオA</p>	<p>43 ページ 材料工学 R&D スタジオA</p>
<p><u>削除</u></p>	<p><u>(MA20 下野昌人) 計算科学手法に関する専門的立場から、運営・評価を担当する。</u> <u>(MA43 出村雅彦) 材料組織制御および金属間化合物に関する専門的立場から、運営・評価を担当する。</u> <u>(MA44 戸田佳明) 高温構造材料設計工学に関する専門的立場から、運営・評価を担当する。</u></p>
<p>42 ページ 材料工学 R&D スタジオB</p>	<p>44 ページ 材料工学 R&D スタジオB</p>
<p><u>削除</u></p>	<p><u>(MA20 下野昌人) 計算科学手法に関する専門的立場から、運営・評価を担当する。</u> <u>(MA43 出村雅彦) 材料組織制御および金属間化合物に関する専門的立場から、運営・評価を担当する。</u> <u>(MA44 戸田佳明) 高温構造材料設計工学に関する専門的立場から、運営・評価を担当する。</u></p>
<p>44 ページ マリタイムフロンティアサイエンススタジオA 本スタジオでは、海洋構造物及び海洋空間にお</p>	<p>45～46 ページ マリタイムフロンティアサイエンススタジオA 本スタジオでは、海洋構造物及び海洋空間にお</p>

新	旧
<p>る輸送機器等における各種課題や問題に対し、文献・解析・実験等を通じて最新の研究成果に基づいた調査・研究等を行なう事を目的とする。本スタジオは、本分野の最先端の研究を行なっている海上技術安全研究所の協力のもと実施するとともに、必要に応じて、マリタイムフロンティアサイエンススタジオBと連携して実施する。</p> <p><u>(MA① 川村恭己) 船舶海洋構造物におけるリスク評価、交通流シミュレーション、ヒューマンモデル等の観点から、海洋空間における各種問題に関連する課題を提供し、文献調査・解析・実験などを通じて研究指導を行う。</u></p> <p><u>(MA② 西佳樹) 深海資源開発において不可欠となるライザー管の流体構造連成力学、海洋開発に付随する海洋環境影響の把握手法などに関する課題を提供し、理論・数値計算・事件などを通じて研究指導を行う。</u></p> <p><u>(MA③ 村井基彦) 浮体構造物の設計的な視点から、浮体および付加物も含めたシステムの挙動などについての問題や課題設定を行い、それに関する研究指導を行う。</u></p>	<p>ける輸送機器等における各種課題や問題に対し、文献・解析・実験等を通じて最新の研究成果に基づいた調査・研究等を行なう事を目的とする。必要に応じて、マリタイムフロンティアサイエンススタジオBと連携して実施する</p> <p><u>(MA19 加藤俊司) 浮体構造物の設計に不可欠な、浮体・係留・ライザー一体システムの挙動や海洋構造物の施工やmarine operationに関する問題などに対して課題設定を行う。</u></p> <p><u>(MA21 福戸淳司) 船舶の操縦性、操船シミュレータ技術、交通流シミュレーション、避航操船支援、船舶の自動運航などの観点から課題を提供し、文献調査・解析・実験などを通して研究指導を行う。</u></p> <p><u>(MA42 伊藤(安藤) 博子) 船舶・海洋構造物とそれを動かす操船者やオペレータの意図形成との関わりや等について、ヒューマンファクター等の観点から課題を提供し、文献調査・解析・実験などを通じて研究指導を行う。</u></p>
<p>44 ページ マリタイムフロンティアサイエンススタジオB</p> <p>本スタジオでは、海洋構造物及び海洋空間における輸送機器等における各種課題や問題に対し、文献・解析・実験等を通じて最新の研究成果に基づいた調査・研究等を行なう事を目的とする。本スタジオは、本分野の最先端の研究を行なっている海上技術安全研究所の協力のもと実施するとともに、必要に応じて、マリタイムフロンティアサイエンススタジオAと連携して実施する。</p> <p><u>(MA① 川村恭己) 船舶海洋構造物におけるリスク評価、交通流シミュレーション、ヒューマンモデル等の観点から、海洋空間における各種問題に関連する課題を提供し、文献調査・解析・実験などを通じて研究指導を行う。</u></p> <p><u>(MA② 西佳樹) 深海資源開発において不可欠となるライザー管の流体構造連成力学、海洋開発に付随する海洋環境影響の把握手法などに関する</u></p>	<p>46 ページ マリタイムフロンティアサイエンススタジオB</p> <p>本スタジオでは、海洋構造物及び海洋空間における輸送機器等における各種課題や問題に対し、文献・解析・実験等を通じて最新の研究成果に基づいた調査・研究等を行なう事を目的とする。必要に応じて、マリタイムフロンティアサイエンススタジオAと連携して実施する</p> <p><u>(MA19 加藤俊司) 浮体構造物の設計に不可欠な、浮体・係留・ライザー一体システムの挙動や海洋構造物の施工やmarine operationに関する問題などに対して課題設定を行う。</u></p> <p><u>(MA21 福戸淳司) 船舶の操縦性、操船シミュレータ技術、交通流シミュレーション、避航操船支援、船舶の自動運航などの観点から課題を提</u></p>

新	旧
<p><u>る課題を提供し、理論・数値計算・事件などを通じて研究指導を行う。</u></p> <p><u>(MA③ 村井基彦) 浮体構造物の設計的な視点から、浮体および付加物も含めたシステムの挙動などについての問題や課題設定を行い、それに関する研究指導を行う。</u></p> <p>45 ページ 海洋空間 R&D スタジオA</p> <p>削除</p>	<p><u>供し、文献調査・解析・実験などを通して研究指導を行う。</u></p> <p><u>(MA42 伊藤 (安藤) 博子) 船舶・海洋構造物とそれを動かす操船者やオペレータの意図形成との関わりや等について、ヒューマンファクター等の観点から課題を提供し、文献調査・解析・実験などを通じて研究指導を行う。</u></p> <p>46～47 ページ 海洋空間 R&D スタジオA</p> <p><u>(MA19 加藤俊司) 浮体・係留・ライザー等の海洋開発や海洋構造物のリスク評価等に関する専門的立場から、運営及び指導と評価を行う。</u></p> <p><u>(MA21 福戸淳司) 海上交通安全工学・船舶操船シミュレーション等に関する専門的立場から、運営及び指導と評価を行う。</u></p> <p><u>(MA42 伊藤 (安藤) 博子) 海上交通安全工学・リスク 評価等の専門的立場から、運営及び指導と評価を行う。</u></p>
<p>45～46 ページ 海洋空間 R&D スタジオB</p> <p>削除</p>	<p>47 ページ 海洋空間 R&D スタジオB</p> <p><u>(MA19 加藤俊司) 浮体・係留・ライザー等の海洋開発や海洋構造物のリスク評価等に関する専門的立場から、運営及び指導と評価を行う。</u></p> <p><u>(MA21 戸田佳明) 海上交通安全工学・船舶操船シミュレーション等に関する専門的立場から、運営及び指導と評価を行う。</u></p> <p><u>(MA42 伊藤 (安藤) 博子) 海上交通安全工学・リスク評価等の専門的立場から、運営及び指導と評価を行う。</u></p>

新	旧
<p>27 ページ 化学応用・バイオ演習A</p> <p><u>(MB① 麦倉良啓)</u> <u>(MB② 山本融)</u> <u>(MB③ 森田寛)</u></p>	<p>27 ページ 化学応用・バイオ演習A</p> <p><u>(MB19 麦倉良啓)</u> <u>(MB20 山本融)</u> <u>(MB38 森田寛)</u></p>
<p>27～28 ページ 化学応用・バイオ演習B</p> <p><u>(MB① 麦倉良啓)</u> <u>(MB② 山本融)</u> <u>(MB③ 森田寛)</u></p>	<p>27 ページ 化学応用・バイオ演習B</p> <p><u>(MB19 麦倉良啓)</u> <u>(MB20 山本融)</u> <u>(MB38 森田寛)</u></p>
<p>29 ページ エネルギー化学演習AS</p> <p>削除</p>	<p>29 ページ エネルギー化学演習AS</p> <p><u>(MB19 麦倉良啓) エネルギー分野におけるエネルギー変換システム論に関連して輪講を行う。</u> <u>(MB20 山本融) エネルギー分野におけるセラミックスエネルギー工学に関連して輪講を行う。</u> <u>(MB39 森田寛) エネルギー分野における燃料電池工学に関連して輪講を行う。</u></p>
<p>29 ページ エネルギー化学演習AF</p> <p>削除</p>	<p>29～30 ページ エネルギー化学演習AF</p> <p><u>(MB19 麦倉良啓) エネルギー分野におけるエネルギー変換システム論に関連して演習を行う。</u> <u>(MB20 山本融) エネルギー分野におけるセラミックスエネルギー工学に関連して演習を行う。</u> <u>(MB39 森田寛) エネルギー分野における燃料電池工学に関連して演習を行う。</u></p>
<p>31 ページ 創エネルギー解析実習S</p> <p>削除</p>	<p>31 ページ 創エネルギー解析実習S</p> <p><u>(MB19 麦倉良啓) エネルギー分野におけるエネ</u></p>

<p>31 ページ 創エネルギー解析実習 F</p> <p><u>削除</u></p>	<p><u>ルギー変換システム論に関連して実習を行う。</u> <u>(MB20 山本融) エネルギー分野におけるセラミックスエネルギー工学に関連して実習を行う。</u> <u>(MB39 森田寛) エネルギー分野における燃料電池工学に関連して実習を行う。</u></p> <p>32 ページ 創エネルギー解析実習 F</p> <p><u>(MB19 麦倉良啓) エネルギー分野におけるエネルギー変換システム論に関連して実習を行う。</u> <u>(MB20 山本融) エネルギー分野におけるセラミックスエネルギー工学に関連して実習を行う。</u> <u>(MB39 森田寛) エネルギー分野における燃料電池工学に関連して実習を行う。</u></p>
<p>32 ページ 創エネルギー工学技術創生実習 S</p> <p><u>削除</u></p>	<p>32 ページ 創エネルギー工学技術創生実習 S</p> <p><u>(MB19 麦倉良啓) エネルギー分野におけるエネルギー変換システム論に関連して実習を行う。</u> <u>(MB20 山本融) エネルギー分野におけるセラミックスエネルギー工学に関連して実習を行う。</u> <u>(MB39 森田寛) エネルギー分野における燃料電池工学に関連して実習を行う。</u></p>
<p>32 ページ 創エネルギー工学技術創生実習 F</p> <p><u>削除</u></p>	<p>32～33 ページ 創エネルギー工学技術創生実習 F</p> <p><u>(MB19 麦倉良啓) エネルギー分野におけるエネルギー変換システム論に関連して実習を行う。</u> <u>(MB20 山本融) エネルギー分野におけるセラミックスエネルギー工学に関連して実習を行う。</u> <u>(MB39 森田寛) エネルギー分野における燃料電池工学に関連して実習を行う。</u></p>

新	旧
<p>25～26 ページ 電気電子ネットワーク演習 A</p> <p>削除</p>	<p>26 ページ 電気電子ネットワーク演習 A</p> <p><u>(MC23 辻 宏之) システム同定、適応フィルタ、アクティブノイズキャンセリング、アレーアンテナなど、信号の空間情報を利用した無線局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話システムに関する研究。</u></p>
<p>26～28 ページ 電気電子ネットワーク演習 B</p> <p>削除</p>	<p>27 ページ 電気電子ネットワーク演習 B</p> <p><u>(MC23 辻 宏之) システム同定、適応フィルタ、アクティブノイズキャンセリング、アレーアンテナなど、信号の空間情報を利用した無線局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話システムに関する研究。</u></p>
<p>28～29 ページ 電気電子ネットワーク演習 C</p> <p>削除</p>	<p>29 ページ 電気電子ネットワーク演習 C</p> <p><u>(MC23 辻 宏之) システム同定、適応フィルタ、アクティブノイズキャンセリング、アレーアンテナなど、信号の空間情報を利用した無線局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話システムに関する研究。</u></p>
<p>29～30 ページ 電気電子ネットワーク演習 D</p> <p>削除</p>	<p>30 ページ 電気電子ネットワーク演習 D</p> <p><u>(MC23 辻 宏之) システム同定、適応フィルタ、アクティブノイズキャンセリング、アレーアンテナなど、信号の空間情報を利用した無線局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話システムに関する研究。</u></p>

新	旧
<p>30～32 ページ 情報システム演習A</p> <p><u>削除</u></p>	<p>31 ページ 情報システム演習A</p> <p><u>(MC23 辻 宏之) システム同定、適応フィルタ、アクティブノイズキャンセリング、アレーアンテナなど、信号の空間情報を利用した無線局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話システムに関する研究。</u></p>
<p>32～33 ページ 情報システム演習B</p> <p><u>削除</u></p>	<p>33 ページ 情報システム演習B</p> <p><u>(MC23 辻 宏之) システム同定、適応フィルタ、アクティブノイズキャンセリング、アレーアンテナなど、信号の空間情報を利用した無線局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話システムに関する研究。</u></p>
<p>33～34 ページ 情報システム演習C</p> <p><u>削除</u></p>	<p>34 ページ 情報システム演習C</p> <p><u>(MC23 辻 宏之) システム同定、適応フィルタ、アクティブノイズキャンセリング、アレーアンテナなど、信号の空間情報を利用した無線局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話システムに関する研究。</u></p>
<p>34～36 ページ 情報システム演習D</p> <p><u>削除</u></p>	<p>36 ページ 情報システム演習D</p> <p><u>(MC23 辻 宏之) システム同定、適応フィルタ、アクティブノイズキャンセリング、アレーアンテナなど、信号の空間情報を利用した無線局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話システムに関する研究。</u></p>
<p>36～37 ページ 応用物理演習A</p> <p><u>削除</u></p>	<p>37 ページ 応用物理演習A</p> <p><u>(MC23 辻 宏之) システム同定、適応フィル</u></p>

新	旧
<p>37～38 ページ 応用物理演習 B</p> <p>削除</p>	<p><u>タ、アクティブノイズキャンセリング、アレー アンテナなど、信号の空間情報を利用した無線 局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話シ ステムに関する研究。</u></p> <p>38 ページ 応用物理演習 B</p>
<p>38～40 ページ 応用物理演習 C</p> <p>削除</p>	<p><u>(MC23 辻 宏之) システム同定、適応フィル タ、アクティブノイズキャンセリング、アレー アンテナなど、信号の空間情報を利用した無線 局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話シ ステムに関する研究。</u></p> <p>40 ページ 応用物理演習 C</p>
<p>40～41 ページ 応用物理演習 D</p> <p>削除</p>	<p><u>(MC23 辻 宏之) システム同定、適応フィル タ、アクティブノイズキャンセリング、アレー アンテナなど、信号の空間情報を利用した無線 局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話シ ステムに関する研究。</u></p> <p>41 ページ 応用物理演習 D</p>
<p>47～48 ページ 情報通信技術 S</p> <p>削除</p>	<p>48～49 ページ 情報通信技術 S</p> <p><u>(MC22 庄木裕樹) 衛星放送、固定無線アクセ ス、移動通信などのための衛星搭載アンテナ、 平面アンテナ、端末アンテナなどの設計に関す る研究や、アレイアンテナの構成、適応制御に 関する研究、電磁界解析理論、ダイバーシティ</u></p>

新	旧
<p>48 ページ 情報通信技術 F</p>	<p><u>制御、無線電力制御に関する研究。</u> <u>(MC24 渡邊聡一) 携帯電話などの無線機器による人体への影響を防ぐ電波防護指針に関する研究や電波の生体に対する影響の測定法、評価法、人体ファントムモデルに関する研究、電波比吸収率 (SAR)、暴露量などの測定システムに関する研究。</u> <u>(MC23 辻 宏之) システム同定、適応フィルタ、アクティブノイズキャンセリング、アレイアンテナなど、信号の空間情報を利用した無線局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話システムに関する研究。</u></p> <p>49 ページ 情報通信技術 F</p>
<p><u>削除</u></p> <p>55 ページ 高度情報ネットワークシステム S</p> <p><u>削除</u></p>	<p><u>(MC22 庄木裕樹) 衛星放送、固定無線アクセス、移動通信などのための衛星搭載アンテナ、平面アンテナ、端末アンテナなどの設計に関する研究や、アレイアンテナの構成、適応制御に関する研究、電磁界解析理論、ダイバーシティ制御、無線電力制御に関する研究。</u> <u>(MC24 渡邊聡一) 携帯電話などの無線機器による人体への影響を防ぐ電波防護指針に関する研究や電波の生体に対する影響の測定法、評価法、人体ファントムモデルに関する研究、電波比吸収率 (SAR)、暴露量などの測定システムに関する研究。</u> <u>(MC23 辻 宏之) システム同定、適応フィルタ、アクティブノイズキャンセリング、アレイアンテナなど、信号の空間情報を利用した無線局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話システムに関する研究。</u></p> <p>56 ページ 高度情報ネットワークシステム S</p> <p><u>(MC24 渡邊聡一) 携帯電話などの無線機器による人体への影響を防ぐ電波防護指針に関する研究や電波の生体に対する影響の測定法、評価</u></p>

新	旧
<p>55～56 ページ 高度情報ネットワークシステムF</p> <p><u>削除</u></p>	<p><u>法、人体ファントムモデルに関する研究、電波比吸収率 (SAR)、暴露量などの測定システムに関する研究。</u></p> <p><u>(MC23 辻 宏之) システム同定、適応フィルタ、アクティブノイズキャンセリング、アレーアンテナなど、信号の空間情報を利用した無線局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話システムに関する研究。</u></p> <p>57 ページ 高度情報ネットワークシステムF</p> <p><u>(MC24 渡邊聡一) 携帯電話などの無線機器による人体への影響を防ぐ電波防護指針に関する研究や電波の生体に対する影響の測定法、評価法、人体ファントムモデルに関する研究、電波比吸収率 (SAR)、暴露量などの測定システムに関する研究。</u></p> <p><u>(MC23 辻 宏之) システム同定、適応フィルタ、アクティブノイズキャンセリング、アレーアンテナなど、信号の空間情報を利用した無線局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話システムに関する研究。</u></p>

新	旧
<p>5 ページ 材料工学特別演習</p> <p>削除</p>	<p>5 ページ 材料工学特別演習</p> <p><u>(DA19 下野昌人) 学位論文の主題と関連して必要となる計算科学手法について研究指導を行う。</u></p> <p><u>(DA42 出村雅彦) 変形・再結晶材料組織, 金属間化合物の塑性変形に関する学位論文テーマを主題として研究指導を行う。</u></p> <p><u>(DA43 戸田佳明) 高温構造材料設計工学に関する研究指導を行う。</u></p>
<p>5～6 ページ 材料工学教育研修</p> <p><u>(DA①下野昌人)</u> <u>(DA②出村雅彦)</u> <u>(DA③戸田佳明)</u></p>	<p>5 ページ 材料工学教育研修</p> <p><u>(DA19 下野昌人)</u> <u>(DA42 出村雅彦)</u> <u>(DA43 戸田佳明)</u></p>
<p>6 ページ 材料工学学外研修</p> <p><u>(DA①下野昌人)</u> <u>(DA②出村雅彦)</u> <u>(DA③戸田佳明)</u></p>	<p>5 ページ 材料工学学外研修</p> <p><u>(DA19 下野昌人)</u> <u>(DA42 出村雅彦)</u> <u>(DA43 戸田佳明)</u></p>
<p>6 ページ 材料工学特別研究</p> <p><u>(DA①下野昌人)</u> <u>(DA②出村雅彦)</u> <u>(DA③戸田佳明)</u></p>	<p>5 ページ 材料工学特別研究</p> <p><u>(DA19 下野昌人)</u> <u>(DA42 出村雅彦)</u> <u>(DA43 戸田佳明)</u></p>
<p>8 ページ 海洋宇宙システム工学特別演習</p>	<p>8～9 ページ 海洋宇宙システム工学特別演習</p> <p><u>(DA18 加藤俊司) 浮体・係留・ライザー一体シ</u></p>

新	旧
<p>削除</p>	<p><u>システムの挙動に関する最新技術や marine operation に関する技術に関する課題を提供し、文献調査・解析・実験等を通じた指導を行う。</u> <u>(DA20 福戸淳司) 海上交通を表現する船舶の運動モデル、シミュレーションおよび操船シミュレータの技術に関する課題を提供し、文献調査・解析・実験等を通じた指導を行う。</u> <u>(DA41 伊藤 (安藤) 博子) 海上交通安全の観点から、船舶の衝突リスク推定に必要な海上交通の特徴や遭遇頻度等に関する課題を設定し、文献調査・解析・実験等を通して研究指導を行う。</u></p>
<p>13～14 ページ サブ・リサーチ材料工学演習</p>	<p>14 ページ サブ・リサーチ材料工学演習</p>
<p>削除</p>	<p><u>(DA19 下野昌人) 学位論文のテーマと関連する計算科学手法について研究指導を行う。</u> <u>(DA42 出村雅彦) 変形・再結晶材料組織、金属間化合物の塑性変形とこれらの工学適用に関する学位論文テーマを主題として研究指導を行う。</u> <u>(DA43 戸田佳明) 高温構造材料設計工学に関する研究指導を行う。</u></p>
<p>14 ページ 材料工学国際インターンシップ</p> <p><u>(DA①下野昌人)</u> <u>(DA②出村雅彦)</u> <u>(DA③戸田佳明)</u></p>	<p>14 ページ 材料工学国際インターンシップ</p> <p><u>(DA19 下野昌人)</u> <u>(DA42 出村雅彦)</u> <u>(DA43 戸田佳明)</u></p>
<p>14～15 ページ 海洋宇宙システム工学特別研究</p> <p><u>(DA④加藤俊司)</u> <u>(DA⑤福戸淳司)</u> <u>(DA⑥伊藤 (安藤) 博子)</u></p>	<p>15～16 ページ 海洋宇宙システム工学特別研究</p> <p><u>(DA18 加藤俊司)</u> <u>(DA20 福戸淳司)</u> <u>(DA41 伊藤 (安藤) 博子)</u></p>
<p>15～16 ページ 海洋宇宙システム工学教育研修</p>	<p>16 ページ 海洋宇宙システム工学教育研修</p>

新	旧
<p><u>(DA④加藤俊司)</u> <u>(DA⑤福戸淳司)</u> <u>(DA⑥伊藤 (安藤) 博子)</u></p> <p>16～17 ページ 海洋宇宙システム工学学外研修</p>	<p><u>(DA18 加藤俊司)</u> <u>(DA20 福戸淳司)</u> <u>(DA41 伊藤 (安藤) 博子)</u></p> <p>16～17 ページ 海洋宇宙システム工学学外研修</p>
<p><u>(DA④加藤俊司)</u> <u>(DA⑤福戸淳司)</u> <u>(DA⑥伊藤 (安藤) 博子)</u></p> <p>17 ページ サブ・リサーチ海洋宇宙システム工学演習</p>	<p><u>(DA18 加藤俊司)</u> <u>(DA20 福戸淳司)</u> <u>(DA41 伊藤 (安藤) 博子)</u></p> <p>17～18 ページ サブ・リサーチ海洋宇宙システム工学演習</p>
<p><u>削除</u></p>	<p><u>(DA18 加藤俊司) 浮体・係留・ライザー、marine operation 等の技術に関する学位論文の内容とは異なる課題を提供し、文献調査・解析・実験等を通じた指導を行う。</u> <u>(DA20 福戸淳司) 海上交通を表現する船舶の運動モデル、シミュレーションおよび操船シミュレータの技術、航海支援機器等の観点から学位論文の内容とは異なる課題を提供し、文献調査・解析・実験等を通じた指導を行う。</u> <u>(DA41 伊藤 (安藤) 博子) 海上交通安全の観点から、学位論文の内容とは直接関与しない各種リスクに関する課題を提供し、文献調査・解析・実験等を通して指導を行う。</u></p>

新	旧
<p>9～10 ページ 化学応用・バイオ特別演習</p> <p>削除</p>	<p>10 ページ 化学応用・バイオ特別演習</p> <p><u>(DB16 麦倉良啓) エネルギー分野におけるエネルギーシステム論に関連して演習を行う。</u></p> <p><u>(DB17 山本融) エネルギー分野におけるエネルギー素材科学に関連して演習を行う。</u></p> <p><u>(DB36 森田寛) エネルギー分野におけるエネルギー変換プロセスに関連して演習を行う。</u></p>

新	旧
<p>1 ページ システム設計実習</p> <p><u>削除</u></p>	<p>1 ページ システム設計実習</p> <p><u>(DC24 渡邊聡一) 携帯電話などの無線機器による人体への影響を防ぐ電波防護指針に関する研究や電波の生体に対する影響の測定法、評価法、人体ファントムモデルに関する研究、電波比吸収率 (SAR)、暴露量などの測定システムに関する研究。</u></p>
<p>13～15 ページ 電気電子ネットワーク特別演習</p> <p><u>削除</u></p>	<p>14 ページ 電気電子ネットワーク特別演習</p> <p><u>(DC22 庄木裕樹) 無線電力伝送、アンテナ設計、アレイ信号処理などの理論、および衛星放送、移動通信、無線 LAN、レーダなどの実用システムの開発に関する研究。</u></p> <p><u>(DC23 辻 宏之) システム同定、適応フィルタ、アクティブノイズキャンセリング、アレイアンテナなど、信号の空間情報を利用した無線局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話システムに関する研究。</u></p>
<p>17～18 ページ 情報システム特別演習</p> <p><u>削除</u></p>	<p>17 ページ 情報システム特別演習</p> <p><u>(DC22 庄木裕樹) 無線電力伝送、アンテナ設計、アレイ信号処理などの理論、および衛星放送、移動通信、無線 LAN、レーダなどの実用システムの開発に関する研究。</u></p> <p><u>(DC23 辻 宏之) システム同定、適応フィルタ、アクティブノイズキャンセリング、アレイアンテナなど、信号の空間情報を利用した無線局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話システムに関する研究。</u></p>
<p>20～21 ページ 応用物理特別演習</p> <p><u>削除</u></p>	<p>20 ページ 応用物理特別演習</p> <p><u>(DC22 庄木裕樹) 無線電力伝送、アンテナ設</u></p>

新	旧
	<p><u>計、アレイ信号処理などの理論、および衛星放送、移動通信、無線LAN、レーダなどの実用システムの開発に関する研究。</u></p> <p><u>(DC23 辻 宏之) システム同定、適応フィルタ、アクティブノイズキャンセリング、アレイアンテナなど、信号の空間情報を利用した無線局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話システムに関する研究。</u></p>

(新旧対照表) シラバス

大学院理工学府 博士課程前期 機械・材料・海洋系工学専攻

新	旧
<p>175 ページ</p> <p>科目名 材料工学演習 A</p> <p>担当教員 梅澤 修、中尾 航、廣澤 涉一、向井 剛輝、中津川 博、長谷川 誠、前野 智美</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p>削除</p> <p>(以下略)</p>	<p>175 ページ</p> <p>科目名 材料工学演習 A</p> <p>担当教員 梅澤 修、中尾 航、廣澤 涉一、向井 剛輝、中津川 博、長谷川 誠、前野 智美、<u>下野 昌人、出村 雅彦、戸田 佳明</u></p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>(下野) 材料工学において用いられる計算科学手法に関する研究指導を行う。</u></p> <p><u>(出村) 変形・再結晶材料組織, 金属間化合物の塑性変形に関する研究指導を行う。</u></p> <p><u>(戸田) 高温構造材料設計工学に関する研究指導を行う。</u></p> <p>(以下略)</p>
<p>177 ページ</p> <p>科目名 材料工学演習 B</p> <p>担当教員 梅澤 修、中尾 航、廣澤 涉一、向井 剛輝、中津川 博、長谷川 誠、前野 智美</p> <p>(略)</p> <p>【授業科目】</p> <p>(略)</p> <p>削除</p>	<p>177 ページ</p> <p>科目名 材料工学演習 B</p> <p>担当教員 梅澤 修、中尾 航、廣澤 涉一、向井 剛輝、中津川 博、長谷川 誠、前野 智美、<u>下野 昌人、出村 雅彦、戸田 佳明</u></p> <p>(略)</p> <p>【授業科目】</p> <p>(略)</p> <p><u>(下野) 材料工学において用いられる計算科学</u></p>

新	旧
<p>(以下略)</p> <p>179 ページ</p> <p>科目名 材料工学演習C</p> <p>担当教員 梅澤 修、中尾 航、廣澤 涉一、向井 剛輝、中津川 博、長谷川 誠、前野 智美</p> <p>(略)</p> <p>【授業科目】</p> <p>(略)</p> <p><u>削除</u></p> <p>(以下略)</p>	<p><u>手法に関する研究指導を行う。</u></p> <p><u>(出村) 変形・再結晶材料組織、金属間化合物の塑性変形に関する研究指導を行う。</u></p> <p><u>(戸田) 高温構造材料設計工学に関する研究指導を行う。</u></p> <p>(以下略)</p> <p>179 ページ</p> <p>科目名 材料工学演習C</p> <p>担当教員 梅澤 修、中尾 航、廣澤 涉一、向井 剛輝、中津川 博、長谷川 誠、前野 智美、<u>下野 昌人、出村 雅彦、戸田 佳明</u></p> <p>(略)</p> <p>【授業科目】</p> <p>(略)</p> <p><u>(下野) 修士論文テーマと関連する計算科学的手法に関する研究指導を行う。</u></p> <p><u>(出村) 変形・再結晶材料組織、金属間化合物の塑性変形に関する修士論文テーマを主題として研究指導を行う。</u></p> <p><u>(戸田) 高温構造材料設計工学に関する研究指導を行う。</u></p> <p>(以下略)</p>
<p>181 ページ</p> <p>科目名 材料工学演習D</p> <p>担当教員 梅澤 修、中尾 航、廣澤 涉一、向井 剛輝、中津川 博、長谷川 誠、前野 智美</p> <p>(略)</p>	<p>181 ページ</p> <p>科目名 材料工学演習D</p> <p>担当教員 梅澤 修、中尾 航、廣澤 涉一、向井 剛輝、中津川 博、長谷川 誠、前野 智美、<u>下野 昌人、出村 雅彦、戸田 佳明</u></p> <p>(略)</p>

新	旧
<p>【授業科目】</p> <p>(略)</p> <p><u>削除</u></p> <p>(以下略)</p> <p>201～202 ページ 科目名 海洋宇宙システム工学演習 A</p> <p>担当教員 上野誠也, 岡田哲男, 川村恭己, 日野孝則, 高木洋平, 西佳樹, 樋口丈浩, 平川嘉昭, 宮路幸二, 村井基彦</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>削除</u></p>	<p>【授業科目】</p> <p>(略)</p> <p><u>(下野) 材料工学において用いられる計算科学手法に関する研究指導を行う。</u></p> <p><u>(出村) 変形・再結晶材料組織, 金属間化合物の塑性変形に関する研究指導を行う。</u></p> <p><u>(戸田) 高温構造材料設計工学に関する研究指導を行う。</u></p> <p>(以下略)</p> <p>201～202 ページ 科目名 海洋宇宙システム工学演習 A</p> <p>担当教員 上野誠也, 岡田哲男, 川村恭己, 日野孝則, 高木洋平, 西佳樹, 樋口丈浩, 平川嘉昭, 宮路幸二, 村井基彦, <u>加藤俊司, 福戸淳司, 伊藤博子</u></p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>(加藤俊司) 浮体・係留・ライザー一体システムの挙動に関する最新技術等に関する課題を設定し, 文献調査・解析・実験等を通して研究指導を行う。また, 海洋構造物のリスク評価についての課題も対象とする。</u></p> <p><u>(福戸淳司) 海上交通を表現する船舶の運動モデル, シミュレーションおよび操船シミュレータの技術に関する課題を設定し, 文献調査・解析・実験等を通して研究指導を行う。</u></p> <p><u>(伊藤(安藤)博子) 海上交通安全の観点から, 船舶の衝突リスク推定に必要な海上交通の特徴や遭遇頻度等に関する課題を設定し, 文献調査・解析・実験等を通して研究指導を行う。</u></p>

新	旧
<p>(以下略)</p> <p>203～204 ページ</p> <p>科目名 海洋宇宙システム工学演習B</p> <p>担当教員 上野誠也, 岡田哲男, 川村恭己, 日野孝則, 高木洋平, 西佳樹, 樋口丈浩, 平川嘉昭, 宮路幸二, 村井基彦</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p>削除</p> <p>(以下略)</p>	<p>(以下略)</p> <p>203～204 ページ</p> <p>科目名 海洋宇宙システム工学演習B</p> <p>担当教員 上野誠也, 岡田哲男, 川村恭己, 日野孝則, 高木洋平, 西佳樹, 樋口丈浩, 平川嘉昭, 宮路幸二, 村井基彦, <u>加藤俊司, 福戸淳司, 伊藤博子</u></p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>(加藤俊司) 浮体・係留・ライザー一体システムの挙動に関する最新技術等に関する課題を設定し, 文献調査・解析・実験等を通して研究指導を行う。また, 海洋構造物のリスク評価についての課題も対象とする。</u></p> <p><u>(福戸淳司) 海上交通を表現する船舶の運動モデル, シミュレーションおよび操船シミュレータの技術に関する課題を設定し, 文献調査・解析・実験等を通して研究指導を行う。</u></p> <p><u>(伊藤(安藤)博子) 海上交通安全の観点から, 船舶の衝突リスク推定に必要な海上交通の特徴や遭遇頻度等に関する課題を設定し, 文献調査・解析・実験等を通して研究指導を行う。</u></p> <p>(以下略)</p>
<p>205 ページ</p> <p>科目名 海洋空間システムデザイン演習C</p> <p>担当教員 岡田哲男, 川村恭己, 日野孝則, 高木洋平, 西佳樹, 平川嘉昭, 村井基彦</p> <p>(略)</p>	<p>205 ページ</p> <p>科目名 海洋空間システムデザイン演習C</p> <p>担当教員 岡田哲男, 川村恭己, 日野孝則, 高木洋平, 西佳樹, 平川嘉昭, 村井基彦, <u>加藤俊司, 福戸淳司, 伊藤博子</u></p> <p>(略)</p>

新	旧
<p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p>削除</p> <p>(以下略)</p> <p>207 ページ</p> <p>科目名 海洋空間システムデザイン演習D</p> <p>担当教員 岡田哲男, 川村恭己, 日野孝則, 高木洋平, 西佳樹, 平川嘉昭, 村井基彦</p> <p>(略)</p>	<p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>(加藤俊司) 浮体・係留・ライザー一体システムの挙動に関する最新技術等に関する課題を設定し, 文献調査・解析・実験等を通して研究指導を行う。また, 海洋構造物のリスク評価についての課題も対象とする。</u></p> <p><u>(福戸淳司) 海上交通を表現する船舶の運動モデル, シミュレーションおよび操船シミュレータの技術に関する課題を設定し, 文献調査・解析・実験等を通して研究指導を行う。</u></p> <p><u>(伊藤(安藤) 博子) 海上交通安全の観点から, 船舶の衝突リスク推定に必要な海上交通の特徴や遭遇頻度等に関する課題を設定し, 文献調査・解析・実験等を通して研究指導を行う。</u></p> <p>(以下略)</p> <p>207～208 ページ</p> <p>科目名 海洋空間システムデザイン演習D</p> <p>担当教員 岡田哲男, 川村恭己, 日野孝則, 高木洋平, 西佳樹, 平川嘉昭, 村井基彦, <u>加藤俊司, 福戸淳司, 伊藤博子</u></p> <p>(略)</p>
<p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p>削除</p>	<p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>(加藤俊司) 浮体・係留・ライザー一体システムの挙動に関する最新技術等に関する課題を設定し, 文献調査・解析・実験等を通して研究指導を行う。また, 海洋構造物のリスク評価についての課題も対象とする。</u></p> <p><u>(福戸淳司) 海上交通を表現する船舶の運動モデル, シミュレーションおよび操船シミュレータの技術に関する課題を設定し, 文献調査・解析・実験等を通して研究指導を行う。</u></p>

新	旧
<p>(以下略)</p> <p>279 ページ</p> <p>科目名 材料設計スタジオ</p> <p>担当教員 梅澤 修、中尾 航、向井 剛輝、中津川 博</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>削除</u></p> <p>(以下略)</p>	<p><u>(伊藤 (安藤) 博子) 海上交通安全の観点から、船舶の衝突リスク推定に必要な海上交通の特徴や遭遇頻度等に関する課題を設定し、文献調査・解析・実験等を通して研究指導を行う。</u></p> <p>(以下略)</p> <p>279 ページ</p> <p>科目名 材料設計スタジオ</p> <p>担当教員 梅澤 修、中尾 航、向井 剛輝、中津川 博、<u>下野 昌人</u></p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>(下野) 計算科学的手法を用いた材料設計に関する研究指導を行う。</u></p> <p>(以下略)</p>
<p>280 ページ</p> <p>科目名 材料創製スタジオ</p> <p>担当教員 中尾 航、廣澤 渉一、中津川博、前野 智美</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>削除</u></p> <p>(以下略)</p>	<p>280 ページ</p> <p>科目名 材料創製スタジオ</p> <p>担当教員 中尾 航、廣澤 渉一、中津川博、前野 智美、<u>戸田 佳明</u></p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>(戸田) 高温構造材料設計工学に関する研究指導を行う。</u></p> <p>(以下略)</p>

新	旧
<p>281 ページ</p> <p>科目名 組織制御スタジオ</p> <p>担当教員 梅澤 修、廣澤 渉一、長谷川 誠、出村 雅彦</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>削除</u></p> <p>(以下略)</p>	<p>281 ページ</p> <p>科目名 組織制御スタジオ</p> <p>担当教員 梅澤 修、廣澤 渉一、長谷川 誠、<u>出村 雅彦、戸田 佳明</u></p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>(出村) 加工・熱処理による材料組織制御に関するテーマを主題として研究指導を行う。</u></p> <p><u>(戸田) 高温構造材料設計工学に関する研究指導を行う。</u></p> <p>(以下略)</p>
<p>282 ページ</p> <p>科目名 材料特性スタジオ</p> <p>担当教員 向井 剛輝、長谷川 誠、前野 智</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>削除</u></p> <p>(以下略)</p>	<p>282 ページ</p> <p>科目名 材料特性スタジオ</p> <p>担当教員 向井 剛輝、長谷川 誠、前野 智美、<u>下野 昌人、出村 雅彦</u></p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>(下野) 計算機科学的手法を用いた材料の特性予測に関する研究指導を行う。</u></p> <p><u>(出村) 金属間化合物等の先端材料について加工・熱処理による形態制御など材料創製に関するテーマを主題として研究指導を行う。</u></p> <p>(以下略)</p>

新	旧
<p>283 ページ</p> <p>科目名 材料工学 R&D スタジオ A</p> <p>担当教員 梅澤 修、中尾 航、廣澤 涉一、向井 剛輝、中津川 博、長谷川 誠、前野 智美</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p>削除</p> <p>(以下略)</p>	<p>283 ページ</p> <p>科目名 材料工学 R&D スタジオ A</p> <p>担当教員 梅澤 修、中尾 航、廣澤 涉一、向井 剛輝、中津川 博、長谷川 誠、前野 智美、<u>下野 昌人、出村 雅彦、戸田 佳明</u></p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>(下野) 計算科学手法に関する専門的立場から、運営・評価を担当する。</u></p> <p><u>(出村) 材料組織制御および金属間化合物に関する専門的立場から、運営・評価を担当する。</u></p> <p><u>(戸田) 高温構造材料設計工学に関する専門的立場から、運営・評価を担当する。</u></p> <p>(以下略)</p>
<p>284 ページ</p> <p>科目名 材料工学 R&D スタジオ B</p> <p>担当教員 梅澤 修、中尾 航、廣澤 涉一、向井 剛輝、中津川 博、長谷川 誠、前野 智美</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p>削除</p>	<p>284 ページ</p> <p>科目名 材料工学 R&D スタジオ B</p> <p>担当教員 梅澤 修、中尾 航、廣澤 涉一、向井 剛輝、中津川 博、長谷川 誠、前野 智美、<u>下野 昌人、出村 雅彦、戸田 佳明</u></p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>(下野) 計算科学手法に関する専門的立場から、運営・評価を担当する。</u></p> <p><u>(出村) 材料組織制御および金属間化合物に関する専門的立場から、運営・評価を担当する。</u></p> <p><u>(戸田) 高温構造材料設計工学に関する専門的立場から、運営・評価を担当する。</u></p>

新	旧
<p>(以下略)</p> <p>297～298 ページ</p> <p>科目名 マリタイムフロンティアサイエンススタジオA</p> <p>担当教員 <u>川村恭己、村井基彦、西佳樹</u></p> <p>【授業目的】 本スタジオでは、海洋構造物及び海洋空間における輸送機器等における各種課題や問題に対し、文献・解析・実験等を通じて最新の研究成果に基づいた調査・研究等を行なう事を目的とする。<u>本スタジオは、本分野の最先端の研究を行なっている海上技術安全研究所の協力のもと実施するとともに、必要に応じて、マリタイムフロンティアサイエンススタジオBと連携して実施する。</u></p> <p>【授業計画】 (略)</p> <p><u>(川村恭己) 船舶海洋構造物におけるリスク評価、交通流シミュレーション、ヒューマンモデル等の観点から、海洋空間における各種問題に関連する課題を提供し、文献調査・解析・実験などを通じて研究指導を行う。</u></p> <p><u>(西佳樹) 深海資源開発において不可欠となるライザー管の流体構造連成力学、海洋開発に付随する海洋環境影響の把握手法などに関する課題を提供し、理論・数値計算・事件などを通じて研究指導を行う。</u></p> <p><u>(村井基彦) 浮体構造物の設計的な視点から、浮体および付加物も含めたシステムの挙動などについての問題や課題設定を行い、それに関する研究指導を行う。</u></p> <p>(以下略)</p>	<p>(以下略)</p> <p>297～296 ページ</p> <p>科目名 マリタイムフロンティアサイエンススタジオA</p> <p>担当教員 <u>加藤俊司、福戸淳司、伊藤博子</u></p> <p>【授業目的】 本スタジオでは、海洋構造物及び海洋空間における輸送機器等における各種課題や問題に対し、文献・解析・実験等を通じて最新の研究成果に基づいた調査・研究等を行なう事を目的とする。必要に応じて、マリタイムフロンティアサイエンススタジオBと連携して実施する。</p> <p>【授業計画】 (略)</p> <p><u>(加藤俊司) 浮体構造物の設計に不可欠な、浮体・係留・ライザー一体システムの挙動や海洋構造物の施工やmarine operationに関する問題などに対して課題設定を行う。</u></p> <p><u>(福戸淳司) 船舶の操縦性、操船シミュレータ技術、交通流シミュレーション、避航操船支援、船舶の自動運航などの観点から課題を提供し、文献調査・解析・実験などを通して研究指導を行う。</u></p> <p><u>(伊藤(安藤) 博子) 船舶・海洋構造物とそれを動かす操船者やオペレータの意図形成との関わりや等について、ヒューマンファクター等の観点から課題を提供し、文献調査・解析・実験などを通じて研究指導を行う。</u></p> <p>(以下略)</p>

新	旧
<p>299～300 ページ</p> <p>科目名 マリタイムフロンティアサイエンススタジオB</p> <p>担当教員 川村恭己、村井基彦、西佳樹</p> <p>【授業目的】 本スタジオでは、海洋構造物及び海洋空間における輸送機器等における各種課題や問題に対し、文献・解析・実験等を通じて最新の研究成果に基づいた調査・研究等を行なう事を目的とする。<u>本スタジオは、本分野の最先端の研究を行なっている海上技術安全研究所の協力のもと実施するとともに、必要に応じて、マリタイムフロンティアサイエンススタジオAと連携して実施する。</u></p> <p>【授業計画】 (略) <u>(川村恭己) 船舶海洋構造物におけるリスク評価、交通流シミュレーション、ヒューマンモデル等の観点から、海洋空間における各種問題に関連する課題を提供し、文献調査・解析・実験などを通じて研究指導を行う。</u> <u>(西佳樹) 深海資源開発において不可欠となるライザー管の流体構造連成力学、海洋開発に付随する海洋環境影響の把握手法などに関する課題を提供し、理論・数値計算・事件などを通じて研究指導を行う。</u> <u>(村井基彦) 浮体構造物の設計的な視点から、浮体および付加物も含めたシステムの挙動などについての問題や課題設定を行い、それに関する研究指導を行う。</u></p> <p>(以下略)</p>	<p>299～300 ページ</p> <p>科目名 マリタイムフロンティアサイエンススタジオB</p> <p>担当教員 加藤俊司、福戸淳司、伊藤博子</p> <p>【授業目的】 本スタジオでは、海洋構造物及び海洋空間における輸送機器等における各種課題や問題に対し、文献・解析・実験等を通じて最新の研究成果に基づいた調査・研究等を行なう事を目的とする。必要に応じて、マリタイムフロンティアサイエンススタジオBと連携して実施する。</p> <p>【授業計画】 (略) <u>(加藤俊司) 浮体構造物の設計に不可欠な、浮体・係留・ライザー一体システムの挙動や海洋構造物の施工やmarine operationに関する問題などに対して課題設定を行う。</u> <u>(福戸淳司) 船舶の操縦性、操船シミュレータ技術、交通流シミュレーション、避航操船支援、船舶の自動運航などの観点から課題を提供し、文献調査・解析・実験などを通して研究指導を行う。</u> <u>(伊藤(安藤)博子) 船舶・海洋構造物とそれを動かす操船者やオペレータの意図形成との関わりや等について、ヒューマンファクター等の観点から課題を提供し、文献調査・解析・実験などを通じて研究指導を行う。</u></p> <p>(以下略)</p>
<p>301 ページ</p> <p>科目名 海洋空間 R&D スタジオA</p> <p>担当教員 上野誠也、岡田哲男、川村恭</p>	<p>301 ページ</p> <p>科目名 海洋空間 R&D スタジオA</p> <p>担当教員 上野誠也、岡田哲男、川村恭</p>

新	旧
己、日野孝則、高木洋平、西佳樹、樋口丈浩、平川嘉昭、宮路幸二、村井基彦	己、日野孝則、高木洋平、西佳樹、樋口丈浩、平川嘉昭、宮路幸二、村井基彦、 <u>加藤俊司、福戸淳司、伊藤博子</u>
(略)	(略)
【授業計画】	【授業計画】
(略)	(略)
削除	<u>(福戸淳司) 海上交通安全工学・船舶操船シミュレーション等に関する専門的立場から、運営及び指導と評価を行う。</u>
(以下略)	<u>(伊藤博子) 海上交通安全工学・リスク評価等の専門的立場から、運営及び指導と評価を行う。</u>
303 ページ	303 ページ
科目名 海洋空間 R&D スタジオ B	科目名 海洋空間 R&D スタジオ B
担当教員 上野誠也、岡田哲男、川村恭己、日野孝則、高木洋平、西佳樹、樋口丈浩、平川嘉昭、宮路幸二、村井基彦	担当教員 上野誠也、岡田哲男、川村恭己、日野孝則、高木洋平、西佳樹、樋口丈浩、平川嘉昭、宮路幸二、村井基彦、 <u>加藤俊司、福戸淳司、伊藤博子</u>
(略)	(略)
【授業計画】	【授業計画】
(略)	(略)
削除	<u>(福戸淳司) 海上交通安全工学・船舶操船シミュレーション等に関する専門的立場から、運営及び指導と評価を行う。</u>
(以下略)	<u>(伊藤博子) 海上交通安全工学・リスク評価等の専門的立場から、運営及び指導と評価を行う。</u>
(以下略)	(以下略)

新	旧
<p>228～229 ページ</p> <p>科目名 エネルギー化学演習A S</p> <p>担当教員 岡崎 慎司, 光島 重徳, 吉武 英昭, 松澤 幸一, 森 昌司, 黒田 義之 (OKAZAKI SHINJI, MITSUSHIMA SHIGENORI, YOSHITAKE HIDEAKI, MATSUZAWA KOICHI, MORI SHOJIM, KURODA YOSHIYUKI)</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】 (略)</p> <p><u>削除</u></p> <p>(以下略)</p>	<p>228～229 ページ</p> <p>科目名 エネルギー化学演習A S</p> <p>担当教員 岡崎 慎司, 光島 重徳, 吉武 英昭, 松澤 幸一, 森 昌司, 黒田 義之, <u>(<u>麦倉 良啓</u>)</u>, <u>(<u>山本 融</u>)</u>, <u>(<u>森田 寛</u>)</u> (OKAZAKI SHINJI, MITSUSHIMA SHIGENORI, YOSHITAKE HIDEAKI, MATSUZAWA KOICHI, MORI SHOJIM, KURODA YOSHIYUKI, <u>MUGIKURA YOSIHIRO</u>, <u>YAMAMOTO TOERU</u>, <u>MORITA HOROSHI</u>)</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】 (略)</p> <p><u>(<u>麦倉良啓</u>) エネルギー分野におけるエネルギー変換システム論に関連して輪講を行う。</u></p> <p><u>(<u>山本融</u>) エネルギー分野におけるセラミックスエネルギー工学に関連して輪講を行う。</u></p> <p><u>(<u>森田寛</u>) エネルギー分野における燃料電池工学に関連して輪講を行う。</u></p> <p>(以下略)</p>
<p>230 ページ</p> <p>科目名 エネルギー化学演習A F</p> <p>担当教員 岡崎 慎司, 光島 重徳, 吉武 英昭, 松澤 幸一, 森 昌司, 黒田 義之 (OKAZAKI SHINJI, MITSUSHIMA SHIGENORI, YOSHITAKE HIDEAKI, MATSUZAWA KOICHI, MORI SHOJIM, KURODA YOSHIYUKI)</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】 (略)</p> <p><u>削除</u></p>	<p>230 ページ</p> <p>科目名 エネルギー化学演習A F</p> <p>担当教員 岡崎 慎司, 光島 重徳, 吉武 英昭, 松澤 幸一, 森 昌司, 黒田 義之, <u>(<u>麦倉 良啓</u>)</u>, <u>(<u>山本 融</u>)</u>, <u>(<u>森田 寛</u>)</u> (OKAZAKI SHINJI, MITSUSHIMA SHIGENORI, YOSHITAKE HIDEAKI, MATSUZAWA KOICHI, MORI SHOJIM, KURODA YOSHIYUKI, <u>MUGIKURA YOSIHIRO</u>, <u>YAMAMOTO TOERU</u>, <u>MORITA HOROSHI</u>)</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】 (略)</p> <p><u>(<u>麦倉良啓</u>) エネルギー分野におけるエネルギー変換システム論に関連して演習を行う。</u></p>

新	旧
	<p><u>(山本融) エネルギー分野におけるセラミック スエネルギー工学に関連して演習を行う。</u></p> <p><u>(森田寛) エネルギー分野における燃料電池工 学に関連して演習を行う。</u></p>

新	旧
<p>190 ページ</p> <p>科目名 電気電子ネットワーク演習A</p> <p>担当教員 新井 宏之、大山 力、落合 秀樹、河野 隆二、竹村 泰司、羽路 伸夫、馬場 俊彦、濱上 知樹、藤本 康孝、吉川 信行、荒川 太郎、市毛 弘一、大矢 剛嗣、久我 宣裕、倉光 君郎、島 圭介、下野 誠通、辻 隆男、西島 喜明、山梨 裕希</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】 (略)</p> <p><u>削除</u></p> <p>(以下略)</p>	<p>190 ページ</p> <p>科目名 電気電子ネットワーク演習A</p> <p>担当教員 新井 宏之、大山 力、落合 秀樹、河野 隆二、竹村 泰司、羽路 伸夫、馬場 俊彦、濱上 知樹、藤本 康孝、吉川 信行、<u>辻 宏之</u>、荒川 太郎、市毛 弘一、大矢 剛嗣、久我 宣裕、倉光 君郎、島 圭介、下野 誠通、<u>辻 隆男</u>、西島 喜明、山梨 裕希</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】 (略)</p> <p><u>(辻 宏之) システム同定、適応フィルタ、アクティブノイズキャンセリング、アレーアンテナなど、信号の空間情報を利用した無線局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話システムに関する研究。</u></p> <p>(以下略)</p>
<p>192 ページ</p> <p>科目名 電気電子ネットワーク演習B</p> <p>担当教員 新井 宏之、大山 力、落合 秀樹、河野 隆二、竹村 泰司、羽路 伸夫、馬場 俊彦、濱上 知樹、藤本 康孝、吉川 信行、荒川 太郎、市毛 弘一、大矢 剛嗣、久我 宣裕、倉光 君郎、島 圭介、下野 誠通、辻 隆男、西島 喜明、山梨 裕希</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】 (略)</p> <p><u>削除</u></p>	<p>192 ページ</p> <p>科目名 電気電子ネットワーク演習B</p> <p>担当教員 新井 宏之、大山 力、落合 秀樹、河野 隆二、竹村 泰司、羽路 伸夫、馬場 俊彦、濱上 知樹、藤本 康孝、吉川 信行、<u>辻 宏之</u>、荒川 太郎、市毛 弘一、大矢 剛嗣、久我 宣裕、倉光 君郎、島 圭介、下野 誠通、<u>辻 隆男</u>、西島 喜明、山梨 裕希</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】 (略)</p> <p><u>(辻 宏之) システム同定、適応フィルタ、アクティブノイズキャンセリング、アレーアンテナなど、信号の空間情報を利用した無線局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話システムに関する研究。</u></p>

新	旧
<p>(以下略)</p> <p>194 ページ</p> <p>科目名 電気電子ネットワーク演習 C</p> <p>担当教員 新井 宏之、大山 力、落合 秀樹、河野 隆二、竹村 泰司、羽路 伸夫、馬場 俊彦、濱上 知樹、藤本 康孝、吉川 信行、荒川 太郎、市毛 弘一、大矢 剛嗣、久我 宣裕、倉光 君郎、島 圭介、下野 誠通、辻 隆男、西島 喜明、山梨 裕希</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>削除</u></p> <p>(以下略)</p>	<p>(以下略)</p> <p>194 ページ</p> <p>科目名 電気電子ネットワーク演習 C</p> <p>担当教員 新井 宏之、大山 力、落合 秀樹、河野 隆二、竹村 泰司、羽路 伸夫、馬場 俊彦、濱上 知樹、藤本 康孝、吉川 信行、<u>辻 宏之</u>、荒川 太郎、市毛 弘一、大矢 剛嗣、久我 宣裕、倉光 君郎、島 圭介、下野 誠通、<u>辻 隆男</u>、西島 喜明、山梨 裕希</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>(辻 宏之) システム同定、適応フィルタ、アクティブノイズキャンセリング、アレーアンテナなど、信号の空間情報を利用した無線局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話システムに関する研究。</u></p> <p>(以下略)</p>
<p>196 ページ</p> <p>科目名 電気電子ネットワーク演習 D</p> <p>担当教員 新井 宏之、大山 力、落合 秀樹、河野 隆二、竹村 泰司、羽路 伸夫、馬場 俊彦、濱上 知樹、藤本 康孝、吉川 信行、荒川 太郎、市毛 弘一、大矢 剛嗣、久我 宣裕、倉光 君郎、島 圭介、下野 誠通、辻 隆男、西島 喜明、山梨 裕希</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>削除</u></p>	<p>196 ページ</p> <p>科目名 電気電子ネットワーク演習 D</p> <p>担当教員 新井 宏之、大山 力、落合 秀樹、河野 隆二、竹村 泰司、羽路 伸夫、馬場 俊彦、濱上 知樹、藤本 康孝、吉川 信行、<u>辻 宏之</u>、荒川 太郎、市毛 弘一、大矢 剛嗣、久我 宣裕、倉光 君郎、島 圭介、下野 誠通、<u>辻 隆男</u>、西島 喜明、山梨 裕希</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>(辻 宏之) システム同定、適応フィルタ、アクティブノイズキャンセリング、アレーアンテナなど、信号の空間情報を利用した無線局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話システムに関する研究。</u></p>

新	旧
<p>(以下略)</p> <p>198 ページ</p> <p>科目名 情報システム演習A</p> <p>担当教員 新井 宏之、大山 力、落合 秀樹、河野 隆二、竹村 泰司、羽路 伸夫、馬場 俊彦、濱上 知樹、藤本 康孝、吉川 信行、荒川 太郎、市毛 弘一、大矢 剛嗣、久我 宣裕、倉光 君郎、島 圭介、下野 誠通、辻 隆男、西島 喜明、山梨 裕希</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>削除</u></p>	<p>(以下略)</p> <p>198 ページ</p> <p>科目名 情報システム演習A</p> <p>担当教員 新井 宏之、大山 力、落合 秀樹、河野 隆二、竹村 泰司、羽路 伸夫、馬場 俊彦、濱上 知樹、藤本 康孝、吉川 信行、<u>辻 宏之</u>、荒川 太郎、市毛 弘一、大矢 剛嗣、久我 宣裕、倉光 君郎、島 圭介、下野 誠通、<u>辻 隆男</u>、西島 喜明、山梨 裕希</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>(辻 宏之) システム同定、適応フィルタ、アクティブノイズキャンセリング、アレーアンテナなど、信号の空間情報を利用した無線局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話システムに関する研究。</u></p>
<p>(以下略)</p> <p>200 ページ</p> <p>科目名 情報システム演習B</p> <p>担当教員 新井 宏之、大山 力、落合 秀樹、河野 隆二、竹村 泰司、羽路 伸夫、馬場 俊彦、濱上 知樹、藤本 康孝、吉川 信行、荒川 太郎、市毛 弘一、大矢 剛嗣、久我 宣裕、倉光 君郎、島 圭介、下野 誠通、辻 隆男、西島 喜明、山梨 裕希</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>削除</u></p>	<p>(以下略)</p> <p>200 ページ</p> <p>科目名 情報システム演習B</p> <p>担当教員 新井 宏之、大山 力、落合 秀樹、河野 隆二、竹村 泰司、羽路 伸夫、馬場 俊彦、濱上 知樹、藤本 康孝、吉川 信行、<u>辻 宏之</u>、荒川 太郎、市毛 弘一、大矢 剛嗣、久我 宣裕、倉光 君郎、島 圭介、下野 誠通、<u>辻 隆男</u>、西島 喜明、山梨 裕希</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>(辻 宏之) システム同定、適応フィルタ、アクティブノイズキャンセリング、アレーアンテナなど、信号の空間情報を利用した無線局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話シ</u></p>

新	旧
<p>(以下略)</p> <p>202 ページ</p> <p>科目名 情報システム演習C</p> <p>担当教員 新井 宏之、大山 力、落合 秀樹、河野 隆二、竹村 泰司、羽路 伸夫、馬場 俊彦、濱上 知樹、藤本 康孝、吉川 信行、荒川 太郎、市毛 弘一、大矢 剛嗣、久我 宣裕、倉光 君郎、島 圭介、下野 誠通、辻 隆男、西島 喜明、山梨 裕希</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>削除</u></p>	<p><u>ステムに関する研究。</u></p> <p>(以下略)</p> <p>202 ページ</p> <p>科目名 情報システム演習C</p> <p>担当教員 新井 宏之、大山 力、落合 秀樹、河野 隆二、竹村 泰司、羽路 伸夫、馬場 俊彦、濱上 知樹、藤本 康孝、吉川 信行、<u>辻 宏之</u>、荒川 太郎、市毛 弘一、大矢 剛嗣、久我 宣裕、倉光 君郎、島 圭介、下野 誠通、<u>辻 隆男</u>、西島 喜明、山梨 裕希</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>(辻 宏之) システム同定、適応フィルタ、アクティブノイズキャンセリング、アレーアンテナなど、信号の空間情報を利用した無線局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話システムに関する研究。</u></p>
<p>(以下略)</p> <p>204 ページ</p> <p>科目名 情報システム演習D</p> <p>担当教員 新井 宏之、大山 力、落合 秀樹、河野 隆二、竹村 泰司、羽路 伸夫、馬場 俊彦、濱上 知樹、藤本 康孝、吉川 信行、荒川 太郎、市毛 弘一、大矢 剛嗣、久我 宣裕、倉光 君郎、島 圭介、下野 誠通、辻 隆男、西島 喜明、山梨 裕希</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>削除</u></p>	<p>(以下略)</p> <p>204 ページ</p> <p>科目名 情報システム演習D</p> <p>担当教員 新井 宏之、大山 力、落合 秀樹、河野 隆二、竹村 泰司、羽路 伸夫、馬場 俊彦、濱上 知樹、藤本 康孝、吉川 信行、<u>辻 宏之</u>、荒川 太郎、市毛 弘一、大矢 剛嗣、久我 宣裕、倉光 君郎、島 圭介、下野 誠通、<u>辻 隆男</u>、西島 喜明、山梨 裕希</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>(辻 宏之) システム同定、適応フィルタ、</u></p>

新	旧
<p>(以下略)</p> <p>206～207 ページ</p> <p>科目名 応用物理演習A</p> <p>担当教員 新井 宏之、大山 力、落合 秀樹、河野 隆二、竹村 泰司、羽路 伸夫、馬場 俊彦、濱上 知樹、藤本 康孝、吉川 信行、荒川 太郎、市毛 弘一、大矢 剛嗣、久我 宣裕、倉光 君郎、島 圭介、下野 誠通、辻 隆男、西島 喜明、山梨 裕希</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p>削除</p> <p>(以下略)</p>	<p><u>アクティブノイズキャンセリング、アレーアンテナなど、信号の空間情報を利用した無線局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話システムに関する研究。</u></p> <p>(以下略)</p> <p>206～207 ページ</p> <p>科目名 応用物理演習A</p> <p>担当教員 新井 宏之、大山 力、落合 秀樹、河野 隆二、竹村 泰司、羽路 伸夫、馬場 俊彦、濱上 知樹、藤本 康孝、吉川 信行、<u>辻 宏之</u>、荒川 太郎、市毛 弘一、大矢 剛嗣、久我 宣裕、倉光 君郎、島 圭介、下野 誠通、<u>辻 隆男</u>、西島 喜明、山梨 裕希</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>(辻 宏之) システム同定、適応フィルタ、アクティブノイズキャンセリング、アレーアンテナなど、信号の空間情報を利用した無線局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話システムに関する研究。</u></p> <p>(以下略)</p>
<p>208 ページ</p> <p>科目名 応用物理演習B</p> <p>担当教員 新井 宏之、大山 力、落合 秀樹、河野 隆二、竹村 泰司、羽路 伸夫、馬場 俊彦、濱上 知樹、藤本 康孝、吉川 信行、荒川 太郎、市毛 弘一、大矢 剛嗣、久我 宣裕、倉光 君郎、島 圭介、下野 誠通、辻 隆男、西島 喜明、山梨 裕希</p> <p>(略)</p>	<p>208 ページ</p> <p>科目名 応用物理演習B</p> <p>担当教員 新井 宏之、大山 力、落合 秀樹、河野 隆二、竹村 泰司、羽路 伸夫、馬場 俊彦、濱上 知樹、藤本 康孝、吉川 信行、<u>辻 宏之</u>、荒川 太郎、市毛 弘一、大矢 剛嗣、久我 宣裕、倉光 君郎、島 圭介、下野 誠通、<u>辻 隆男</u>、西島 喜明、山梨 裕希</p> <p>(略)</p>

新	旧
<p>【授業計画】 (略)</p> <p>削除</p> <p>(以下略)</p> <p>210 ページ 科目名 応用物理演習 C</p> <p>担当教員 新井 宏之、大山 力、落合 秀樹、河野 隆二、竹村 泰司、羽路 伸夫、馬場 俊彦、濱上 知樹、藤本 康孝、吉川 信行、荒川 太郎、市毛 弘一、大矢 剛嗣、久我 宣裕、倉光 君郎、島 圭介、下野 誠通、辻 隆男、西島 喜明、山梨 裕希</p> <p>(略)</p>	<p>【授業計画】 (略)</p> <p><u>(辻 宏之) システム同定、適応フィルタ、アクティブノイズキャンセリング、アレーアンテナなど、信号の空間情報を利用した無線局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話システムに関する研究。</u></p> <p>(以下略)</p> <p>210 ページ 科目名 応用物理演習 C</p> <p>担当教員 新井 宏之、大山 力、落合 秀樹、河野 隆二、竹村 泰司、羽路 伸夫、馬場 俊彦、濱上 知樹、藤本 康孝、吉川 信行、<u>辻 宏之</u>、荒川 太郎、市毛 弘一、大矢 剛嗣、久我 宣裕、倉光 君郎、島 圭介、下野 誠通、<u>辻 隆男</u>、西島 喜明、山梨 裕希</p> <p>(略)</p>
<p>【授業計画】 (略)</p> <p>削除</p> <p>(以下略)</p> <p>212 ページ 科目名 応用物理演習 D</p> <p>担当教員 新井 宏之、大山 力、落合 秀樹、河野 隆二、竹村 泰司、羽路 伸夫、馬場 俊彦、濱上 知樹、藤本 康孝、吉川 信行、荒川 太郎、市毛 弘一、大矢 剛嗣、久我 宣裕、倉光 君郎、島 圭介、下野 誠通、辻 隆男、西島 喜明、山梨 裕希</p>	<p>【授業計画】 (略)</p> <p><u>(辻 宏之) システム同定、適応フィルタ、アクティブノイズキャンセリング、アレーアンテナなど、信号の空間情報を利用した無線局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話システムに関する研究。</u></p> <p>(以下略)</p> <p>212 ページ 科目名 応用物理演習 D</p> <p>担当教員 新井 宏之、大山 力、落合 秀樹、河野 隆二、竹村 泰司、羽路 伸夫、馬場 俊彦、濱上 知樹、藤本 康孝、吉川 信行、<u>辻 宏之</u>、荒川 太郎、市毛 弘一、大矢 剛嗣、久我 宣裕、倉光 君郎、島 圭介、下野 誠通、<u>辻 隆男</u>、西島 喜明、山梨 裕希</p>

新	旧
<p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>削除</u></p> <p>(以下略)</p> <p>250 ページ</p> <p>科目名 情報通信技術 S</p> <p>担当教員 落合 秀樹、河野 隆二</p>	<p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>(辻 宏之) システム同定、適応フィルタ、アクティブノイズキャンセリング、アレーアンテナなど、信号の空間情報を利用した無線局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話システムに関する研究。</u></p> <p>(以下略)</p> <p>250 ページ</p> <p>科目名 情報通信技術 S</p> <p>担当教員 落合 秀樹、河野 隆二、<u>庄木 裕樹、辻 宏之、渡邊 聡一</u></p>
<p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>削除</u></p> <p>(以下略)</p>	<p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>(庄木裕樹) 無線電力伝送、アンテナ設計、アレイ信号処理などの理論、および衛星放送、移動通信、無線 LAN、レーダなどの実用システムの開発に関する研究。</u></p> <p><u>(辻 宏之) システム同定、適応フィルタ、アクティブノイズキャンセリング、アレーアンテナなど、信号の空間情報を利用した無線局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話システムに関する研究。</u></p> <p><u>(渡邊聡一) 携帯電話などの無線機器による人体への影響を防ぐ電波防護指針に関する研究や電波の生体に対する影響の測定法、評価法、人体ファントムモデルに関する研究、電波比吸収率 (SAR)、暴露量などの測定システムに関する研究。</u></p> <p>(以下略)</p>

新	旧
<p>252 ページ</p> <p>科目名 情報通信技術 F</p> <p>担当教員 落合 秀樹、河野 隆二</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>削除</u></p> <p>(以下略)</p>	<p>252 ページ</p> <p>科目名 情報通信技術 F</p> <p>担当教員 落合 秀樹、河野 隆二、<u>庄木 裕樹、辻 宏之、渡邊 聡一</u></p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>(庄木裕樹) 無線電力伝送、アンテナ設計、アレイ信号処理などの理論、および衛星放送、移動通信、無線 LAN、レーダなどの実用システムの開発に関する研究。</u></p> <p><u>(辻 宏之) システム同定、適応フィルタ、アクティブノイズキャンセリング、アレーアンテナなど、信号の空間情報を利用した無線局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話システムに関する研究。</u></p> <p><u>(渡邊聡一) 携帯電話などの無線機器による人体への影響を防ぐ電波防護指針に関する研究や電波の生体に対する影響の測定法、評価法、人体ファントムモデルに関する研究、電波比吸収率 (SAR)、暴露量などの測定システムに関する研究。</u></p> <p>(以下略)</p>
<p>274 ページ</p> <p>科目名 高度情報ネットワークシステム S</p> <p>担当教員 濱上 知樹、河野 隆二、落合 秀樹、倉光 君郎、島 圭介</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>削除</u></p>	<p>274 ページ</p> <p>科目名 高度情報ネットワークシステム S</p> <p>担当教員 濱上 知樹、河野 隆二、落合 秀樹、倉光 君郎、島 圭介、<u>辻 宏之、渡邊 聡一</u></p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>(辻 宏之) システム同定、適応フィルタ、</u></p>

新	旧
<p>(以下略)</p> <p>276 ページ</p> <p>科目名 高度情報ネットワークシステムF</p> <p>担当教員 濱上 知樹、河野 隆二、落合 秀樹、倉光 君郎、島 圭介</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p>削除</p> <p>(以下略)</p>	<p><u>アクティブノイズキャンセリング、アレーアンテナなど、信号の空間情報を利用した無線局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話システムに関する研究。</u></p> <p><u>(渡邊聡一) 携帯電話などの無線機器による人体への影響を防ぐ電波防護指針に関する研究や電波の生体に対する影響の測定法、評価法、人体ファントムモデルに関する研究、電波比吸収率 (SAR)、暴露量などの測定システムに関する研究。</u></p> <p>(以下略)</p> <p>276 ページ</p> <p>科目名 高度情報ネットワークシステムF</p> <p>担当教員 濱上 知樹、河野 隆二、落合 秀樹、倉光 君郎、島 圭介、<u>辻 宏之、渡邊聡一</u></p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>(辻 宏之) システム同定、適応フィルタ、アクティブノイズキャンセリング、アレーアンテナなど、信号の空間情報を利用した無線局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話システムに関する研究。</u></p> <p><u>(渡邊聡一) 携帯電話などの無線機器による人体への影響を防ぐ電波防護指針に関する研究や電波の生体に対する影響の測定法、評価法、人体ファントムモデルに関する研究、電波比吸収率 (SAR)、暴露量などの測定システムに関する研究。</u></p> <p>(以下略)</p>

新	旧
<p>44 ページ 科目名 材料工学特別演習</p> <p>担当教員 梅澤 修、中尾 航、廣澤 渉一、向井 剛輝、中津川 博、長谷川 誠、前野 智美</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】 削除</p> <p>(以下略)</p>	<p>44 ページ 科目名 材料工学特別演習</p> <p>担当教員 梅澤 修、中尾 航、廣澤 渉一、向井 剛輝、中津川 博、長谷川 誠、前野 智美、<u>下野 昌人、出村 雅彦、戸田 佳明</u></p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】 <u>(下野)学位論文の主題と関連して必要となる計算科学手法について研究指導を行う。</u> <u>(出村)変形・再結晶材料組織、金属間化合物の塑性変形に関する学位論文テーマを主題として研究指導を行う。</u> <u>(戸田)高温構造材料設計工学に関する研究指導を行う。</u></p> <p>(以下略)</p>
<p>73～74 ページ 科目名 海洋宇宙システム工学特別演習</p> <p>担当教員 上野誠也、岡田哲男、川村恭己、日野孝則、高木洋平、西佳樹、樋口丈浩、平川嘉昭、宮路幸二、村井基彦</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】 削除</p>	<p>73～74 ページ 科目名 海洋宇宙システム工学特別演習</p> <p>担当教員 上野誠也、岡田哲男、川村恭己、日野孝則、高木洋平、西佳樹、樋口丈浩、平川嘉昭、宮路幸二、村井基彦、<u>加藤俊司、福戸淳司、伊藤博子</u></p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】 <u>(加藤俊司)浮体・係留・ライザー一体システムの挙動に関する最新技術や marine operation に関する技術に関する課題を提供し、文献調査・解析・実験等を通じた指導を行う。</u> <u>(福戸淳司)海上交通を表現する船舶の運動モデル、シミュレーションおよび操船シミュレータの技術に関する課題を提供し、文献調査・解析・実験等を通じた指導を行う。</u></p>

新	旧
<p>(以下略)</p> <p>113 ページ</p> <p>科目名 サブ・リサーチ材料工学演習</p> <p>担当教員 梅澤 修、中尾 航、廣澤 渉一、向井剛輝、中津川 博、長谷川 誠、前野 智美</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p><u>削除</u></p> <p>(以下略)</p>	<p><u>(伊藤(安藤)博子)海上交通安全の観点から、船舶の衝突リスク推定に必要な海上交通の特徴や遭遇頻度等に関する課題を設定し、文献調査・解析・実験等を通して研究指導を行う。</u></p> <p>(以下略)</p> <p>113 ページ</p> <p>科目名 サブ・リサーチ材料工学演習</p> <p>担当教員 梅澤 修、中尾 航、廣澤 渉一、向井剛輝、中津川 博、長谷川 誠、前野 智美、<u>下野 昌人、出村 雅彦、戸田 佳明</u></p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p><u>(下野)学位論文のテーマと関連する計算科学手法について研究指導を行う。</u></p> <p><u>(出村)変形・再結晶材料組織、金属間化合物の塑性変形とこれらの工学適用に関する学位論文テーマを主題として研究指導を行う。</u></p> <p><u>(戸田)高温構造材料設計工学に関する研究指導を行う。</u></p> <p>(以下略)</p>
<p>123～124 ページ</p> <p>科目名 サブ・リサーチ海洋宇宙システム工学演習</p> <p>担当教員 上野誠也、岡田哲男、川村恭己、日野孝則、高木洋平、西佳樹、樋口丈浩、平川嘉昭、宮路幸二、村井基彦</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p><u>削除</u></p>	<p>123～124 ページ</p> <p>科目名 サブ・リサーチ海洋宇宙システム工学演習</p> <p>担当教員 上野誠也、岡田哲男、川村恭己、日野孝則、高木洋平、西佳樹、樋口丈浩、平川嘉昭、宮路幸二、村井基彦、<u>加藤俊司、福戸淳司、伊藤博子</u></p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(加藤俊司)浮体・係留・ライザー、marine operation 等の技術に関する学位論文の内容とは異なる課題を提供し、文献調査・解析・実験等を</p>

新	旧
<p>(以下略)</p>	<p>通した指導を行う。 (福戸淳司)海上交通を表現する船舶の運動モデル, シミュレーションおよび操船シミュレータの技術, 航海支援機器等の観点から学位論文の内容とは異なる課題を提供し, 文献調査・解析・実験等を通した指導を行う。 (伊藤(安藤)博子)海上交通安全の観点から, 学位論文の内容とは直接関与しない各種リスクに関する課題を提供し, 文献調査・解析・実験等を通して指導を行う。</p> <p>(以下略)</p>

新	旧
<p>53～54 ページ</p> <p>科目名 化学応用・バイオ特別演習</p> <p>担当教員 岡崎 慎司、奥山 邦人、栗原靖之、高橋 宏治、武田 穰、羽深 等、光島重徳、吉武 英昭、金井 俊光、鈴木 敦、中村 一穂、福田 淳二、松澤 幸一、森 昌司、黒田 義之、相原 雅彦 (OKAZAKI SHINJI, OKUYAMA KUNITO, KURIHARA YASUYUKI, TAKAHASHI KOJI, TAKEDA MINORU, HABUKA HITOSHI, MITSUSHIMA SHIGENORI, YOSHITAKE HIDEAKI, KANAI TOSHIMITSU, SUZUKI ATSUSHI, NAKAMURA KAZUHO, FUKUDA JUNJI, MATSUZAWA KOICI, MORI SHOJI, KURODA YOSHIYUKI, AIHARA MASAHIKO)</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】 (略)</p> <p><u>削除</u></p> <p>(以下略)</p>	<p>53～54 ページ</p> <p>科目名 化学応用・バイオ特別演習</p> <p>担当教員 岡崎 慎司、奥山 邦人、栗原靖之、高橋 宏治、武田 穰、羽深 等、光島重徳、吉武 英昭、金井 俊光、鈴木 敦、中村 一穂、福田 淳二、松澤 幸一、森 昌司、黒田 義之、相原 雅彦、<u>麦倉 良啓、山本 融、森田 寛</u>(OKAZAKI SHINJI, OKUYAMA KUNITO, KURIHARA YASUYUKI, TAKAHASHI KOJI, TAKEDA MINORU, HABUKA HITOSHI, MITSUSHIMA SHIGENORI, YOSHITAKE HIDEAKI, KANAI TOSHIMITSU, SUZUKI ATSUSHI, NAKAMURA KAZUHO, FUKUDA JUNJI, MATSUZAWA KOICI, MORI SHOJI, KURODA YOSHIYUKI, AIHARA MASAHIKO, <u>MUGIKURA YOSHIHIRO, YAMAMOTO TORU, MORITA HIROSHI</u>)</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】 (略)</p> <p><u>(麦倉良啓) エネルギー分野におけるエネルギーシステム論に関連して演習を行う。</u></p> <p><u>(山本融) エネルギー分野におけるエネルギー素材科学に関連して演習を行う。</u></p> <p><u>(森田寛) エネルギー分野におけるエネルギー変換プロセスに関連して演習を行う。</u></p> <p>(以下略)</p>

新	旧
<p>2 ページ 科目名 システム設計実習</p> <p>担当教員 濱上 知樹、新井 宏之、落合 秀樹、河野 隆二、市毛 弘一、久我 宣裕、倉光 君郎、島 圭介</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】 (略)</p> <p><u>削除</u></p> <p>(以下略)</p>	<p>2 ページ 科目名 システム設計実習</p> <p>担当教員 濱上 知樹、新井 宏之、落合 秀樹、河野 隆二、市毛 弘一、久我 宣裕、倉光 君郎、島 圭介、<u>渡邊 聡一</u></p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】 (略)</p> <p><u>(渡邊聡一) 携帯電話などの無線機器による人体への影響を防ぐ電波防護指針に関する研究や電波の生体に対する影響の測定法、評価法、人体ファントムモデルに関する研究、電波比吸収率 (SAR)、暴露量などの測定システムに関する研究。</u></p> <p>(以下略)</p>
<p>59 ページ 科目名 電気電子ネットワーク特別演習</p> <p>担当教員 新井 宏之、大山 力、落合 秀樹、河野 隆二、竹村 泰司、羽路 伸夫、濱上 知樹、馬場 俊彦、藤本 康孝、吉川 信行、荒川 太郎、市毛 弘一、大矢 剛嗣、久我 宣裕、倉光 君郎、島 圭介、下野 誠通、辻 隆男、西島 喜明、山梨 裕希</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】 (略)</p> <p><u>削除</u></p>	<p>59 ページ 科目名 電気電子ネットワーク特別演習</p> <p>担当教員 新井 宏之、大山 力、落合 秀樹、河野 隆二、竹村 泰司、羽路 伸夫、濱上 知樹、馬場 俊彦、藤本 康孝、吉川 信行、荒川 太郎、市毛 弘一、大矢 剛嗣、久我 宣裕、倉光 君郎、島 圭介、下野 誠通、辻 隆男、西島 喜明、山梨 裕希、<u>庄木 裕樹、辻 宏之</u></p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】 (略)</p> <p><u>(庄木裕樹) 無線電力伝送、アンテナ設計、アレイ信号処理などの理論、および衛星放送、移動通信、無線 LAN、レーダなどの実用システムの開発に関する研究。</u></p>

新	旧
<p>(以下略)</p> <p>73 ページ</p> <p>科目名 情報システム特別演習</p> <p>担当教員 新井 宏之、大山 力、落合 秀樹、河野 隆二、竹村 泰司、羽路 伸夫、濱上 知樹、馬場 俊彦、藤本 康孝、吉川 信行、荒川 太郎、市毛 弘一、大矢 剛嗣、久我 宣裕、倉光 君郎、島 圭介、下野 誠通、辻 隆男、西島 喜明、山梨 裕希</p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p>削除</p> <p>(以下略)</p> <p>87 ページ</p> <p>科目名 応用物理特別演習</p> <p>担当教員 新井 宏之、大山 力、落合 秀樹、河野 隆二、竹村 泰司、羽路 伸夫、濱上 知樹、馬場 俊彦、藤本 康孝、吉川 信行、荒川 太郎、市毛 弘一、大矢 剛嗣、久我 宣</p>	<p><u>(辻 宏之) システム同定、適応フィルタ、アクティブノイズキャンセリング、アレーアンテナなど、信号の空間情報を利用した無線局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話システムに関する研究。</u></p> <p>(以下略)</p> <p>73 ページ</p> <p>科目名 情報システム特別演習</p> <p>担当教員 新井 宏之、大山 力、落合 秀樹、河野 隆二、竹村 泰司、羽路 伸夫、濱上 知樹、馬場 俊彦、藤本 康孝、吉川 信行、荒川 太郎、市毛 弘一、大矢 剛嗣、久我 宣裕、倉光 君郎、島 圭介、下野 誠通、辻 隆男、西島 喜明、山梨 裕希、<u>庄木 裕樹、辻 宏之</u></p> <p>(略)</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p><u>(庄木裕樹) 無線電力伝送、アンテナ設計、アレイ信号処理などの理論、および衛星放送、移動通信、無線 LAN、レーダなどの実用システムの開発に関する研究。</u></p> <p><u>(辻 宏之) システム同定、適応フィルタ、アクティブノイズキャンセリング、アレーアンテナなど、信号の空間情報を利用した無線局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話システムに関する研究。</u></p> <p>(以下略)</p> <p>87 ページ</p> <p>科目名 応用物理特別演習</p> <p>担当教員 新井 宏之、大山 力、落合 秀樹、河野 隆二、竹村 泰司、羽路 伸夫、濱上 知樹、馬場 俊彦、藤本 康孝、吉川 信行、荒川 太郎、市毛 弘一、大矢 剛嗣、久我 宣</p>

新	旧
裕、倉光 君郎、島 圭介、下野 誠通、辻 隆男、西島 喜明、山梨 裕希	裕、倉光 君郎、島 圭介、下野 誠通、辻 隆男、西島 喜明、山梨 裕希、 <u>庄木 裕樹、辻 宏之</u>
(略)	(略)
【授業計画】	【授業計画】
(略)	(略)
<u>削除</u>	<u>(庄木裕樹) 無線電力伝送、アンテナ設計、</u>
	<u>アレイ信号処理などの理論、および衛星放</u>
	<u>送、移動通信、無線 LAN、レーダなどの実用シ</u>
	<u>ステムの開発に関する研究。</u>
	<u>(辻 宏之) システム同定、適応フィルタ、</u>
	<u>アクティブノイズキャンセリング、アレー</u>
	<u>アンテナなど、信号の空間情報を利用した無線</u>
	<u>局位置推定手法や、地上/衛星共用携帯電話シ</u>
	<u>ステムに関する研究。</u>
(以下略)	(以下略)

(新旧対照表) 教員の氏名等 (別記様式第3号 (その2の1))

大学院理工学府博士課程前期

新	機械・材料・海洋系工学専攻 調書番号 MA19~MA21 削除 調書番号 MA42~MA44 削除 調書番号 MA59 削除											
旧	機械・材料・海洋系工学専攻 P 5 調書番号 MA19~MA21											
MA19	専任	教授	カトウ シュンジ 加藤 俊司 (平成30年4月)	■	工学博士	■	海洋開発工学【隔年】	1・2①~②	2	1	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所 企画部 特命主査 (昭56.4)	5日
							海洋宇宙システム工学演習A	1①~②・④~⑥	2	2		
							海洋宇宙システム工学演習B	1①~②・④~⑥	2	2		
							海洋空間システムデザイン演習C	2①~②・④~⑥	2	2		
							海洋空間システムデザイン演習D	2①~②・④~⑥	2	2		
							海洋空間実践演習	1・2①~②・④~⑥	4	2		
							海洋宇宙システム工学実践演習	1・2①~②・④~⑥	4	2		
							海洋宇宙システム工学インターンシップL	1・2①~②・④~⑥	4	2		
							海洋宇宙システム工学インターンシップM	1・2①~②・④~⑥	2	2		
							海洋宇宙システム工学インターンシップS	1・2①~②・④~⑥	1	2		
							マリタイムフロンティアサイエンススタジオA	1・2①~②・④~⑥	4	2		
							マリタイムフロンティアサイエンススタジオB	1・2①~②・④~⑥	4	2		
海洋空間R&Dスタジオ A	1・2①~②・④~⑥	4	2									
海洋空間R&Dスタジオ B	1・2①~②・④~⑥	4	2									
MA20	専任	教授	シモノ マサト 工野 昌人 (平成30年4月)	■	理学博士	■	材料組織計算学	1・2④~⑥	2	1	国立研究開発法人物質・材料研究機構 廣研究員 (平7.4)	5日
							材料工学演習A	1・2①~②・④~⑥	2	2		
							材料工学演習B	1・2①~②・④~⑥	2	2		
							材料工学演習C	1・2①~②・④~⑥	2	2		
							材料工学演習D	1・2①~②・④~⑥	2	2		
							材料工学インターンシップ L	1・2①~②・④~⑥	4	2		
							材料工学インターンシップ M	1・2①~②・④~⑥	2	2		
							材料工学インターンシップ S	1・2①~②・④~⑥	1	2		
							材料設計スタジオ	1・2①~②・④~⑥	4	2		
							材料特性スタジオ	1・2①~②・④~⑥	4	2		
							材料工学R&Dスタジオ A	1・2①~②・④~⑥	4	2		
							材料工学R&Dスタジオ B	1・2①~②・④~⑥	4	2		
MA21	専任	教授	フクト ジュンジ 福戸 淳司 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	海上交通安全工学【隔年】	1・2①~②	2	1	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所 運輸・物流系系長 (昭61.4)	5日
							海洋宇宙システム工学演習A	1①~②・④~⑥	2	2		
							海洋宇宙システム工学演習B	1①~②・④~⑥	2	2		
							海洋空間システムデザイン演習C	2①~②・④~⑥	2	2		
							海洋空間システムデザイン演習D	2①~②・④~⑥	2	2		
							海洋空間実践演習	1・2①~②・④~⑥	4	2		
							海洋宇宙システム工学実践演習	1・2①~②・④~⑥	4	2		
							海洋宇宙システム工学インターンシップL	1・2①~②・④~⑥	4	2		
							海洋宇宙システム工学インターンシップM	1・2①~②・④~⑥	2	2		
							海洋宇宙システム工学インターンシップS	1・2①~②・④~⑥	1	2		
							マリタイムフロンティアサイエンススタジオA	1・2①~②・④~⑥	4	2		
							マリタイムフロンティアサイエンススタジオB	1・2①~②・④~⑥	4	2		
海洋空間R&Dスタジオ A	1・2①~②・④~⑥	4	2									
海洋空間R&Dスタジオ B	1・2①~②・④~⑥	4	2									
P 1 0 調書番号 MA42~MA44												
MA42	専任	准教授	イトウ (アンドウ) ヒロコ 伊藤 (安藤) 博子 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	海上交通安全工学【隔年】	1・2①~②	2	1	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所 海洋リスク評価・リスク解析研究グループ長 (平13.4)	5日
							海洋宇宙システム工学演習A	1①~②・④~⑥	2	2		
							海洋宇宙システム工学演習B	1①~②・④~⑥	2	2		
							海洋空間システムデザイン演習C	2①~②・④~⑥	2	2		
							海洋空間システムデザイン演習D	2①~②・④~⑥	2	2		
							海洋空間実践演習	1・2①~②・④~⑥	4	2		
							海洋宇宙システム工学実践演習	1・2①~②・④~⑥	4	2		
							海洋宇宙システム工学インターンシップL	1・2①~②・④~⑥	4	2		
							海洋宇宙システム工学インターンシップM	1・2①~②・④~⑥	2	2		
							海洋宇宙システム工学インターンシップS	1・2①~②・④~⑥	1	2		
							マリタイムフロンティアサイエンススタジオA	1・2①~②・④~⑥	4	2		
							マリタイムフロンティアサイエンススタジオB	1・2①~②・④~⑥	4	2		
海洋空間R&Dスタジオ A	1・2①~②・④~⑥	4	2									
海洋空間R&Dスタジオ B	1・2①~②・④~⑥	4	2									
MA43	専任	准教授	デムラ マサヒロ 出村 雅彦 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	材料組織設計学特論	1・2④~⑥	2	1	国立研究開発法人物質・材料研究機構 年間研究員 (平7.4)	5日
							材料工学演習A	1・2①~②・④~⑥	2	2		
							材料工学演習B	1・2①~②・④~⑥	2	2		
							材料工学演習C	1・2①~②・④~⑥	2	2		
							材料工学演習D	1・2①~②・④~⑥	2	2		
							材料工学インターンシップ L	1・2①~②・④~⑥	4	2		
							材料工学インターンシップ M	1・2①~②・④~⑥	2	2		
							材料工学インターンシップ S	1・2①~②・④~⑥	1	2		
							組織制御スタジオ	1・2①~②・④~⑥	4	2		
							材料特性スタジオ	1・2①~②・④~⑥	4	2		
							材料工学R&Dスタジオ A	1・2①~②・④~⑥	4	2		
							材料工学R&Dスタジオ B	1・2①~②・④~⑥	4	2		
MA44	専任	准教授	トダ ヨシアキ 戸田 佳明 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	高温構造材料設計工学	1・2④~⑥	2	1	国立研究開発法人物質・材料研究機構 主任研究員 (平12.4)	5日
							材料工学演習A	1・2①~②・④~⑥	2	2		
							材料工学演習B	1・2①~②・④~⑥	2	2		
							材料工学演習C	1・2①~②・④~⑥	2	2		
							材料工学演習D	1・2①~②・④~⑥	2	2		
							材料工学インターンシップ L	1・2①~②・④~⑥	4	2		
							材料工学インターンシップ M	1・2①~②・④~⑥	2	2		
							材料工学インターンシップ S	1・2①~②・④~⑥	1	2		
							材料創製スタジオ	1・2①~②・④~⑥	4	2		
							組織制御スタジオ	1・2①~②・④~⑥	4	2		
							材料工学R&Dスタジオ A	1・2①~②・④~⑥	4	2		
							材料工学R&Dスタジオ B	1・2①~②・④~⑥	4	2		

P 12 調書番号 MA59												
MA59	兼任	教授	ショウキヒロキ 庄木 裕樹 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	信号理論	1・2④～⑥	2	1	株式会社東芝研究開発総括部技術企画室 参事 (昭59.4)	-

新	化学・生命系理工学専攻 調書番号 MB19～MB20削除 調書番号 MB39削除 調書番号 MB50削除											
---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

旧	化学・生命系理工学専攻 P 6 調書番号 MB19～MB20											
MB19	専任	教授	ムギクラ ヨシヒロ 麦倉 良啓 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	エネルギーバリューチェーンシステム概論 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B エネルギー化学演習AS エネルギー化学演習AF 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップI 化学応用・バイオインターンシップM 化学応用・バイオインターンシップS	1・2④～⑥ 1・2①～② 1①～② 1④～⑤ 2①～② 2④～⑤ 1・2④～⑥ 1・2①～② 1・2①・②・③・④・⑤・⑥ 1・2①・②・③・④・⑤・⑥ 1・2①・②・③・④・⑤・⑥	2 2 2 2 2 2 2 4 2 1	1 1 1 1 1 1 1 6 6 6	一般財団法人電力中央研究所副研究参事 (昭61.4) 一般財団法人電力中央研究所副研究参事 (昭61.4)	5日
MB20	専任	教授	ヤマモト トオル 山本 颯 (平成30年4月)	■	博士(理学)	■	セラミックスエネルギー工学 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B エネルギー化学演習AS エネルギー化学演習AF 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップI 化学応用・バイオインターンシップM 化学応用・バイオインターンシップS	1・2①～② 1・2①～② 1①～② 1④～⑤ 2①～② 2④～⑤ 1・2④～⑥ 1・2①～② 1・2①・②・③・④・⑤・⑥ 1・2①・②・③・④・⑤・⑥ 1・2①・②・③・④・⑤・⑥	2 2 2 2 2 2 2 2 4 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 6 6 6	一般財団法人電力中央研究所上席研究員 (平5.4) 一般財団法人電力中央研究所上席研究員 (平5.4)	5日

P 1 2 調書番号 MA39												
MB39	専任	准教授	モリタ ヒロシ 森田 寛 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	燃料電池工学 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B エネルギー化学演習AS エネルギー化学演習AF 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップI 化学応用・バイオインターンシップM 化学応用・バイオインターンシップS	1・2④～⑥ 1・2①～② 1①～② 1④～⑤ 2①～② 2④～⑤ 1・2④～⑥ 1・2①～② 1・2①・②・③・④・⑤・⑥ 1・2①・②・③・④・⑤・⑥ 1・2①・②・③・④・⑤・⑥	2 2 2 2 2 2 2 2 4 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 6 6 6	一般財団法人電力中央研究所上席研究員 (平4.4) 一般財団法人電力中央研究所上席研究員 (平4.4)	5日

P 1 4 調書番号 MB50												
MB50	兼任	教授	ショウキヒロキ 庄木 裕樹 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	信号理論	1・2④～⑥	2	1	株式会社東芝研究開発総括部技術企画室参事 (昭59.4)	-

新		機械・材料・海洋系工学専攻 P 2 調書番号 MA① (科目追加)										
MA①	専任	教授	カワムラ ヤスミ 川村 恭己 (平成30年4月)	■	博士 (工学)	■	数値構造解析演習	1・2①～②	2	1	横浜国立大学大学院 工学研究院教授 (平6.4)	5日
							リスクベースによる規則制定手法※	1・2④～⑤	0.4	1		
							海洋宇宙システム工学演習A	1①～②・④～⑤	2	2		
							海洋宇宙システム工学演習B	1①～②・④～⑤	2	2		
							海洋空間システムデザイン演習C	2①～②・④～⑤	2	2		
							海洋空間システムデザイン演習D	2①～②・④～⑤	2	2		
							海洋宇宙システム工学学外演習	1・2①・②・③・④・⑤・⑥	2	6		
							海洋宇宙システム工学海外特別研修	1・2①～②・④～⑤	2	2		
							海洋空間実践演習	1・2①～②・④～⑤	4	2		
							海洋宇宙システム工学実践演習	1・2①～②・④～⑤	4	2		
							Special Lecture on Ocean and Space Engineering A	1・2①・②・③・④・⑤・⑥	1	6		
							Special Lecture on Ocean and Space Engineering B	1・2①・②・③・④・⑤・⑥	1	6		
							Special Lecture on Ocean and Space Engineering C	1・2①・②・③・④・⑤・⑥	1	6		
							Special Lecture on Ocean and Space Engineering D	1・2①・②・③・④・⑤・⑥	1	6		
							日伯特別講義 A	1・2①～②	4	1		
							日伯特別講義 B	1・2①～②	2	1		
							日伯特別講義 C	1・2④～⑤	4	1		
							日伯特別講義 D	1・2④～⑤	2	1		
							海洋宇宙システム工学インターンシップL	1・2①～②・④～⑤	4	2		
							海洋宇宙システム工学インターンシップM	1・2①～②・④～⑤	2	2		
							海洋宇宙システム工学インターンシップS	1・2①～②・④～⑤	1	2		
							海洋空間構造力学スタジオA	1・2①～②・④～⑤	4	2		
							海洋空間構造力学スタジオB	1・2①～②・④～⑤	4	2		
							マリティムフロンティアサイエンススタジオA	1・2①～②・④～⑤	4	2		
							マリティムフロンティアサイエンススタジオB	1・2①～②・④～⑤	4	2		
							海洋空間R&Dスタジオ A	1・2①～②・④～⑤	4	2		
							海洋空間R&Dスタジオ B	1・2①～②・④～⑤	4	2		
旧		機械・材料・海洋系工学専攻 P 2 調書番号 MA7										
MA7	専任	教授	カワムラ ヤスミ 川村 恭己 (平成30年4月)	■	博士 (工学)	■	数値構造解析演習	1・2①～②	2	1	横浜国立大学大学院 工学研究院教授 (平6.4)	5日
							リスクベースによる規則制定手法※	1・2④～⑤	0.4	1		
							海洋宇宙システム工学演習A	1①～②・④～⑤	2	2		
							海洋宇宙システム工学演習B	1①～②・④～⑤	2	2		
							海洋空間システムデザイン演習C	2①～②・④～⑤	2	2		
							海洋空間システムデザイン演習D	2①～②・④～⑤	2	2		
							海洋宇宙システム工学学外演習	1・2①・②・③・④・⑤・⑥	2	6		
							海洋宇宙システム工学海外特別研修	1・2①～②・④～⑤	2	2		
							海洋空間実践演習	1・2①～②・④～⑤	4	2		
							海洋宇宙システム工学実践演習	1・2①～②・④～⑤	4	2		
							Special Lecture on Ocean and Space Engineering A	1・2①・②・③・④・⑤・⑥	1	6		
							Special Lecture on Ocean and Space Engineering B	1・2①・②・③・④・⑤・⑥	1	6		
							Special Lecture on Ocean and Space Engineering C	1・2①・②・③・④・⑤・⑥	1	6		
							Special Lecture on Ocean and Space Engineering D	1・2①・②・③・④・⑤・⑥	1	6		
							日伯特別講義 A	1・2①～②	4	1		
							日伯特別講義 B	1・2①～②	2	1		
							日伯特別講義 C	1・2④～⑤	4	1		
							日伯特別講義 D	1・2④～⑤	2	1		
							海洋宇宙システム工学インターンシップL	1・2①～②・④～⑤	4	2		
							海洋宇宙システム工学インターンシップM	1・2①～②・④～⑤	2	2		
							海洋宇宙システム工学インターンシップS	1・2①～②・④～⑤	1	2		
							海洋空間構造力学スタジオA	1・2①～②・④～⑤	4	2		
							海洋空間構造力学スタジオB	1・2①～②・④～⑤	4	2		
							海洋空間R&Dスタジオ A	1・2①～②・④～⑤	4	2		
							海洋空間R&Dスタジオ B	1・2①～②・④～⑤	4	2		

P 7 調書番号 MA② (科目追加)													
新	MA②	専任	准教授	ニシ ヨシキ 西 佳樹 (平成30年4月)	■	博士 (環境学)	■	理工学府MPBL	1・2①～②	2	1	横浜国立大学大学院 工学研究院准教授 (平20.4)	5日
								海洋資源エネルギー工学入門	1・2④～⑤	2	1		
								海洋宇宙システム工学演習A	1①～②・④～⑤	2	2		
								海洋宇宙システム工学演習B	1①～②・④～⑤	2	2		
								海洋空間システムデザイン演習C	2①～②・④～⑤	2	2		
								海洋空間システムデザイン演習D	2①～②・④～⑤	2	2		
								海洋宇宙システム工学学外演習	1・2①・②・③・④・⑤・⑥	2	6		
								海洋宇宙システム工学海外特別研修	1・2①～②・④～⑤	2	2		
								海洋空間実践演習	1・2①～②・④～⑤	4	2		
								海洋宇宙システム工学実践演習	1・2①～②・④～⑤	4	2		
								日伯特別講義 A	1・2①～②	4	1		
								日伯特別講義 B	1・2①～②	2	1		
								日伯特別講義 C	1・2④～⑤	4	1		
								日伯特別講義 D	1・2④～⑤	2	1		
								海洋宇宙システム工学インターンシップL	1・2①～②・④～⑤	4	2		
								海洋宇宙システム工学インターンシップM	1・2①～②・④～⑤	2	2		
								海洋宇宙システム工学インターンシップS	1・2①～②・④～⑤	1	2		
								海洋空間利用スタジオA	1・2①～②・④～⑤	4	2		
								海洋空間利用スタジオB	1・2①～②・④～⑤	4	2		
								マリタイムフロンティアサイエンススタジオA	1・2①～②・④～⑤	4	2		
マリタイムフロンティアサイエンススタジオB	1・2①～②・④～⑤	4	2										
海洋空間R&Dスタジオ A	1・2①～②・④～⑤	4	2										
海洋空間R&Dスタジオ B	1・2①～②・④～⑤	4	2										

P 8 調書番号 MA32													
旧	MA32	専任	准教授	ニシ ヨシキ 西 佳樹 (平成30年4月)	■	博士 (環境学)	■	理工学府MPBL	1・2①～②	2	1	横浜国立大学大学院 工学研究院准教授 (平20.4)	5日
								海洋資源エネルギー工学入門	1・2④～⑤	2	1		
								海洋宇宙システム工学演習A	1①～②・④～⑤	2	2		
								海洋宇宙システム工学演習B	1①～②・④～⑤	2	2		
								海洋空間システムデザイン演習C	2①～②・④～⑤	2	2		
								海洋空間システムデザイン演習D	2①～②・④～⑤	2	2		
								海洋宇宙システム工学学外演習	1・2①・②・③・④・⑤・⑥	2	6		
								海洋宇宙システム工学海外特別研修	1・2①～②・④～⑤	2	2		
								海洋空間実践演習	1・2①～②・④～⑤	4	2		
								海洋宇宙システム工学実践演習	1・2①～②・④～⑤	4	2		
								日伯特別講義 A	1・2①～②	4	1		
								日伯特別講義 B	1・2①～②	2	1		
								日伯特別講義 C	1・2④～⑤	4	1		
								日伯特別講義 D	1・2④～⑤	2	1		
								海洋宇宙システム工学インターンシップL	1・2①～②・④～⑤	4	2		
								海洋宇宙システム工学インターンシップM	1・2①～②・④～⑤	2	2		
								海洋宇宙システム工学インターンシップS	1・2①～②・④～⑤	1	2		
								海洋空間利用スタジオA	1・2①～②・④～⑤	4	2		
								海洋空間利用スタジオB	1・2①～②・④～⑤	4	2		
								海洋空間R&Dスタジオ A	1・2①～②・④～⑤	4	2		
海洋空間R&Dスタジオ B	1・2①～②・④～⑤	4	2										

P 9 調書番号 MA③ (科目追加)																			
新	MA③	専任	准教授	ムライ モトヒコ 村井 基彦 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	理工学府MPBL	1・2①～②	2	1	横浜国立大学大学院 環境情報研究院准教授 (平11.4)	5日						
								浮体運動工学	1・2④～⑤	2	1								
								海洋宇宙システム工学演習A	1①～②・④～⑤	2	2								
								海洋宇宙システム工学演習B	1①～②・④～⑤	2	2								
								海洋空間システムデザイン演習C	2①～②・④～⑤	2	2								
								海洋空間システムデザイン演習D	2①～②・④～⑤	2	2								
								海洋宇宙システム工学学外演習	1・2①・②・③・④・⑤・⑥	2	6								
								海洋宇宙システム工学海外特別研修	1・2①～②・④～⑤	2	2								
								海洋空間実践演習	1・2①～②・④～⑤	4	2								
								海洋宇宙システム工学実践演習	1・2①～②・④～⑤	4	2								
								日伯特別講義 A	1・2①～②	4	1								
								日伯特別講義 B	1・2①～②	2	1								
								日伯特別講義 C	1・2④～⑤	4	1								
								日伯特別講義 D	1・2④～⑤	2	1								
								海洋宇宙システム工学インターンシップL	1・2①～②・④～⑤	4	2								
								海洋宇宙システム工学インターンシップM	1・2①～②・④～⑤	2	2								
								海洋宇宙システム工学インターンシップS	1・2①～②・④～⑤	1	2								
								海洋空間利用スタジオA	1・2①～②・④～⑤	4	2								
								海洋空間利用スタジオB	1・2①～②・④～⑤	4	2								
								マリタイムフロンティアサイエンススタジオA	1・2①～②・④～⑤	4	2								
								マリタイムフロンティアサイエンススタジオB	1・2①～②・④～⑤	4	2								
								海洋空間R&Dスタジオ A	1・2①～②・④～⑤	4	2								
								海洋空間R&Dスタジオ B	1・2①～②・④～⑤	4	2								
								旧	MA41	専任	准教授			ムライ モトヒコ 村井 基彦 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	理工学府MPBL	1・2①～②
浮体運動工学	1・2④～⑤	2	1																
海洋宇宙システム工学演習A	1①～②・④～⑤	2	2																
海洋宇宙システム工学演習B	1①～②・④～⑤	2	2																
海洋空間システムデザイン演習C	2①～②・④～⑤	2	2																
海洋空間システムデザイン演習D	2①～②・④～⑤	2	2																
海洋宇宙システム工学学外演習	1・2①・②・③・④・⑤・⑥	2	6																
海洋宇宙システム工学海外特別研修	1・2①～②・④～⑤	2	2																
海洋空間実践演習	1・2①～②・④～⑤	4	2																
海洋宇宙システム工学実践演習	1・2①～②・④～⑤	4	2																
日伯特別講義 A	1・2①～②	4	1																
日伯特別講義 B	1・2①～②	2	1																
日伯特別講義 C	1・2④～⑤	4	1																
日伯特別講義 D	1・2④～⑤	2	1																
海洋宇宙システム工学インターンシップL	1・2①～②・④～⑤	4	2																
海洋宇宙システム工学インターンシップM	1・2①～②・④～⑤	2	2																
海洋宇宙システム工学インターンシップS	1・2①～②・④～⑤	1	2																
海洋空間利用スタジオA	1・2①～②・④～⑤	4	2																
海洋空間利用スタジオB	1・2①～②・④～⑤	4	2																
海洋空間R&Dスタジオ A	1・2①～②・④～⑤	4	2																
海洋空間R&Dスタジオ B	1・2①～②・④～⑤	4	2																
P 10 調書番号 MA41																			

新	機械・材料・海洋系工学専攻 P15 調書番号 MA④~MA⑩													
	二	MA④	兼任	講師	シモノ マサト 下野 昌人 (平成30年4月)	■	理学博士	■	材料組織計算学	1・2④~⑥	2	1	国立研究開発法人物 質・材料研究機構上 席研究員 (平28.4)	二
								材料工学インターンシップ L	1・2①・②・③・④・⑤・⑥	4	6			
								材料工学インターンシップ M	1・2①・②・③・④・⑤・⑥	2	6			
								材料工学インターンシップ S	1・2①・②・③・④・⑤・⑥	1	6			
	二	MA⑤	兼任	講師	デムラ マサヒロ 出村 雅彦 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	材料組織設計学特論	1・2④~⑥	2	1	国立研究開発法人物 質・材料研究機構中 席研究員 (平29.4)	二
								材料工学インターンシップ L	1・2①・②・③・④・⑤・⑥	4	6			
								材料工学インターンシップ M	1・2①・②・③・④・⑤・⑥	2	6			
							材料工学インターンシップ S	1・2①・②・③・④・⑤・⑥	1	6				
二	MA⑥	兼任	講師	トダ ヨシアキ 戸田 佳明 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	高温構造材料設計工学	1・2④~⑥	2	1	国立研究開発法人科 学技術振興機構技術 工務 (平27.9)	二	
							材料工学インターンシップ L	1・2①・②・③・④・⑤・⑥	4	6				
							材料工学インターンシップ M	1・2①・②・③・④・⑤・⑥	2	6				
							材料工学インターンシップ S	1・2①・②・③・④・⑤・⑥	1	6				
二	MA⑦	兼任	講師	カトウ シュンジ 加藤 俊司 (平成30年4月)	■	工学博士	■	海洋開発工学【隔年】	1・2①~②	2	1	国立研究開発法人海 上・港湾・航空技術 研究所 海上技術安 全研究所 企画部長 兼 命主管 (平28.4)	二	
							海洋空間実践演習	1・2①~②・④~⑤	4	2				
							海洋宇宙システム工学実践演習	1・2①~②・④~⑤	4	2				
							海洋宇宙システム工学インターンシップL	1・2①~②・④~⑤	4	2				
							海洋宇宙システム工学インターンシップM	1・2①~②・④~⑤	2	2				
							海洋宇宙システム工学インターンシップS	1・2①~②・④~⑤	1	2				
二	MA⑧	兼任	講師	フクト シュンジ 福戸 達司 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	海上交通安全工学【隔年】	1・2①~②	2	1	国立研究開発法人海 上・港湾・航空技術 研究所 海上技術 安全研究所 運航・ 物流系系長 (平28.4)	二	
							海洋空間実践演習	1・2①~②・④~⑤	4	2				
							海洋宇宙システム工学実践演習	1・2①~②・④~⑤	4	2				
							海洋宇宙システム工学インターンシップL	1・2①~②・④~⑤	4	2				
							海洋宇宙システム工学インターンシップM	1・2①~②・④~⑤	2	2				
							海洋宇宙システム工学インターンシップS	1・2①~②・④~⑤	1	2				
二	MA⑨	兼任	講師	イトウ (アンドウ) ヒロコ 伊藤 (安藤) 博子 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	海上交通安全工学【隔年】	1・2①~②	2	1	国立研究開発法人海 上・港湾・航空技術 研究所 海上技術 安全研究所 評価リス ク解析研 究グループ長 (平26.4)	二	
							海洋空間実践演習	1・2①~②・④~⑤	4	2				
							海洋宇宙システム工学実践演習	1・2①~②・④~⑤	4	2				
							海洋宇宙システム工学インターンシップL	1・2①~②・④~⑤	4	2				
							海洋宇宙システム工学インターンシップM	1・2①~②・④~⑤	2	2				
							海洋宇宙システム工学インターンシップS	1・2①~②・④~⑤	1	2				
二	MA⑩	兼任	講師	シヨウキ ヒロキ 庄本 裕樹 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	信号理論	1・2④~⑥	2	1	株式会社東芝研究開 発総括部技術企画室 室長 (平27.12)	二	
旧	機械・材料・海洋系工学専攻 新規													

新	化学・生命系理工学専攻 P17 調書番号 MB①~MB③													
	二	MB①	兼任	講師	ムギクラ ヨシヒロ 菱倉 良啓 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	エネルギーバリューチェーンシステム特論	1・2④~⑥	2	1	一般財団法人電力 中央研究所副研究 参事(平28.4)	二
								化学応用・バイオPBL	1・2①~②	2	1			
								化学応用・バイオ演習A	1①~②	2	1			
								化学応用・バイオ演習B	1④~⑤	2	1			
								化学応用・バイオ特別実験	1・2④~⑥	2	1			
								化学応用・バイオ学外実習	1・2①~②	2	1			
								化学応用・バイオインターンシップL	1・2①・②・③・④・⑤・⑥	4	6			
								化学応用・バイオインターンシップM	1・2①・②・③・④・⑤・⑥	2	6			
								化学応用・バイオインターンシップS	1・2①・②・③・④・⑤・⑥	1	6			
	二	MB②	兼任	講師	ヤマモト トオル 山本 融 (平成30年4月)	■	博士(理学)	■	セラミックスエネルギー工学	1・2①~②	2	1	一般財団法人電力 中央研究所上席研 究員 (平20.7)	二
								化学応用・バイオPBL	1・2①~②	2	1			
								化学応用・バイオ演習A	1①~②	2	1			
								化学応用・バイオ演習B	1④~⑤	2	1			
								化学応用・バイオ特別実験	1・2④~⑥	2	1			
								化学応用・バイオ学外実習	1・2①~②	2	1			
							化学応用・バイオインターンシップL	1・2①・②・③・④・⑤・⑥	4	6				
							化学応用・バイオインターンシップM	1・2①・②・③・④・⑤・⑥	2	6				
							化学応用・バイオインターンシップS	1・2①・②・③・④・⑤・⑥	1	6				
二	MB③	兼任	講師	モリタ ヒロシ 森田 寛 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	燃料電池工学	1・2④~⑥	2	1	一般財団法人電力 中央研究所上席研 究員 (平21.7)	二	
							化学応用・バイオPBL	1・2①~②	2	1				
							化学応用・バイオ演習A	1①~②	2	1				
							化学応用・バイオ演習B	1④~⑤	2	1				
							化学応用・バイオ特別実験	1・2④~⑥	2	1				
							化学応用・バイオ学外実習	1・2①~②	2	1				
							化学応用・バイオインターンシップL	1・2①・②・③・④・⑤・⑥	4	6				
							化学応用・バイオインターンシップM	1・2①・②・③・④・⑤・⑥	2	6				
							化学応用・バイオインターンシップS	1・2①・②・③・④・⑤・⑥	1	6				
二	MB④	兼任	講師	シヨウキ ヒロキ 庄本 裕樹 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	信号理論	1・2④~⑥	2	1	株式会社東芝研究開 発総括部技術企画 室参事 (平27.12)	二	

旧	化学・生命系理工学専攻
	新規

新	数物・電子情報系理工学専攻 P 2 1 調書番号 MC①~MC③													
	ニ	MC①	兼任	講師	シヨウキ ヒロキ 庄木 裕樹 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	信号理論	1・2④~⑤	2	1	株式会社東芝研究開発統括部技術企画室室長 (平27.12)	ニ
	ニ	MC②	兼任	講師	ツジ ヒロユキ 辻 宏之 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	マルチメディア移動通信 電気電子ネットワーク学外研修 情報システム学外研修 応用物理学外研修 電気電子ネットワーク海外インターンシップ 電気電子ネットワーク海外インターンシップ 電気電子ネットワーク海外インターンシップ 情報システム海外インターンシップ 情報システム海外インターンシップ 情報システム海外インターンシップ 応用物理海外インターンシップ 応用物理海外インターンシップ 応用物理海外インターンシップ	1・2④~⑤ 1・2①~② 1・2①~② 1・2①~② 1・2①~②・④~⑤ 1・2①~②・④~⑤ 1・2①~②・④~⑤ 1・2①~②・④~⑤ 1・2①~②・④~⑤ 1・2①~②・④~⑤ 1・2①~②・④~⑤ 1・2①~②・④~⑤	2 2 2 2 4 2 1 4 2 1 4 2 1	1 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2	国立研究開発法人情報通信研究機構 プランニングマネージャー (平29.1)	ニ
	ニ	MC③	兼任	講師	ワタナベ ソウイチ 渡邊 聡一 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	情報通信インフラストラクチャ	1・2①~②	2	1	国立研究開発法人情報通信研究機構 研究マネージャー (平27.4)	ニ
旧	数物・電子情報系理工学専攻													
	新規													

(新旧対照表) 教員の氏名等 (別記様式第3号 (その2の1))

大学院理工学府博士課程後期

新	機械・材料・海洋系工学専攻 調書番号 DA18~DA20 削除 調書番号 DA41~DA43 削除													
	機械・材料・海洋系工学専攻 P 3 調書番号 DA18~DA20													
	DA18	専任	教授	カトウ シュンジ 加藤 俊司 (平成30年4月)	■	工学博士	■	海洋宇宙システム工学特別演習 海洋開発工学特論 海洋宇宙システム工学特別研究 海洋宇宙システム工学教育研修 海洋宇宙システム工学外研修 海洋宇宙システム工学国際インターンシップ サブ・リサーチ海洋宇宙システム工学演習	1・2・3①~②・④~⑤ 1・2・3①~② 1・2・3①~②・④~⑤ 1・2・3①~②・④~⑤ 1・2・3①~②・④~⑤ 1・2・3①~②・④~⑤ 1・2・3①~②・④~⑤	3 2 2 1 1 1 4	2 1 2 2 2 2	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所 企画部 特命主管 (昭56.4) 国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所 企画部 特命主管 (昭56.4)	5日	
	DA19	専任	教授	シモノ マサト 下野 昌人 (平成30年4月)	■	理学博士	■	材料工学特別演習 材料工学教育研修 材料工学外研修 材料工学特別研究 材料組織設計工学特論 材料工学国際インターンシップ サブ・リサーチ材料工学演習	1・2・3①~②・④~⑤ 1・2・3①~②・④~⑤ 1・2・3①~②・④~⑤ 1・2・3①~②・④~⑤ 1・2④~⑤ 1・2・3①~②・④~⑤ 1・2・3①~②・④~⑤	3 1 1 2 2 1 4	2 2 2 2 1 2	国立研究開発法人物質・材料研究機構上席研究員 (平7.4) 国立研究開発法人物質・材料研究機構上席研究員 (平7.4)	5日	
	DA20	専任	教授	フクト ジュンジ 福戸 淳司 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	海洋宇宙システム工学特別演習 海上交通安全工学特論※ 海洋宇宙システム工学特別研究 海洋宇宙システム工学教育研修 海洋宇宙システム工学外研修 海洋宇宙システム工学国際インターンシップ サブ・リサーチ海洋宇宙システム工学演習	1・2・3①~②・④~⑤ 1・2・3④~⑤ 1・2・3①~②・④~⑤ 1・2・3①~②・④~⑤ 1・2・3①~②・④~⑤ 1・2・3①~②・④~⑤ 1・2・3①~②・④~⑤	3 1 2 2 1 1 4	2 1 2 2 2 2	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所 運輸・物流系系長 (昭61.4) 国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所 運輸・物流系系長 (昭61.4)	5日	
旧	P 6 調書番号 DA41~DA43													
		DA41	専任	准教授	イトウ (アンドウ) ヒロコ 伊藤 (安藤) 博子 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	海洋宇宙システム工学特別演習 海上交通安全工学特論※ 海洋宇宙システム工学特別研究 海洋宇宙システム工学教育研修 海洋宇宙システム工学外研修 海洋宇宙システム工学国際インターンシップ サブ・リサーチ海洋宇宙システム工学演習	1・2・3①~②・④~⑤ 1・2・3④~⑤ 1・2・3①~②・④~⑤ 1・2・3①~②・④~⑤ 1・2・3①~②・④~⑤ 1・2・3①~②・④~⑤ 1・2・3①~②・④~⑤	3 1 2 1 1 1 4	2 1 2 2 2 2	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所 海洋リスク評価系リスク解析研究グループ長 (平13.4) 国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所 海洋リスク評価系リスク解析研究グループ長 (平13.4)	5日
		DA42	専任	准教授	デムラ マサヒコ 出村 雅彦 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	材料工学特別演習 材料工学教育研修 材料工学外研修 材料工学特別研究 材料組織設計工学特論 材料工学国際インターンシップ サブ・リサーチ材料工学演習	1・2・3①~②・④~⑤ 1・2・3①~②・④~⑤ 1・2・3①~②・④~⑤ 1・2・3①~②・④~⑤ 1・2④~⑤ 1・2・3①~②・④~⑤ 1・2・3①~②・④~⑤	3 1 1 2 2 1 4	2 2 2 2 1 2	国立研究開発法人物質・材料研究機構定年制研究職 (平7.4) 国立研究開発法人物質・材料研究機構定年制研究職 (平7.4)	5日
		DA43	専任	准教授	トダ ヨシアキ 戸田 佳明 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	材料工学特別演習 材料工学教育研修 材料工学外研修 材料工学特別研究 高温構造材料設計工学特論 材料工学国際インターンシップ サブ・リサーチ材料工学演習	1・2・3①~②・④~⑤ 1・2・3①~②・④~⑤ 1・2・3①~②・④~⑤ 1・2・3①~②・④~⑤ 1・2④~⑤ 1・2・3①~②・④~⑤ 1・2・3①~②・④~⑤	3 1 1 2 2 1 4	2 2 2 2 1 2	国立研究開発法人物質・材料研究機構主任研究員 (平12.4) 国立研究開発法人物質・材料研究機構主任研究員 (平12.4)	5日
新	化学・生命系理工学専攻 調書番号 DB16~DB17 削除 調書番号 DB36 削除													

化学・生命系理工学専攻 P 3 調書番号 DB16~DB17													
旧	DB16	専任	教授	ムギクラ ヨシヒロ 麦倉 良啓 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	エネルギーバイオ・エレクトロニクス系特論【隔年】	1・2・3①~②	2	1	一般財団法人電力 中央研究所副研究 参事 (昭61.4)	5日
								化学応用・バイオ特別演習	1・2・3①~②・④~⑤	3	2		
								化学応用・バイオ教育研修	1・2・3①~②・④~⑤	1	2		
								化学応用・バイオ学外研修	1・2・3①~②・④~⑤	1	2		
								化学応用・バイオ特別研究	1・2・3①~②・④~⑤	2	2		
								化学応用・バイオ国際インターンシップ	1・2・3①・②・③・④・⑤・⑥	1	6		
	化学・生命系PD国際インターンシップ	1・2・3①・②・③・④・⑤・⑥	1	6									
	DB17	専任	教授	ヤマモト トオル 山本 融 (平成30年4月)	■	博士(理学)	■	エネルギー系材料科学【隔年】	1・2・3④~⑤	2	1	一般財団法人電力 中央研究所上席研 究員 (平5.4)	5日
								化学応用・バイオ特別演習	1・2・3①~②・④~⑤	3	2		
								化学応用・バイオ教育研修	1・2・3①~②・④~⑤	1	2		
								化学応用・バイオ学外研修	1・2・3①~②・④~⑤	1	2		
								化学応用・バイオ特別研究	1・2・3①~②・④~⑤	2	2		
								化学応用・バイオ国際インターンシップ	1・2・3①・②・③・④・⑤・⑥	1	6		
	化学・生命系PD国際インターンシップ	1・2・3①・②・③・④・⑤・⑥	1	6									
P 7 調書番号 DB36													
DB36	専任	准教授	モリタ ヒロシ 森田 寛 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	エネルギー変換プロセス【隔年】	1・2・3①~②	2	1	一般財団法人電力 中央研究所上席研 究員 (平4.4)	5日	
							化学応用・バイオ特別演習	1・2・3①~②・④~⑤	3	2			
							化学応用・バイオ教育研修	1・2・3①~②・④~⑤	1	2			
							化学応用・バイオ学外研修	1・2・3①~②・④~⑤	1	2			
							化学応用・バイオ特別研究	1・2・3①~②・④~⑤	2	2			
							化学応用・バイオ国際インターンシップ	1・2・3①・②・③・④・⑤・⑥	1	6			
							化学・生命系PD国際インターンシップ	1・2・3①・②・③・④・⑤・⑥	1	6			

数物・電子情報系理工学専攻 調書番号 DC22~DC24 削除													
数物・電子情報系理工学専攻 P 9~10 調書番号 DC22~DC24													
旧	DC22	専任	教授	ショウキ ヒロキ 庄本 裕樹 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	電気電子ネットワーク演習	1・2・3④~⑤	1	1	株式会社東芝研究 開発統括部技術企 画室参事 (昭59.4)	5日
								電気電子ネットワーク教育研修	1・2・3④~⑤	1	1		
								電気電子ネットワーク学外研修	1・2・3④~⑤	1	1		
								電気電子ネットワーク特別研究	1・2・3④~⑤	2	1		
								電気電子ネットワーク特別演習	1・2・3①~②・④~⑤	3	2		
								電気電子ネットワークコロキウムⅠS	①~②	1	1		
								電気電子ネットワークコロキウムⅠS	2①~②	1	1		
								電気電子ネットワークコロキウムⅠS	3①~②	1	1		
								電気電子ネットワークコロキウムⅠF	④~⑤	1	1		
								電気電子ネットワークコロキウムⅠF	2④~⑤	1	1		
								電気電子ネットワークコロキウムⅠF	3④~⑤	1	1		
								電気電子ネットワーク国際インターンシップ	1・2・3①~②・④~⑤	1	2		
								情報システム演習	1・2・3④~⑤	1	1		
								情報システム教育研修	1・2・3④~⑤	1	1		
								情報システム学外研修	1・2・3④~⑤	1	1		
								情報システム特別研究	1・2・3④~⑤	2	1		
								情報システム特別演習	1・2・3①~②・④~⑤	3	2		
								情報システムコロキウムⅢ-1S	①~②	1	1		
								情報システムコロキウムⅢ-2S	2①~②	1	1		
								情報システムコロキウムⅢ-3S	3①~②	1	1		
								情報システムコロキウムⅢ-1F	④~⑤	1	1		
								情報システムコロキウムⅢ-2F	2④~⑤	1	1		
								情報システムコロキウムⅢ-3F	3④~⑤	1	1		
								情報システム国際インターンシップ	1・2・3①~②・④~⑤	1	2		
								応用物理演習	1・2・3④~⑤	1	1		
								応用物理教育研修	1・2・3④~⑤	1	1		
								応用物理学外研修	1・2・3④~⑤	1	1		
								応用物理特別研究	1・2・3④~⑤	2	1		
								応用物理特別演習	1・2・3①~②・④~⑤	3	2		
								応用物理コロキウムⅢ-1S	①~②	1	1		
								応用物理コロキウムⅢ-2S	2①~②	1	1		
								応用物理コロキウムⅢ-3S	3①~②	1	1		
応用物理コロキウムⅢ-1F	④~⑤	1	1										
応用物理コロキウムⅢ-2F	2④~⑤	1	1										
応用物理コロキウムⅢ-3F	3④~⑤	1	1										
応用物理国際インターンシップ	1・2・3①・②・③・④・⑤・⑥	1	6										

DC23	専任	教授	ツジ ヒロユキ 辻 宏之 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	マルチメディア移動通信技術【国研】	1・2・3④～⑤	2	1	国立研究開発法人 情報通信研究機構 ブラジニングマ ネージャー (平4.4)	5日
							電気電子ネットワーク演習	1・2・3④～⑤	1	1		
							電気電子ネットワーク教育研修	1・2・3④～⑤	1	1		
							電気電子ネットワーク学外研修	1・2・3④～⑤	1	1		
							電気電子ネットワーク特別研究	1・2・3④～⑤	2	1		
							電気電子ネットワーク特別演習	1・2・3①～②・④～⑤	3	2		
							電気電子ネットワークコロキウムⅢ-1S	1①～②	1	1		
							電気電子ネットワークコロキウムⅢ-2S	2①～②	1	1		
							電気電子ネットワークコロキウムⅢ-3S	3①～②	1	1		
							電気電子ネットワークコロキウムⅢ-1F	1④～⑤	1	1		
							電気電子ネットワークコロキウムⅢ-2F	2④～⑤	1	1		
							電気電子ネットワークコロキウムⅢ-3F	3④～⑤	1	1		
							電気電子ネットワーク国際インターンシップ	1・2・3①～②・④～⑤	1	2		
							情報システム演習	1・2・3④～⑤	1	1		
							情報システム教育研修	1・2・3④～⑤	1	1		
							情報システム学外研修	1・2・3④～⑤	1	1		
							情報システム特別研究	1・2・3④～⑤	2	1		
							情報システム特別演習	1・2・3①～②・④～⑤	3	2		
							情報システムコロキウムⅢ-1S	1①～②	1	1		
							情報システムコロキウムⅢ-2S	2①～②	1	1		
							情報システムコロキウムⅢ-3S	3①～②	1	1		
							情報システムコロキウムⅢ-1F	1④～⑤	1	1		
							情報システムコロキウムⅢ-2F	2④～⑤	1	1		
							情報システムコロキウムⅢ-3F	3④～⑤	1	1		
							情報システム国際インターンシップ	1・2・3①～②・④～⑤	1	2		
							応用物理演習	1・2・3④～⑤	1	1		
							応用物理教育研修	1・2・3④～⑤	1	1		
							応用物理学外研修	1・2・3④～⑤	1	1		
							応用物理特別研究	1・2・3④～⑤	2	1		
							応用物理特別演習	1・2・3①～②・④～⑤	3	2		
							応用物理コロキウムⅢ-1S	1①～②	1	1		
							応用物理コロキウムⅢ-2S	2①～②	1	1		
							応用物理コロキウムⅢ-3S	3①～②	1	1		
							応用物理コロキウムⅢ-1F	1④～⑤	1	1		
							応用物理コロキウムⅢ-2F	2④～⑤	1	1		
							応用物理コロキウムⅢ-3F	3④～⑤	1	1		
							応用物理国際インターンシップ	1・2・3①～②・④～⑤・⑥	1	6		
DC24	専任	教授	ワタナベ ソウイチ 渡邊 聡一 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	システム設計実習	1・2・3④～⑤	4	1	国立研究開発法人情報通信 研究機構研究マネージャー (平27.4)	5日
											国立研究開発法人情報通信 研究機構研究マネージャー (平27.4)	

新	機械・材料・海洋系工学専攻 P 5～6 調書番号 DA①～DA⑥												
	DA①	兼任	講師	シモノ マサト 下野 昌人 (平成30年4月)	■	理学博士	■	材料工学教育研修 材料工学学外研修 材料工学特別研究 材料組織計算工学特論 材料工学国際インターンシップ	1・2・3①～②・④～⑤ 1・2・3①～②・④～⑤ 1・2・3①～②・④～⑤ 1・2④～⑤ 1・2・3①～②・④～⑤	1 1 2 2 1	2 2 2 1 2	国立研究開発法人物産・材料研究機構構上層研究員 (平28.4)	＝
	DA②	兼任	講師	デムラ マサヒロ 出村 雅彦 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	材料工学教育研修 材料工学学外研修 材料工学特別研究 材料組織設計工学特論 材料工学国際インターンシップ	1・2・3①～②・④～⑤ 1・2・3①～②・④～⑤ 1・2・3①～②・④～⑤ 1・2④～⑤ 1・2・3①～②・④～⑤	1 1 2 2 1	2 2 2 1 2	国立研究開発法人物産・材料研究機構構定年制研究員 (平29.4)	＝
	DA③	兼任	講師	トダ ヨシアキ 戸田 佳明 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	材料工学教育研修 材料工学学外研修 材料工学特別研究 高温構造材料設計工学特論 材料工学国際インターンシップ	1・2・3①～②・④～⑤ 1・2・3①～②・④～⑤ 1・2・3①～②・④～⑤ 1・2④～⑤ 1・2・3①～②・④～⑤	1 1 2 2 1	2 2 2 1 2	国立研究開発法人科学技術振興機構技術士登 (平27.9)	＝
	DA④	兼任	講師	カトウ シュンジ 加藤 俊司 (平成30年4月)	■	工学博士	■	海洋宇宙システム工学特別研究 海洋宇宙システム工学教育研修 海洋宇宙システム工学学外研修 海洋宇宙システム工学国際インターンシップ	1・2・3①～② 1・2・3①～②・④～⑤ 1・2・3①～②・④～⑤ 1・2・3①～②・④～⑤	2 2 1 1	1 2 2 2	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所 企画課 特命主査 (平28.4)	＝
	DA⑤	兼任	講師	フクト ジュンジ 福戸 淳司 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	海上交通安全工学特論※ 海洋宇宙システム工学特別研究 海洋宇宙システム工学教育研修 海洋宇宙システム工学学外研修 海洋宇宙システム工学国際インターンシップ	1・2・3④～⑤ 1・2・3①～②・④～⑤ 1・2・3①～②・④～⑤ 1・2・3①～②・④～⑤ 1・2・3①～②・④～⑤	1 2 1 1 1	1 2 2 2 2	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所 運輸・物資系系長 (平28.4)	＝
DA⑥	兼任	講師	イトウ (アンドウ) とらこ 伊藤 (安藤) 博子 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	海上交通安全工学特論※ 海洋宇宙システム工学特別研究 海洋宇宙システム工学教育研修 海洋宇宙システム工学学外研修 海洋宇宙システム工学国際インターンシップ	1・2・3④～⑤ 1・2・3①～②・④～⑤ 1・2・3①～②・④～⑤ 1・2・3①～②・④～⑤ 1・2・3①～②・④～⑤	1 2 1 1 1	1 2 2 2 2	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所 海運システム群係長 (平26.4)	＝	
旧	機械・材料・海洋系工学専攻 新規												

新	化学・生命系理工学専攻 P 7 調書番号 DB①～DB③												
	DB①	兼任	講師	ムギクラ ヨシヒロ 表倉 良啓 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	エネルギー変換プロセス【旧年】 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオ国際インターンシップ 化学・生命系国際インターンシップ	1・2・3①～② 1・2・3①～②・④～⑤ 1・2・3①～②・④～⑤ 1・2・3①～②・④～⑤ 1・2・3①～②・④～⑤ 1・2・3①～②・④～⑤	2 1 1 2 1 1	1 2 2 2 6 6	一般財団法人電力中央研究所 所員研究員 (平28.4)	＝
	DB②	兼任	講師	ヤマモト トオル 山本 融 (平成30年4月)	■	博士(理学)	■	エネルギー変換プロセス【旧年】 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオ国際インターンシップ 化学・生命系国際インターンシップ	1・2・3④～⑤ 1・2・3①～②・④～⑤ 1・2・3①～②・④～⑤ 1・2・3①～②・④～⑤ 1・2・3①～②・④～⑤ 1・2・3①～②・④～⑤	2 1 1 2 1 1	1 2 2 2 6 6	一般財団法人電力中央研究所 所員研究員 (平20.7)	＝
	DB③	兼任	講師	モリタ セロシ 森田 寛 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	エネルギー変換プロセス【旧年】 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオ国際インターンシップ 化学・生命系国際インターンシップ	1・2・3①～② 1・2・3①～②・④～⑤ 1・2・3①～②・④～⑤ 1・2・3①～②・④～⑤ 1・2・3①～②・④～⑤ 1・2・3①～②・④～⑤	2 1 1 2 1 1	1 2 2 2 6 6	一般財団法人電力中央研究所 所員研究員 (平21.7)	＝
	旧	化学・生命系理工学専攻 新規											

新	数物・電子情報系理工学専攻 P17 調書番号 DC①～DC②									
---	-----------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

旧	DC①	兼任	講師	シヨウキ ヒロキ 庄本 裕樹 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	電気電子ネットワーク演習	1・2・3④～⑤	1	1	株式会社東芝研究開発統括部技術企画室 参事 (平成27.12)	二
								電気電子ネットワーク教育研修	1・2・3④～⑤	1	1		
								電気電子ネットワーク学外研修	1・2・3④～⑤	1	1		
								電気電子ネットワーク特別研究	1・2・3④～⑤	2	1		
								電気電子ネットワークコロキウム1S	1①～②	1	1		
								電気電子ネットワークコロキウム2S	2①～②	1	1		
								電気電子ネットワークコロキウム3S	3①～②	1	1		
								電気電子ネットワークコロキウム1F	1④～⑤	1	1		
								電気電子ネットワークコロキウム2F	2④～⑤	1	1		
								電気電子ネットワークコロキウム3F	3④～⑤	1	1		
								電気電子ネットワーク国際インターンシップ	1・2・3①～②・④～⑤	1	2		
								情報システム演習	1・2・3④～⑤	1	1		
								情報システム教育研修	1・2・3④～⑤	1	1		
								情報システム学外研修	1・2・3④～⑤	1	1		
								情報システム特別研究	1・2・3④～⑤	2	1		
								情報システムコロキウムIII-1S	1①～②	1	1		
								情報システムコロキウムIII-2S	2①～②	1	1		
								情報システムコロキウムIII-3S	3①～②	1	1		
								情報システムコロキウムIII-1F	1④～⑤	1	1		
								情報システムコロキウムIII-2F	2④～⑤	1	1		
								情報システムコロキウムIII-3F	3④～⑤	1	1		
								応用物理演習	1・2・3④～⑤	1	1		
								応用物理教育研修	1・2・3④～⑤	1	1		
								応用物理学外研修	1・2・3④～⑤	1	1		
								応用物理特別研究	1・2・3④～⑤	2	1		
								応用物理コロキウムIII-1S	1①～②	1	1		
								応用物理コロキウムIII-2S	2①～②	1	1		
								応用物理コロキウムIII-3S	3①～②	1	1		
								応用物理コロキウムIII-1F	1④～⑤	1	1		
								応用物理コロキウムIII-2F	2④～⑤	1	1		
								応用物理コロキウムIII-3F	3④～⑤	1	1		
								応用物理国際インターンシップ	1・2・3①～②・④～⑤	1	2		
	DC②	兼任	講師	ツジ ヒロユキ 辻 宏之 (平成30年4月)	■	博士(工学)	■	マルチメディア移動通信特論【毎年】	1・2・3④～⑤	2	1	国立研究開発法人情報通信研究機構プラシニングマネージャ 二 (平成29.1)	二
								電気電子ネットワーク演習	1・2・3④～⑤	1	1		
								電気電子ネットワーク教育研修	1・2・3④～⑤	1	1		
								電気電子ネットワーク学外研修	1・2・3④～⑤	1	1		
								電気電子ネットワーク特別研究	1・2・3④～⑤	2	1		
								電気電子ネットワークコロキウム1S	1①～②	1	1		
								電気電子ネットワークコロキウム2S	2①～②	1	1		
								電気電子ネットワークコロキウム3S	3①～②	1	1		
								電気電子ネットワークコロキウム1F	1④～⑤	1	1		
								電気電子ネットワークコロキウム2F	2④～⑤	1	1		
								電気電子ネットワークコロキウム3F	3④～⑤	1	1		
								電気電子ネットワーク国際インターンシップ	1・2・3①～②・④～⑤	1	2		
								情報システム演習	1・2・3④～⑤	1	1		
								情報システム教育研修	1・2・3④～⑤	1	1		
								情報システム学外研修	1・2・3④～⑤	1	1		
								情報システム特別研究	1・2・3④～⑤	2	1		
								情報システムコロキウムIII-1S	1①～②	1	1		
								情報システムコロキウムIII-2S	2①～②	1	1		
								情報システムコロキウムIII-3S	3①～②	1	1		
								情報システムコロキウムIII-1F	1④～⑤	1	1		
								情報システムコロキウムIII-2F	2④～⑤	1	1		
								情報システムコロキウムIII-3F	3④～⑤	1	1		
								情報システム国際インターンシップ	1・2・3①～②・④～⑤	1	2		
								応用物理演習	1・2・3④～⑤	1	1		
								応用物理教育研修	1・2・3④～⑤	1	1		
								応用物理学外研修	1・2・3④～⑤	1	1		
								応用物理特別研究	1・2・3④～⑤	2	1		
								応用物理コロキウムIII-1S	1①～②	1	1		
								応用物理コロキウムIII-2S	2①～②	1	1		
								応用物理コロキウムIII-3S	3①～②	1	1		
								応用物理コロキウムIII-1F	1④～⑤	1	1		
								応用物理コロキウムIII-2F	2④～⑤	1	1		
								応用物理コロキウムIII-3F	3④～⑤	1	1		
								応用物理国際インターンシップ	1・2・3①～②・④～⑤	1	2		